

A d v a n c e C A D

# リリース・ノート

---

**Advance CAD software version 20**

リリース・ノート

Advance CAD software vesion 20

2012 年 11 月 2 日 第 1 版

Copyright © 1986-2012 伊藤忠テクノソリューションズ株式会社  
〒 141-8522 東京都品川区大崎 1-2-2 アートヴィレッジ大崎 セントラルタワー

本書の内容の一部または全部を無断転載することを禁止します。  
本書の内容に関しては将来予告無しに変更することがあります。  
本書は将来の開発による変更を前提としています。本書は現時点でできる限り正確に記述するよう心がけました。しかし弊社は提供した資料に基づくいかなる損害の責任も負いません。また将来の開発により生ずる変更によるいかなる損害についても責任を負いません。

Solaris, OpenWindows, NFS は、米国における米国 Oracle 社の商標または登録商標です。  
SPARC は、米国における米国 SPARC International, Inc. の商標です。  
UNIX は、米国 X/Open Company Ltd. が独占的な使用許諾を有する米国登録商標です。  
MS, MS-DOS, Windows, Windows NT, Windows 2000, Windows XP, Windows Vista, Windows 7, Visual C++ および Microsoft は Microsoft Corporation の商標または登録商標です。  
SolidWorks および SolidWorks のロゴは SolidWorks 社の登録商標です。  
FlexNet Publisher は FLEXERA SOFTWARE 社の登録商標です。  
libtiff の著作権は以下のとおりです。  
Copyright (c) 1988-1996 Sam Leffler  
Copyright (c) 1991-1996 Silicon Graphics, Inc.  
各会社名、各製品名は各社の商標または登録商標です。

## はじめに

本書は、Advance CAD バージョン 20 の変更点について記述したものです。

第 1 章	バージョン 20 の動作環境を説明します。
第 2 章	変更点の詳細を説明します。
第 3 章	バージョン 19 リリース以降の不具合修正を説明します。

### ● 技術的なお問い合わせ先

Advance CAD の技術的なご質問は下記で受付けております。  
Advance CAD ソフトウェア保守契約に加入されているお客様に限らせていただきます。

----- Advance CAD ホットラインサービス -----  
電話番号 : 03-5434-0095  
FAX 番号 : 03-5434-0056  
E-mail : [acad\\_support@ctc-g.co.jp](mailto:acad_support@ctc-g.co.jp)  
----- 受付時間 : 平日 9:00 ~ 17:30 -----





# 目次

第 1 章 動作環境 .....	1
1.1 Windows 版 .....	1
1.2 ライセンスマネージャ .....	1
1.3 旧バージョンの修正版リリースについて .....	1
1.4 Solaris 版、Linux 版 .....	1
第 2 章 新機能 .....	3
2.1 主な変更点 .....	3
2.1.1 SXF 変換 .....	3
2.1.2 DXF 変換 .....	3
2.1.3 注釈の編集 .....	4
2.1.4 プログラミングインターフェース .....	4
2.1.5 削除したツール .....	4
2.2 基本機能 .....	5
2.2.1 タイトルバーに読み取り専用であることを明示する .....	5
2.2.2 ビューポートにピクチャ番号を表示する .....	5
2.2.3 図面配置ページに作図したアイテムを確認する .....	6
2.2.4 ウィンドウの最大化 (Windows 版) .....	6
2.2.5 ウィンドウがタスクバーに隠れないように (Windows 版) .....	6
2.2.6 ウィンドウの幅か高さの一方だけを変更 (Windows 版) .....	7
2.2.7 指定ウィンドウサイズで起動 (Windows 版) .....	7
2.2.8 フルサイズのウィンドウで起動 (Windows 版) .....	7
2.2.9 メッセージ領域の背景色 .....	8
2.2.10 Advancd CAD 実行中のログオフ処理 (Windows 版) .....	9
2.3 汎用割込みコマンド .....	11
2.3.1 ベリファイ時にアイテム名で指示する .....	11
2.3.2 複数のビューポートを持つ SLO だけを一覧図に表示 .....	11
2.3.3 ズームコマンドを終了しないでアクティブビューポートを切り替える .....	12
2.4 図形アイテム .....	13
2.4.1 角度分割線の作図位置 .....	13
2.4.2 陰線処理 外側破線で線幅 1 .....	13
2.4.3 陰線処理 中心線を消去しない .....	13
2.4.4 陰線処理 内側破線 (線幅継承) を 1 操作で指示する .....	13
2.4.5 陰線処理 文字列・寸法値と重なる作図線を消去する .....	14
2.4.6 カーブ併合 結果をハイライト表示 .....	16
2.5 製図アイテム .....	17
2.5.1 文字高さ JIS Z8313 1998 年改定版に準拠 .....	17
2.5.2 注釈の分割および統合 .....	18
2.5.3 重複している注釈を削除する .....	19
2.5.4 注記や寸法値に打消し線を入れる .....	21
2.5.5 注記に二重下線を入れる .....	22
2.5.6 切断線ラベル位置のメニュー表現 .....	23
2.5.7 切断線 水平/垂直拘束 .....	24
2.5.8 複合アイテム内の楕円に円中心線を入れる .....	25
2.5.9 製図要素一括修正のアイテム数 .....	25
2.5.10 寸法値が丸められたことを通知 .....	25
2.5.11 指定した寸法補助線を移動する .....	26
2.5.12 半径寸法の内側引出し線を円中心まで伸ばす .....	26
2.5.13 半径寸法の引出し線を修正する .....	27
2.5.14 小半径の円弧への半径寸法の移動 .....	27
2.5.15 半径寸法のラバーバンド .....	28
2.6 結合アイテム .....	29

## 目次

2.6.1 サブモデルリスト 現ピクチャの配置数を表示する	29
2.6.2 サブモデル更新情報表示 元ピクチャ番号を表示する	29
2.6.3 サブモデル更新情報表示 ピクチャ参照を表示	29
2.7 アイテムの編集	31
2.7.1 ピクチャ指定をコマンドが終了するまで保持する	31
2.7.2 伸縮方向を水平／垂直拘束する	31
2.8 モデル	33
2.8.1 最近使用したモデル一覧から選択	33
2.8.2 モデル表示で <SP> や <BS> で前後のモデルを表示する	33
2.9 図面配置と図面出力	37
2.9.1 インプレースエディット中にウインドウ枠を表示する	37
2.9.2 コピー印刷で図面枠を使用する	37
2.9.3 ピクチャ番号を左下に印刷	40
2.10 その他の機能	43
2.10.1 カーブ合成で基準アイテムをハイライト表示する	43
2.10.2 カーブ合成で基準アイテムを矩形領域で選択する	43
2.10.3 ラスター背景をファイル名で削除する	43
2.10.4 Advance CAD の画面だけのイメージ	44
2.11 定数設定	47
2.11.1 最近使用したモデルの表示数	47
2.11.2 縮尺設定でピクチャを範囲で指定する	47
2.12 ユーティリティ	49
2.12.1 属性付加機構に対応してほしい	49
2.12.2 確認機能に対応してほしい	62
2.12.3 モデルダウンコンバータ	70
2.12.4 モデルダウンコンバータ (ダイアログ版)	71
2.12.5 APG を一覧図から選択する	71
2.12.6 APG ファイル変更	72
2.12.7 APG 注記のレビジョン	72
2.12.8 APG 配置 CLSOFs	73
2.12.9 配置済みのパーツをピックしてサイズを指定する	74
2.12.10 パーツサイズ変更の結果をテンポラリ図形で表示する	74
2.12.11 複合アイテム内のパーツを参照する	75
2.12.12 モデル変更の有無を取得／設定する	75
2.13 システム管理者向けの機能	77
2.13.1 ドローイングモードの背景色	77
2.14 オプションソフト	79
2.14.1 Auto CAD 2010 に対応してほしい	79
2.14.2 一覧図でピクチャを指定したい	79
2.14.3 文字の変換精度を上げてほしい	79
2.14.4 図形属性 (レイヤ・線種・線幅・色) を自動変換してほしい	80
2.14.5 SolidWorks ヘスケッチ転送 幾何拘束	95
2.14.6 SolidWorks ヘスケッチ転送 寸法	95
2.14.7 ACADWorks 設定方法改善	95
2.15 モデルビューアー	97
2.15.1 ACADViewer (Java)	97
2.15.2 AcadAX (ActiveX)	97
<b>第 3 章 不具合修正</b>	<b>99</b>
3.1 基本機能	99
3.1.1 モデル一覧でモデルタイトルが表示されない	99
3.1.2 バッチモードで異常終了 (Solaris 版、Linux 版のみ)	99
3.1.3 TrueTypeFont の空白文字の幅	99
3.1.4 表示中にフリーズしたように感じる	100

3.1.5	クロスヘアカーソルの残像が残る	100
3.1.6	半角カナが化ける	100
3.1.7	起動時の背景色が正しくない	100
3.1.8	円弧の一部を拡大表示すると存在しない線も描画	101
3.2	汎用割込みコマンド	103
3.2.1	塗りつぶしが表示されない (Solaris 版、Linux 版のみ)	103
3.2.2	書体一覧ダイアログで書体番号が変更できない (Windows 版のみ)	103
3.2.3	文章呼び出しダイアログで行末に改行が入る (Windows 版のみ)	103
3.2.4	レジスタ値をコマンドに渡せない	103
3.2.5	メジャーで座標入力を受け付けない	104
3.2.6	メジャー面積	104
3.2.7	2次モーメントが不正な値	104
3.2.8	APG アイテムの配置角度レジスタ	104
3.2.9	属性変更で異常終了する	105
3.2.10	アイテム選択マスク設定でログが消える	105
3.2.11	ペン割付ができない	105
3.2.12	テンポラリアイテム選択マスクが ALL になる	105
3.2.13	「テンポラリポイント中心点」で楕円の中心点を得られない	106
3.2.14	「テンポラリポイント特徴点」で線分の中点を得られない	106
3.3	図形アイテム	107
3.3.1	陰線処理の内側破線で範囲線上の線の線種が正しくない	107
3.3.2	陰線処理の外側破線の線幅が不安定	107
3.3.3	重複削除で非表示部分が表示に変わる	107
3.3.4	サブモデル内の線分をトリムできない	107
3.3.5	中抜きのある曲線のオフセットに誤り	108
3.3.6	サブモデルに挿入したフィレットが消える	108
3.3.7	フィレットが作成できない	108
3.3.8	中抜きトリムの中抜き位置が正しくない	108
3.3.9	クリップ領域が交差する	109
3.3.10	トリム連続でテンポラリアイテムを確定するとコマンドが終了する	109
3.3.11	円のトリム	109
3.3.12	敷き写し	110
3.3.13	アイテム分解で非表示アイテムが画面に残る	110
3.3.14	オフセット距離 0 で曲線セグメントの複製ができない	110
3.3.15	ベクトル点 二番目以降の点が誤り	110
3.3.16	カーブアイテム分割で異常終了	111
3.3.17	カーブアイテム分割で分割したアイテムが消滅	111
3.3.18	ベクトルコマンドで異常終了	111
3.3.19	距離 0 でオフセット：アイテムタイプが変わる	112
3.3.20	長さがきわめて短い接円弧	112
3.3.21	クリッピングコマンドで異常終了	112
3.4	製図アイテム	113
3.4.1	文字列修正で文字列が選択できない	113
3.4.2	製図要素一括修正で文字列の位置が移動する	113
3.4.3	寸法値変更で半角カナの文字がなくなる	113
3.4.4	製図要素一括修正、トリム：キャンセルキーで変更が確定する	113
3.4.5	累進寸法の寸法追加ができない	114
3.4.6	計算公差の再計算ができない	114
3.4.7	直列長さ寸法の寸法値位置	114
3.4.8	寸法線移動のラバーバンド形状が正しくない	114
3.4.9	上の寸法許容差入力が下の寸法許容差になる	115
3.4.10	寸法値と引出し線とのクリアランスが一定でない	115
3.4.11	溶接記号：コマンドの入力を <BS> で戻すときに誤り	115
3.4.12	引出し線が文字列よりかなり長い	115
3.4.13	文字列の矩形ドラッグ	116
3.4.14	切断線：入力点数が多いと異常終了	116
3.4.15	面の肌記号の引出し線	116
3.4.16	境界として使用したハッチングアイテム	117

## 目次

3.4.17 寸法許容差値を計算する .....	117
<b>3.5 結合アイテム .....</b>	<b>119</b>
3.5.1 シンボル表示ダイアログでシンボル名が表示されない .....	119
3.5.2 シンボル表示ダイアログで異常終了する .....	119
3.5.3 コンポジットアイテム作成失敗でも元のアイテムが削除される .....	119
3.5.4 サブモデル配置で異常終了 .....	119
3.5.5 ドラッグ開始時にグラフィックス領域の図形が消える .....	120
3.5.6 サブモデル更新情報表示で異常終了する .....	120
3.5.7 サブグラフィック ウィンドウのシンボル表示色 .....	120
3.5.8 シンボル表示で指定したディレクトリパスが表示されない .....	120
3.5.9 サブモデル名称変更でフリーズ .....	121
3.5.10 サブモデル更新情報表示で情報が表示されない .....	121
3.5.11 サブモデル配置で異常終了する (Windows 版のみ) .....	121
<b>3.6 アイテムの編集 .....</b>	<b>123</b>
3.6.1 寸法アイテムのストレッチ結果が正しくない .....	123
3.6.2 コピー／ペーストで異常終了 .....	123
3.6.3 伸縮できない .....	123
3.6.4 切出更新 ALL .....	123
3.6.5 座標寸法のストレッチ .....	124
<b>3.7 モデルの保存／読み込み .....</b>	<b>125</b>
3.7.1 モデル読み込みで異常終了 .....	125
3.7.2 図面枠情報が正しく読み込めない .....	125
3.7.3 アイソメグリッド情報が正しく読み込めない .....	125
3.7.4 ヘッダーブロックのデータ構造エラー .....	125
3.7.5 ドローイングブロックのデータ構造エラー .....	126
3.7.6 ストレッチ領域定義点を読み飛ばす .....	126
3.7.7 モデルタイトルのダイアログでキャレットが表示されない .....	126
3.7.8 モデル呼び出しでアイテムが欠落 .....	126
3.7.9 共通データファイルの図枠サイズに誤り .....	127
3.7.10 共通データファイル読み込みで異常終了 .....	127
3.7.11 アイテム名が失われる .....	127
<b>3.8 図面配置と図面出力 .....</b>	<b>129</b>
3.8.1 可変記入項目定義の下線や文字枠が常に描画される .....	129
3.8.2 可変記入項目定義が図面枠の大きさに含まれる .....	129
3.8.3 コピー出力でグラフィックゾーンが描画されない .....	129
3.8.4 図面印刷の線種ピッチが正しくない .....	129
3.8.5 ポストスクリプトで色が出ない .....	130
3.8.6 モノクロームイメージが正しく描画されない .....	130
3.8.7 ウィンドウ枠の表示が正しくない .....	130
3.8.8 図面印刷で線幅が細く描画される .....	130
3.8.9 図面印刷で異常終了する .....	130
3.8.10 ビューポート領域が印刷領域の下側に描画される .....	131
<b>3.9 その他の機能 .....</b>	<b>133</b>
3.9.1 リスタートで陰線処理の結果が正しくない .....	133
3.9.2 3Dのスweep、回転体が作成できない .....	133
3.9.3 リスタート時に切断線が正しく復元しない .....	133
3.9.4 演算定数を指数形式で入力できない .....	133
3.9.5 Mdlread() 関数の誤り .....	134
3.9.6 gmuctn3g() 関数の誤り .....	134
3.9.7 Drw005() 関数の誤り .....	134
3.9.8 ISO ハッチングアイテムを処理できない .....	135
3.9.9 ISOITM 点アイテムを処理できない .....	135
<b>3.10 ユーティリティ .....</b>	<b>137</b>
3.10.1 "ユーザ定義線幅が定義されていません" とメッセージが出る .....	137
3.10.2 検索項目のモデルタイトルの位置がずれる .....	137
3.10.3 一覧表示で異常終了する .....	137
3.10.4 情報変更で変更後の表示位置がずれる .....	137



## 目次

3.10.5	モデル情報変更後のカラーテーブルがデフォルト値になる	138
3.10.6	モデル呼出しで異常終了する	138
3.10.7	更新できないサブモデルが発生する	138
3.10.8	ピックチャマトリックス、アイソメグリッドが変換されない	139
3.10.9	変換後モデルが読込めない	139
3.10.10	変換後モデルが読込めない	139
3.10.11	変換後モデルが読込めない	139
3.10.12	APG 形状の色が正しくない	140
3.10.13	APG 配置で作成した片側寸法の修正	140
3.10.14	APG 配置で寸法矢印が多すぎる寸法が出現	140
3.10.15	APG 配置で風船が表示されない	141
3.10.16	APG 配置で正しく作図できないものがある	141
3.10.17	APG 配置で寸法をピックしてパラメータ選択ができない	142
3.10.18	APG 一覧表示	142
3.10.19	APG 登録：原点指定すると解析不能	142
3.10.20	特性選択ダイアログで異常終了する (Windows 版のみ)	142
3.10.21	特性削除で USEACT が無効	143
3.10.22	特性確認で異常終了する	143
3.10.23	特性表記削除で USEACT が無効	143
3.10.24	パーツサイズ変更でパーツアイテムの属性が変わる	143
3.10.25	パーツサイズ変更すると誤ったパーツ情報になる	144
3.10.26	echo() でエラーメッセージが表示されない	144
3.10.27	gettpt() がスペースキー入力を受け付けない	144
3.10.28	メニュー埋め込みマクロが動作しない	145
3.10.29	全メンバー更新の修飾子	145
3.10.30	ユーザキャンパスモデルを読み込む	145
3.11	システム管理者向けの機能	147
3.11.1	横長モニタへの対応	147
3.11.2	メニューがウインドウにフィットしない	147
3.12	オプションソフト	149
3.12.1	書込み処理が終わらない	149
3.12.2	寸法値がメタ文字で囲われていない	149
3.12.3	フォントが見つからない場合 MS ゴシックになる	149
3.12.4	データが欠落する	149
3.12.5	引出し線矢印位置が <0,0> に変換される	150
3.12.6	データの範囲が制限を超えています	150
3.12.7	非表示の図形要素が正しく変換されない	150
3.12.8	単位系がインチになる	150
3.12.9	ABC.DXF と入力するとエラーになる	151
3.12.10	長さ 0 の線分が追加される	151
3.12.11	DXF が Auto CAD で読込めない	151
3.12.12	変換後の図形が崩れている	151
3.12.13	変換後の線幅が 2 になる	152
3.12.14	寸法線の矢印が片側に 2 個付く	152
3.12.15	ブランクアイテムが変換される	152
3.12.16	書込みエラーで書込みができない	152
3.12.17	スプラインの形状が不正	153
3.12.18	メモリーリーク	153
3.12.19	寸法の転送が中断 (寸法名)	153
3.12.20	寸法の転送が中断 (寸法引出し線)	153
3.12.21	配管ラインを結合する	154
3.12.22	矢羽根の相手番地を表示	154
3.12.23	特性番号切り替え後のシンボルサイズ	154

## 目次

---

# 第 1 章 動作環境

## 1.1 Windows 版

- Advance CAD は 64bit アプリケーションソフトです。  
32bit OS では使用できません。Advance CAD 32bit edition はありません。
- オペレーティングシステム  
Windows 7 Professional **x64** edition (Service Pack 1 以上)
- 対応機種  
上記オペレーティングシステムの日本語版が動作する Pentium または Pentium 互換 CPU 搭載の IBM PC 互換機。(Itanium 搭載機は対象外です)
- メモリ  
4 GB 以上を推奨。
- VRAM (グラフィックメモリー)  
2 MB 以上
- 周辺機器  
Network Interface Card (Ethernet ボード)
- コンパイラ (プログラミングインタフェースを使用する場合だけ必要)  
Visual C++ 2010 日本語版 以上
- 画面の色  
32 ビットカラー (True Color)
- 画面の解像度 (デスクトップ領域)  
1024 x 768 ピクセル以上

## 1.2 ライセンスマネージャ

FLEXnet Publisher Licensing Toolkit V11.10 を使用しています。

## 1.3 旧バージョンの修正版リリースについて

Advance CAD Version 19 は Version 20.00 リリースより 6 ヶ月後まで不具合修正を行い、修正版をリリースいたします。それ以降は Version 19 の修正は原則行いませんことをご了承ください。

## 1.4 Solaris 版、Linux 版

既にご案内いたしましたとおり、長らくご愛用いただきました Solaris 版、Linux 版 Advance CAD は Version 19 をもって終了させていただきました。これらのプラットフォーム製品から Windows 版への移行につきましては、弊社担当営業にご相談ください。



---

# 第 2 章 新機能

## 2.1 主な変更点

### 2.1.1 SXF 変換

- OCF 検定 (SXF 対応ソフトウェア検定 : CC3) の認証 (11311420169) を取得しました。

SXF 対応ソフトウェア検定は国土交通省 : 電子納品に関する要領・基準の  
SXF Ver3.1 仕様書・同解説  
SXF Ver3.1 実装規約  
SXF Ver3.0 仕様書  
SXF Ver3.0 実装規約  
SXF Ver2 フィーチャ仕様書  
SXF Ver2 フィーチャ仕様書別冊  
ラスタデータ交換仕様  
等高線交換仕様  
及びオープン CAD フォーマット評議会の  
SXF 実装規約 OCF 版 (幾何検定版)  
SXF 実装規約 OCF 版 (属性検定版)  
に準拠しています。

Advance CAD Ver19 までは幾何図形のみに対応していましたが Advance CAD Ver20 では幾何図形及び属性に対応しています。

- OCF 検定 (SXF 確認機能検定) の認証 (16311420170) を取得しました。

確認機能検定は国土交通省 : 電子納品に関する要領・基準の  
SXF Ver3.1 表示機能及び確認機能要件書 (案)  
及びオープン CAD フォーマット評議会の  
SXF 確認機能検定 実装規約  
に準拠しています。

### 2.1.2 DXF 変換

- 図形属性 (レイヤ、線種、線幅、色) 及び寸法矢印の自動変換  
図形属性 (レイヤ、線種、線幅、色) 及び寸法矢印の変換が変換テーブルファイルを使用しないで変換できるようになりました。変換テーブルファイルを使用する変換も可能です。
- 文字列の変換精度が良くなりました。  
文字列の変換で文字列の長さ計算の精度が良くなりました。

### 2.1.3 注釈の編集

注釈を編集するコマンドを追加しました。

- ・行数の大きな注釈を2つのアイテムに分割する GNT/SPLIT コマンド
- ・2つの注釈を連結する GNT/CONNECT コマンド
- ・重複している注釈を1つにする GNT/PURGE コマンド

### 2.1.4 プログラミングインターフェース

Advance CAD 開発プログラミング言語はバージョン 18 から C++ に変更しました。しかしこれまでは、プログラミングインターフェースでは C++ の C 言語互換部分だけを使用したプログラミングに限定し、大きな変更を行わないようにしてきました。バージョン 20 では、プログラミングインターフェースにも C++ のオブジェクト指向プログラミングを導入しました。クラスや継承などの C++ のオブジェクト指向の機能を使用したプログラミングになります。簡単にいえば、今までの関数に代わってオブジェクトのメソッド使ってプログラミングすることになります。

このためバージョン 20 の『プログラミングマニュアル』の内容を大幅に改訂しました。アプリケーションの関数の説明の多くの部分はそれに代わるクラスの解説に書き換えました。プログラミングインターフェースの公開関数の多くが非推奨となりました。非推奨の関数を使用している箇所は新しいクラスを使用して書き換えることをお勧めします。非推奨関数は将来のバージョンで削除することがあります。

プログラミングインターフェースを使ってカスタマイズしているなら、バージョンアップをする前に『プログラミングマニュアル』を一読することをお勧めします。

### 2.1.5 削除したツール

#### mupg12

バージョン 11 以下で作成したマクロをバージョン 12 用に更新するプログラムです。

以前はコマンド実行の指示は <CE> と『GO』の二種類があり、コマンドによってまちまちで、分かりにくい問題がありました。これを解決するためバージョン 12 では <CE> に統一しました。また、『同時設計』のコマンド名『CON\_XXX』、『QON\_XXX』は全て『TON\_XXX』に変更しました。この変更を解決するためのプログラムです。

このプログラムは今回のリリースでは削除されました。

## 2.2 基本機能

### 2.2.1 タイトルバーに読み取り専用であることを明示する

[ リクエスト番号 ]: E19048  
 [ コマンド ]: -  
 [ リリース ]: 19.07  
 [ 区分 ]: 追加  
 [ メニュー ]: なし

#### 【要望】

読み取り専用ときはタイトルバーに読み取り専用であることを明示して欲しい。

#### 【対応】

書き込み禁止の場合はタイトルバーに「読み取り専用」と表示するようにしました。  
 書き込み禁止の場合とは以下の状態が該当します。

- ・他のユーザにロックされているモデル
- ・モデルファイルまたはフォルダーに書き込み権限がない
- ・Advance CAD を -ro オプションをつけて起動した

### 2.2.2 ビューポートにピクチャ番号を表示する

[ リクエスト番号 ]: E18094  
 [ コマンド ]: PNUM/DSP  
 [ リリース ]: 19.02  
 [ 区分 ]: 追加  
 [ メニュー ]: あり

#### 【要望】

マルチビューポートの場合、各ビューポートの隅にピクチャ番号を常に表示して欲しい。

#### 【対応】

モデル定数に「ビューポートのピクチャ番号表示」を追加しました。

#### 【構文】

- ビューポートにピクチャ番号・ピクチャ名を表示する。

マルチビューポートの場合に、各ビューポートにピクチャ番号やピクチャ名を表示するかどうかを指定する。

表示するとした場合でも、シングルビューポートの場合は、ステータス領域と重複するので表示しない。

この定数は定数ファイルに保存するが、モデルファイルには保存しない。

PNUM/DSP s

表示形式を指定する。

- 0 : 表示しない。
- 1 : ピクチャ番号を表示する。
- 2 : ピクチャ名が付けられていればピクチャ名を、付けられていなければピクチャ番号を表示する。
- 3 : ピクチャ番号とピクチャ名の両方を表示する。ピクチャ名は12バイトで打ち切る。

#### 【メニュー】

ACADCMD.MEN に以下の行を追加

V [53, 4, 18] !PNUM/DSP!

ACADRVP.MEN

Pagename = rvp\_model に以下の行を追加

```
+ <37, 1> "ビューポートのピクチャ番号表示"!PNUM/DSP!  
+ <38, 1> " (0=非表示, 1=番号, 2=名前, 3=両方)"  
ACADRVP_W.MEN  
Pagename = dlg_model11 に以下の行を追加  
+ <21, 1> "ビューポートのピクチャ番号表示"!PNUM/DSP!  
+ <22, 1> " (0=非表示, 1=番号表示, 2=名前優先, 3=両方表示)"
```

### 2.2.3 図面配置ページに作図したアイテムを確認する

```
[ リクエスト番号 ]: E19010  
[ コマンド ]: PIC  
[ リリース ]: 19.02  
[ 区分 ]: 追加  
[ メニュー ]: なし
```

#### 【要望】

図面配置ページに直接作図した場合に、作図したアイテムかピクチャを配置したのかが一目で判別しにくい。確認する機能が欲しい。

#### 【対応】

ピクチャ一覧図に、図面配置ページに直接作図したアイテムを持つページを含めるように機能追加しました。一覧図内の図面配置ページは、作図したアイテムだけを表示します。ピクチャ番号は "Dx" と表示します。x は図面配置ページ番号で、たとえばページ番号3の場合は "D3" となります。  
ピクチャ一覧図に表示された図面配置ページを選択すると、そのページの図面配置状態になります。

### 2.2.4 ウィンドウの最大化 (Windows 版)

```
[ リクエスト番号 ]: E19017  
[ コマンド ]: なし  
[ リリース ]: 18.18, 19.03  
[ 区分 ]: 変更  
[ メニュー ]: なし
```

#### 【要望】

ウィンドウを最大化したときに、画面の右または上に使用できない領域ができています。画面全体を利用して、作図領域を大きくして欲しい。

#### 【対応】

最大化したときは、メニューゾーンをウィンドウにフィットさせて表示するように変更しました。横長のモニターの場合も標準のメニューゾーンファイルのまま使用できます。

### 2.2.5 ウィンドウがタスクバーに隠れないように (Windows 版)

```
[ リクエスト番号 ]: E19018  
[ コマンド ]: なし  
[ リリース ]: 18.18, 19.03  
[ 区分 ]: 変更  
[ メニュー ]: なし
```

#### 【要望】

起動時のウィンドウがタスクバーで隠れている。タスクバーを除いた領域に作成して欲しい。

#### 【対応】



タスクバーが常に表示されている（自動的に隠すとしていない）場合に、Advance CAD の起動オプションでウインドウの大きさや位置が指定されていない時は、タスクバーを除いた領域にウインドウを作成するようにしました。

### 2.2.6 ウインドウの幅か高さの一方だけを変更 (Windows 版)

[ リクエスト番号 ]: E19019  
[ コマンド ]: なし  
[ リリース ]: 18.18, 19.03  
[ 区分 ]: 変更  
[ メニュー ]: なし

#### 【要望】

ウインドウのリサイズがメニューゾーンによる縦横比率で拘束されているが、幅だけおよび高さだけのリサイズができるようにしてほしい。

#### 【対応】

幅だけおよび高さだけのリサイズができるように変更しました。

### 2.2.7 指定ウインドウサイズで起動 (Windows 版)

[ リクエスト番号 ]: E19026  
[ コマンド ]: 起動時引数  
[ リリース ]: 18.19, 19.04  
[ 区分 ]: 変更  
[ メニュー ]: なし

#### 【要望】

起動オプションで指定したウインドウサイズがメニューゾーンの縦横比率で調整されているが、指定ウインドウサイズを保持して、メニューゾーンをウインドウに合わせるようにしてほしい。

#### 【対応】

指定されたウインドウサイズの縦横比率に合わせて、メニューゾーンをリサイズするように変更しました。

### 2.2.8 フルサイズのウインドウで起動 (Windows 版)

[ リクエスト番号 ]: E19027  
[ コマンド ]: 起動時引数  
[ リリース ]: 18.19, 19.04  
[ 区分 ]: 追加  
[ メニュー ]: なし

#### 【要望】

フルサイズのウインドウで起動する機能を追加してほしい。

#### 【対応】

起動時のウインドウサイズ指定オプションに、フルサイズを指定する機能を追加しました。

#### ● 起動時のウインドウの大きさ、位置の指定

省略するとスクリーン全体を占めるウインドウを、メニューゾーンの縦横比率に合わせた大ききさで表示する。

$$=WIDTH \times HEIGHT \left\{ \begin{array}{c} + \\ - \end{array} \right\} X \left\{ \begin{array}{c} + \\ - \end{array} \right\} Y$$

WIDTH : ウィンドウの幅  
 x : WIDTH と HEIGHT を区切る文字  
 HEIGHT : ウィンドウの高さ  
 X : ウィンドウ位置の X 座標 (原点からの位置)  
 Y : ウィンドウ位置の Y 座標 (原点からの位置)  
 + : 原点から + 方向の座標を指定するとき使う。  
 - : 原点から - 方向の座標を指定するとき使う。

=# : Soralis 版、Linux 版  
 起動したウィンドウとほぼ同じ位置にほぼ同じ大きさのウィンドウで表示する。  
 Windows 版  
 省略時と同じ大きさのウィンドウで表示する。

=F : Windows 版のみ  
 フルサイズのウィンドウで表示する。

## 2.2.9 メッセージ領域の背景色

[リクエスト番号] : E19035  
 [コマンド ] : なし  
 [リリース ] : 20.00  
 [区分 ] : 変更  
 [メニュー ] : あり

### 【要望】

背景色を変更するとメッセージ領域の背景も変わってしまい、メッセージが読みにくい。メッセージ領域の背景色は固定して欲しい。

### 【対応】

メッセージ領域、プロンプト領域およびサブグラフィックウィンドウの背景色は、黒で固定しました。サブウィンドウへのファイル一覧などの情報表示の文字色は、プロンプトメッセージの表示色を使用していましたが、メニューゾーンファイルで指定するように変更しました。標準では従来と同じ白に設定しています。

#### ● メニューゾーンファイルのエリア定義行

+ (番号) <最小値 x,y> <最大値 x,y> [行,列,文字高さ,表示色 #1,#2,#3]

表示色 #1 : エリア番号 1 はビューポート枠の色。その他のエリアはメニューゾーン枠の色。

表示色 #2 : エリア番号 1 は参照用ビューポートの枠の色。エリア番号 6 と 7 はメッセージの色。

表示色 #3 : エリア番号 1 はサブウィンドウへの情報表示 (ファイル一覧など) の文字色。記述されていないときはエリア番号 7 のメッセージの色を使用する。エリア番号 6 はコマンドのオプションとして選択できるメッセージの色。

#### ● サブウィンドウへの情報表示の文字色を変更するには

サブウィンドウへの情報表示の文字色は、標準では白に設定しています。たとえば緑に変更するには以下のようにメニューをカスタマイズします。

USERZON.MEN があれば USERZON.MEN を修正します。USERZON.MEN がなければ ACAD-ZON.MEN を USERZON.MEN という名前でコピーします。

USERZON.MEN の以下の行を修正します。

修正前

```
+ (1) "Graphic window" <4, 244> <2256, 2004> [40, 16, 30, c4, c5, c6]
```

修正後

```
+ (1) "Graphic window" <4, 244> <2256, 2004> [40, 16, 30, c4, c5, c4]
```

表示色 #3 の "c6" を "c4" に修正します。

ICON 用と NOICON 用の 2 行とも修正します。

定数設定メニューの表示色を緑にするには以下のようにします。

USEROSM.MEN があれば USEROSM.MEN の最後に ACADRVP.MEN の内容全てを追加します。USEROSM.MEN がなければ ACADRVP.MEN を USEROSM.MEN という名前でコピーします。

USEROSM.MEN の以下の行を修正します。

修正前

```
Menu [rvp_model, 3, 10, c6] ~ Menu [rvp_concur, 3, 10, c6]
```

修正後

```
Menu [rvp_model, 3, 10, c4] ~ Menu [rvp_concur, 3, 10, c4]
```

表示色の "c6" を "c4" に修正します。

### 【メニュー】

ACADZON.MEN

エリア番号 1 の表示色 #3 に "c6" を追加しました。

```
#ifdef ICON
```

```
+ (1) "Graphic window" <4, 244> <2256, 2004> [40, 16, 30, c4, c5, c6]
```

```
#else /* NOICON */
```

```
+ (1) "Graphic window" <4, 244> <2256, 2004> [40, 16, 30, c4, c5, c6]
```

## 2.2.10 Advanccd CAD 実行中のログオフ処理 (Windows 版)

```
[リクエスト番号] : E19045
[コマンド      ] : なし
[リリース      ] : 19.06, 20.00
[区分         ] : 変更
[メニュー     ] : なし
```

### 【要望】

Advance CAD 動作中にログオフが行われた場合の処理を、Windows アプリケーションの通常の終了処理と同じにして欲しい。

### 【対応】

Windows アプリケーションの通常の終了処理と同様にしました。



## 2.3 汎用割込みコマンド

### 2.3.1 ベリファイ時にアイテム名で指示する

[ リクエスト番号 ]: E19007  
 [ コマンド ]: VER, VER/CNR  
 [ リリース ]: 19.01  
 [ 区分 ]: 追加  
 [ メニュー ]: なし

#### 【要望】

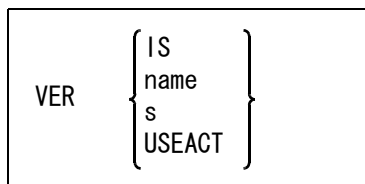
ベリファイコマンドで、アイテム選択がアイテム名で指定できると便利。

#### 【対応】

ベリファイおよび定義点表示コマンドのアイテム選択を、アイテム名でも指定できるように機能追加しました。

#### 【構文】

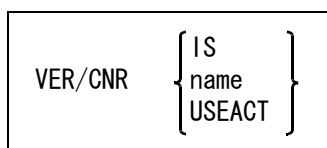
- アイテムの情報を表示する



情報を調べるアイテムを次のいずれかの方法で入力する。

IS : アイテムを選択する。次候補アイテムがある場合は、続けての<SP>入力で次候補アイテムに切り替わる。  
 図面配置状態のときは、頁タイトルも選択できる。  
 name : アイテム名で指示する。  
 s : 図面配置状態のとき、情報を調べる頁タイトル番号を入力する。  
 USEACT : アクティブリスト中のアイテムの情報を表示する。

- アイテムの定義点を表示する



次のいずれかの方法でアイテムを指示する。

IS : アイテムを選択する。次候補アイテムがある場合は、続けての<SP>入力で次候補アイテムに切り替わる。  
 name : アイテム名で指示する。  
 USEACT : アクティブリスト中のアイテム。

### 2.3.2 複数のビューポートを持つ SLO だけを一覧図に表示

[ リクエスト番号 ]: E19025  
 [ コマンド ]: SLO  
 [ リリース ]: 19.04  
 [ 区分 ]: 変更  
 [ メニュー ]: なし

### 【要望】

スクリーンレイアウト選択コマンド (SLO) の一覧図表示に、シングルビューポートのスクリーンレイアウトは表示しないようにして欲しい。

### 【対応】

SLO コマンドの一覧図にはシングルビューポートのスクリーンレイアウトは表示しないように変更しました。

一覧表およびスクリーンレイアウト削除コマンド (SLO/REL) の一覧図にはシングルビューポートのスクリーンレイアウトも表示します。

## 2.3.3 ズームコマンドを終了しないでアクティブビューポートを切り替える

[ リクエスト番号 ]: E19038  
[ コマンド ]: VIEB  
[ リリース ]: 20.00  
[ 区分 ]: 変更  
[ メニュー ]: なし

### 【要望】

ズームコマンドを実行中にアクティブビューポートを切り替えると、ズームコマンドが終了してしまう。アクティブビューポートを切り替えても動作中のコマンドが終了しないようにして欲しい。

### 【対応】

アクティブビューポート切り替えコマンド (VIEB) のコマンド識別番号を、優先度の1番高いカテゴリに変更しました。

変更前 [91, 3, 1] コマンドカテゴリ 7  
変更後 [95, 1, 1] コマンドカテゴリ 8

### 【メニュー】

ACADCMD.MEN

以下の行を削除

V [ 91, 3, 1 ] !VIEB!

以下の行を追加

V [ 95, 1, 1 ] !VIEB!

## 2.4 図形アイテム

### 2.4.1 角度分割線の作図位置

[ リクエスト番号 ]: E18113  
 [ コマンド ]: LADV  
 [ リリース ]: 18.17、19.01  
 [ 区分 ]: 変更  
 [ メニュー ]: なし

#### 【要望】

角度分割線で作成される直線を、指示する2つの要素の間にいれて欲しい。2つの要素が平行線に近い場合、分割線が遠く離れた位置に作成されるために使用者が戸惑っている。

#### 【対応】

選択された2つの要素の交点が2つの要素と離れている場合は、交点と2つの要素との最短距離だけ離れた位置を分割線の始点にするように変更しました。

選択された2つの要素の交点が要素上にあるときは、従来通りに交点を分割線の始点にします。

### 2.4.2 陰線処理 外側破線で線幅 1

[ リクエスト番号 ]: E19044  
 [ コマンド ]: CLIPPER, CLIP\_OUTL, CLIP\_PLY  
 [ リリース ]: 18.21、19.06  
 [ 区分 ]: 変更  
 [ メニュー ]: あり

#### 【要望】

陰線処理で、内側破線には線幅 1 と線幅継承があるが、外側破線は線幅継承だけになっている。外側破線も線幅 1 と線幅継承ができるようにして欲しい。

#### 【対応】

外側破線に線幅 1 にする機能を追加しました。

### 2.4.3 陰線処理 中心線を消去しない

[ リクエスト番号 ]: E17043  
 [ コマンド ]: CLIPPER, CLIP\_OUTL, CLIP\_PLY  
 [ リリース ]: 19.01  
 [ 区分 ]: 追加  
 [ メニュー ]: あり

#### 【要望】

陰線処理の内側消去で、中心線を消去しない機能を追加して欲しい。

#### 【対応】

内側消去に、線種 3 の要素を消去しない機能を追加しました。

### 2.4.4 陰線処理 内側破線（線幅継承）を 1 操作で指示する

[ リクエスト番号 ]: E17044  
 [ コマンド ]: CLIPPER, CLIP\_OUTL, CLIP\_PLY  
 [ リリース ]: 19.01  
 [ 区分 ]: 追加  
 [ メニュー ]: あり

## 【要望】

陰線処理の内側破線（線幅継承）を1つの修飾子で指示できるようにして、その状態を保持して欲しい。

## 【対応】

内側破線（線幅継承）を1つの修飾子で指示できるように修正しました。

## 2.4.5 陰線処理 文字列・寸法値と重なる作図線を消去する

[ リクエスト番号 ]: E18079  
[ コマンド ]: CLIPPER  
[ リリース ]: 19.04  
[ 区分 ]: 追加  
[ メニュー ]: なし

## 【要望】

寸法値と作図線が重なっているときに、寸法値に重なる部分の作図線を消去する機能を追加して欲しい。

## 【対応】

陰線処理の範囲図形（CLIPPER）に、文字列・寸法値が選択されたときは文字枠・寸法値枠を陰線処理の範囲にする機能を追加しました。

## 【構文】

●指示した図形でクリッピングする。

```
CLIPPER { I$auto1 } { INSIDE }
        { USEACT } [ SKIP ] <CE> { INSIDE_C }
        { IS IS } { INSIDE_F }
        { E$text } { INSIDE_W }
                { OUTSIDE }
                { OUTSIDE_F } { I$auto2 }
                { OUTSIDE_W } { USEACT } <CE>
                { VPP P1 P2 }
                { CUTOFF { } }
                { OUTPIC s }
                { { ONN } }
                { { } }
                { { OFF } }
```

クリッピング領域を形成する図形を次のいずれかで指示する。

E\$text : 文字または寸法値をピックする。ピックされた文字枠または寸法値枠をクリッピング範囲とする。

図形の処理方法を次のいずれかで指示する。

INSIDE : 範囲内を見えなくする。アイテム全体が非表示になったときは、そのアイテムは削除される。

INSIDE\_C : 範囲内を見えなくする。アイテム全体が非表示になったときは、そのアイテムは削除される。線種3の場合は消去しない。

INSIDE\_F : 範囲内を線幅1の破線にする。ただし線種1以外は破線にしない。

INSIDE\_W : 範囲内を破線にする。線幅は継承する。ただし線種1以外は破線にしない。

OUTSIDE : 範囲外を見えなくする。アイテム全体が非表示になったときは、そのアイテムは削除される。

OUTSIDE\_F : 範囲外を線幅1の破線にする。ただし線種1以外は破線にしない。

OUTSIDE\_W : 範囲外を破線にする。線幅は継承する。ただし線種1以外は破線にしない。

CUTOFF : 範囲内を切り出し、複製する。

## 【メニュー】

ACADCMD.MEN に以下の行を追加



```

V [ 34, 1, 158] !OUTSIDE_W!
V [ 34, 1, 159] !INSIDE_C!
V [ 34, 1, 160] !INSIDE_W!
ACADOSM.MEN
Pagename = mdf_clipper1 を以下のように変更
Menu [mdf_clipper1, 1, 17, c3]
#ifdef MODIFIER
+ < 1, 1> " 内側消去 "           [none, none, c4]
+ < 2, 1> " 全線種 "           !INSIDE!
+ < 3, 1> " 中心線残す "       !INSIDE_C!
+ < 4, 1> " 内側破線 "         [none, none, c4]
+ < 5, 1> " 線幅 1 "           !INSIDE_F!
+ < 6, 1> " 線幅継承 "         !INSIDE_W!
+ < 7, 1> " 外側破線 "         [none, none, c4]
+ < 8, 1> " 線幅 1 "           !OUTSIDE_F!
+ < 9, 1> " 線幅継承 "         !OUTSIDE_W!
+ <10, 1> " その他 "           [none, none, c4]
+ <11, 1> " 外側消去 "         !OUTSIDE!
+ <12, 1> " 内側切出し "       !CUTOFF!
+ <13, 1> " 出力 PIC "         !OUTPIC!
+ <14, 1> " 二点移動 "         !VPP!
+ <15, 1> " 下図処理方法 "     [none, none, c4]
+ <16, 1> " 線上も対象 "       !OFF!
+ <17, 1> " 線上は除外 "       !ONN!
+ <19, 1> " A C T より "       !USEACT!
+ <20, 1> " 全線種 "           !SKIP!
#else // NOMODIFIER
+ < 2, 1> " 二点移動 "         !VPP!
+ < 3, 1> " A C T より "       !USEACT!
#endif // End of NOMODIFIER
Pagename = mdf_clipper2 を以下のように変更
Menu [mdf_clipper2, 1, 17, c3]
#ifdef MODIFIER
+ < 1, 1> " 内側消去 "           [none, none, c4]
+ < 2, 1> " 全線種 "           !INSIDE!
+ < 3, 1> " 中心線残す "       !INSIDE_C!
+ < 4, 1> " 内側破線 "         [none, none, c4]
+ < 5, 1> " 線幅 1 "           !INSIDE_F!
+ < 6, 1> " 線幅継承 "         !INSIDE_W!
+ < 7, 1> " 外側破線 "         [none, none, c4]
+ < 8, 1> " 線幅 1 "           !OUTSIDE_F!
+ < 9, 1> " 線幅継承 "         !OUTSIDE_W!
+ <10, 1> " その他 "           [none, none, c4]
+ <11, 1> " 外側消去 "         !OUTSIDE!
+ <12, 1> " 内側切出し "       !CUTOFF!
+ <13, 1> " 出力 PIC "         !OUTPIC!
+ <14, 1> " 二点移動 "         !VPP!
+ <15, 1> " 下図処理方法 "     [none, none, c4]
+ <16, 1> " 線上も対象 "       !OFF!
+ <17, 1> " 線上は除外 "       !ONN!
+ <18, 1> " A C T より "       !USEACT!
+ <19, 1> " 内側指示 "         !INSIDE!
+ <20, 1> " 全線種 "           !SKIP!
#else // NOMODIFIER
+ < 3, 1> " 二点移動 "         !VPP!
+ < 4, 1> " A C T より "       !USEACT!
+ < 5, 1> " 内側指示 "         !INSIDE!
#endif// End of NOMODIFIER
Pagename = mdf_clipper3 を以下のように変更
Menu [mdf_clipper3, 1, 17, c3]
#ifdef MODIFIER
+ < 1, 1> " 内側消去 "           [none, none, c4]
+ < 2, 1> " 全線種 "           !INSIDE!

```

```

+ < 3, 1> " 中心線残す "    !INSIDE_C!
+ < 4, 1> " 内側破線 "      [none, none, c4]
+ < 5, 1> " 線幅 1 "        !INSIDE_F!
+ < 6, 1> " 線幅継承 "      !INSIDE_W!
+ < 7, 1> " 外側破線 "      [none, none, c4]
+ < 8, 1> " 線幅 1 "        !OUTSIDE_F!
+ < 9, 1> " 線幅継承 "      !OUTSIDE_W!
+ <10, 1> " その他 "        [none, none, c4]
+ <11, 1> " 外側消去 "      !OUTSIDE!
+ <12, 1> " 内側切出し "    !CUTOFF!
+ <13, 1> " 出力 PIC "      !OUTPIC!
+ <14, 1> " 二点移動 "      !VPP!
+ <16, 1> " 下図処理方法 "  [none, none, c4]
+ <17, 1> " 線上も対象 "    !OFF!
+ <18, 1> " 線上は除外 "    !ONN!
+ <20, 1> " A C T より "    !USEACT!
#else // NOMODIFIER
+ < 4, 1> " 二点移動 "      !VPP!
+ < 5, 1> " A C T より "    !USEACT!
#endif // End of NOMODIFIER

```

## 2.4.6 カーブ併合 結果をハイライト表示

```

[ リクエスト番号 ]: E15056
[ コマンド       ]: ITM/MERGE
[ リリース       ]: 19.03
[ 区分           ]: 変更
[ メニュー       ]: なし

```

### 【要望】

現状のカーブ併合では併合結果が分かりにくいので、いつもベリファイで併合結果を確認している。選択した図形および併合結果をハイライト表示して欲しい。

### 【対応】

選択図形をハイライト表示し、併合結果をテンポラリ図形にしました。さらに併合する図形を選択するか、<CE> 入力で確定します。

また、スペースキー入力で次候補アイテムに切り替える機能を追加しました。

## 2.5 製図アイテム

### 2.5.1 文字高さ JIS Z8313 1998 年改定版に準拠

[ リクエスト番号 ]: E19005  
 [ コマンド ]: TEXT/SIZE など  
 [ リリース ]: 18.16, 19.01  
 [ 区分 ]: 変更  
 [ メニュー ]: あり

#### 【要望】

文字高さ選択メニューおよびダイアログの文字高さ選択コンボボックスの内容を JIS Z8313 の最新に対応して欲しい。

#### 【対応】

メニューページ "char\_size" の内容を JIS Z8313 (1998 年) に変更しました。

変更前: 2.24、3.15、4.5、6.3、9

変更後: 1.8、2.5、3.5、5、7、10、14、20

文字高さ選択コンボボックスの内容を、メニューページ "char\_size" から取り出すように変更しました。メニューページ "char\_size" が見つからない場合は、JIS Z8313 (1998 年) の内容を埋め込みます。

以下の項目の初期値を 3.0 から 2.5 に変更しました。

TEXT/SIZE	文字高さ
DIM/TOLSIZE2	寸法許容差文字高さ
RFN/TEXTSIZE	風船文字高さ
SEC/TEXTSIZE	切断線文字高さ
FCSDTM/TEXTSIZE	データム文字高さ
HYOU/THIGHT	作表文字高さ
WMARK/TEXTSIZE	溶接記号文字高さ
SMARK/TEXTSIZE	面の肌記号文字高さ

※ DIM/TOLSIZE 上下寸法許容差文字高さ は以前から 2.5。

製図定数メニューおよびダイアログでの表現を「文字高さ」「面の肌記号」に統一しました。

文字の高さ、文字の大きさ、文字サイズなど → 文字高さ

面の指示記号 → 面の肌記号

※改定前の値に戻す、またはその他の値に変更したい場合は、menu フォルダの USEROSM.MEN (なければこの名前で作成してください) のメニューページ名 "char\_size" で指定します。

例)

```
Menu [char_size, 0, 2, c4]
N < 1, 1> "2.24" [none, none, c0, 0, 2.24]
N < 2, 1> "3.15" [none, none, c0, 0, 3.15]
N < 3, 1> "4.5" [none, none, c0, 0, 4.5]
N < 4, 1> "6.3" [none, none, c0, 0, 6.3]
N < 5, 1> "9" [none, none, c0, 0, 9]
```

※初期値を改定前の 3.0 またはその他の値にするには Advance CAD を起動して「その他設定」→「定数設定」→「製図」で該当項目の値を変更し、「定数保存」して Advance CAD 起動時の初期値を設定しておきます。

#### 【メニュー】

ACADOSM.MEN

Pagename = char\_size を以下のように変更

N < 1, 1>	"1.8"	[none, none, c0, 0, 1.8]
N < 2, 1>	"2.5"	[none, none, c0, 0, 2.5]
N < 3, 1>	"3.5"	[none, none, c0, 0, 3.5]
N < 4, 1>	"5"	[none, none, c0, 0, 5]
N < 5, 1>	"7"	[none, none, c0, 0, 7]
N < 6, 1>	"10"	[none, none, c0, 0, 10]
N < 7, 1>	"14"	[none, none, c0, 0, 14]
N < 8, 1>	"20"	[none, none, c0, 0, 20]

ACADRVP.MEN  
Pagename = rvp\_drf  
表現を「文字高さ」「面の肌記号」に統一

## 2.5.2 注釈の分割および統合

[ リクエスト番号 ]:	E17005
[ コマンド ]:	GNT/SPLIT、GNT/CONNECT
[ リリース ]:	20.00
[ 区分 ]:	新規
[ メニュー ]:	あり

### 【要望】

改行している注釈を指定した位置で分割して別々のアイテムにする機能、複数アイテムの注釈を連結して1アイテムにする機能を追加して欲しい。

### 【対応】

1アイテムの注釈を改行部分で2つのアイテムに分割するコマンドGNT/SPLIT、2アイテムの注釈を1アイテムに連結するコマンドGNT/CONNECTを追加しました。

1アイテムの注釈の最大文字数は2048バイトまでの制限があります。注釈を変更するとその制限を超える場合、事前に分割し、分割後の注釈を変更することで制限内に収めることができます。

これに関連して、注釈をベリファイしたときに設定するレジスタに、注釈の文字長さを保持するレジスタ#VERTXTLNGを追加しました。

### 【構文】

- 注釈を2つのアイテムに分割する。

GNT/SPLIT [ IStext P ]+

分割する注釈を選択する。

IStext : 分割する注釈を選択する。  
文字列、文字枠、下線、打ち消し線以外のデータ（引出し線、特性など）が付加されているアイテムは処理できない。  
改行文字で分割するので、改行文字がない注釈も処理できない。

分割する。

P : 注釈が選択されると注釈文字列と下線が表示される。  
下線をピックして分割する位置を指示する。  
ピックされた下線の前の文字列と後ろの文字列の2つのアイテムに分割する。

- 2つの注釈を1つの注釈に連結する。

GNT/CONNECT [ IStext1 [ { DWN } ] IStext2 <CE> ]  
[ { UPP } ]

基準とする注釈を選択する。

IStext1 : 連結する2つの注釈のうち基準とする方の注釈を選択する。  
文字列、文字枠、下線、打ち消し線以外のデータ（引出し線、特性など）が付加されているアイテムは処理できない。

基準とする注釈の下側（左側）または上側（右側）のどちらに連結するかを指示する。

DWN : 横書きの場合は下側、縦書きの場合は左側に連結する。（省略時）  
横書きの場合は、基準とする注釈の上辺が固定されて、下側に連結する。  
縦書きの場合は、基準とする注釈の右辺が固定されて、左側に連結する。  
UPP : 横書きの場合は上側、縦書きの場合は右側に連結する。  
横書きの場合は、基準とする注釈の下辺が固定されて、上側に連結する。  
縦書きの場合は、基準とする注釈の左辺が固定されて、右側に連結する。

連結する注釈を選択する。

IStext2 : 基準とする注釈に連結する注釈を選択する。  
文字列、文字枠、下線、打ち消し線以外のデータ（引出し線、特性など）が付加されているアイテムは処理できない。

連結する。

<CE> : 2つの注釈を選択すると連結結果がテンポラリ図形で表示される。  
<CE>を入力すると確定する。  
2つの注釈を連結したときに注釈の文字数が2048バイト以下の場合は、1つ目の注釈の文字列に2つ目の注釈の文字列を連結し、2つ目の注釈を削除する。  
2つの注釈を連結したときに注釈の最大文字数2048バイトを超える場合は、2つ目の注釈を1つ目の注釈に連結した場合と同じに見える位置に移動する。

### 【メニュー】

ACADCMD. MEN に以下の行を追加

```
+ [6, 1, 6] !GNT/SPLIT!  
+ [6, 1, 7] !GNT/CONNECT!
```

ACADOSM. MEN

Pagename = drfting1 に以下の行を追加

```
+ < 5, 1> "分割" !GNT/SLIT! [drfting1, dummy, c0]  
#ifdef MODIFIER  
+ < 6, 1> "連結" !GNT/CONNECT! [drfting1, mdf_gntconnect, c0]  
#else  
+ < 6, 1> "連結" !GNT/CONNECT! [drfting1, dummy, c0]  
#endif
```

Pagename = mdf\_gntconnect を追加

```
Menu [mdf_gntconnect, 1, 17, c3]  
#ifdef MODIFIER  
+ < 6, 1> "下（左）に連結" !DWN!  
+ < 7, 1> "上（右）に連結" !UPP!  
#endif
```

### 2.5.3 重複している注釈を削除する

```
[ リクエスト番号 ]: E17004  
[ コマンド ]: GNT/PURGE  
[ リリース ]: 20.00  
[ 区分 ]: 新規  
[ メニュー ]: あり
```

### 【要望】

部品表の注釈から重量計算をしているが、注釈が重複して作成されていて計算が正しくない場合がある。  
重複している注釈を削除する機能を追加して欲しい。

### 【対応】

重複している注釈を削除するコマンド GNT/PURGE を追加しました。

## 【構文】

- 重複している注釈を削除する。

```
GNT/PURGE [ USEACT ] [ { WHL } ]*  
[ { CMP } ]  
[ { NCLS } ] <GE>  
[ { NREV } ]  
[ { NLWT } ]
```

アクティブピクチャにある選択可能な注釈アイテム、またはアクティブリスト中のアイテムのうち、重複している注釈アイテムを1つのアイテムにする。

アイテム属性を比較するかどうかを指示する。比較するとした場合、指定されたアイテム属性が一致する注釈同士で重複を調べる。

WHL : 全てのアイテム属性（クラス、レビジョン、線幅）を比較する。  
CMP : 全てのアイテム属性を「比較しない」に設定する。（省略時）  
NCLS : クラスを比較する。  
NREV : レビジョンを比較する。  
NLWT : 線幅を比較する。

アクティブリスト中のアイテムを使用する場合に指示する。

USEACT : アクティブリスト中のアイテムを処理対象とする。省略するとカレントピクチャの注釈アイテムが処理対象となる。

一度に処理できる注釈アイテム数は 32768 アイテムまでである。それを超える場合は処理できない。

以下の全てが一致している注釈を重複しているとみなして片方を削除する。

- ・ 文字列
- ・ 1文字目の文字の書き出し位置。（左下）
- ・ 文字高さ
- ・ 文字列角度
- ・ 文字傾斜角度
- ・ 縦書き／横書き
- ・ X 軸反転
- ・ Y 軸反転

## 【メニュー】

ACADCMD.MEN に以下の行を追加

```
+ [6, 1, 8] !GNT/PURGE!
```

ACADOSM.MEN

Pagename = drfting1 に以下の行を追加

```
+ < 7, 1> "重複削除" !GNT/PURGE!
```

Pagename = mdf\_gntpurge を追加

```
Menu [mdf_gntpurge, 1, 17, c3]
```

```
+ < 7, 1> "ACTより" !USEACT!
```

```
#ifdef MODIFIER
```

```
+ < 9, 1> "属性比較" [none, none, c0]
```

```
+ <10, 1> "比較しない" !CMP!
```

```
+ <11, 1> "全属性" !WHL!
```

```
+ <12, 1> "クラス" !NCLS!
```

```
+ <13, 1> "レビジョン" !NREV!
```

```
+ <14, 1> "線幅" !NLWT!
```

```
#endif // End of MODIFIER
```

### 2.5.4 注記や寸法値に打消し線を入れる

[ リクエスト番号 ]: E18112  
 [ コマンド ]: TEXT/DENIAL, DTEXT/DENIAL  
 [ リリース ]: 19.02  
 [ 区分 ]: 新規  
 [ メニュー ]: あり

#### 【要望】

注記や寸法値に打消し線（文字の上に二重線）をいれる機能を追加して欲しい。

#### 【対応】

注記に打消し線を入れるコマンドと寸法値に打消し線を入れるコマンドを追加しました。

#### 【構文】

- テキスト打消し線を表示または消去する

TEXT/DENIAL	$\left. \begin{array}{l} \text{ONN} \\ \text{OFF} \end{array} \right\}$	[EStext]
-------------	---	----------

打消し線を表示するか消去するかを指示する。ONN も OFF も指示しなければ、打消し線があれば除去、なければ表示する。

ONN : 打消し線を表示する。  
 OFF : 打消し線を消去する。

修正するテキストを選択する。

EStext : テキストを選択する。アイテムにテキストが1つだけしかないときは必要ない。

- 寸法値打消し線を表示または消去する

DTEXT/DENIAL	$\left. \begin{array}{l} \text{ONN} \\ \text{OFF} \end{array} \right\}$	[EStext]
--------------	---	----------

打消し線を表示するか消去するかを指示する。ONN も OFF も指示しなければ、打消し線があれば除去、なければ表示する。

ONN : 打消し線を表示する。  
 OFF : 打消し線を消去する。

修正する寸法値を選択する。

EStext : 寸法値を選択する。アイテムに寸法値が1つだけしかないときは必要ない。

- 製図用定数の値を変更する

TEXT/DENIALGAP s
------------------

打消し線の間隔を指定する。

s : 二重線の間隔。(0.0 ~ 327.0)。

TEXT/DENIALOVS s

打消し線の端部延長量を指定する。

s : オーバーシュートの長さ。(0.0 ~ 327.0)。

#### 【メニュー】

ACADCMD. MEN に以下の行を追加

V [37, 1, 87] !ETEXT/DENIALGAP!  
V [37, 1, 88] !ETEXT/DENIALOVS!  
V [53, 1, 87] !TEXT/DENIALGAP!  
V [53, 1, 88] !TEXT/DENIALOVS!  
+ [82, 1, 22] !TEXT/DENIAL!  
+ [82, 2, 14] !DTEXT/DENIAL!

ACADOSM. MEN

Pagename = mod\_dim1 に以下の行を追加

+ <17, 1> " 打消し線 " !DTEXT/DENIAL! [mod\_dim1, dummy5, c0]

Pagename = mod\_text に以下の行を追加

+ <15, 1> " 打消し線 " !TEXT/DENIAL! [mod\_text, dummy5, c0]

ACADRVP. MEN

Pagename = rvp\_drf に以下の行を追加

+ <23, 1> " 打消し線の間隔 " !TEXT/DENIALGAP!  
+ <24, 1> " 打消し線の端部延長量 " !TEXT/DENIALOVS!

Pagename = rvp\_drfedit に以下の行を追加

+ <25, 1> " 打消し線の間隔 " !ETEXT/DENIALGAP!  
+ <26, 1> " 打消し線の端部延長量 " !ETEXT/DENIALOVS!

### 2.5.5 注記に二重下線を入れる

[ リクエスト番号 ]: E19012  
[ コマンド ]: TEXT/DOUBLE  
[ リリース ]: 19.02  
[ 区分 ]: 新規  
[ メニュー ]: あり

#### 【要望】

注記に二重線の下線をいれる機能を追加して欲しい。

#### 【対応】

注記に二重線の下線を入れるコマンドを追加しました。

#### 【構文】

●テキストに二重下線を表示または消去する

TEXT/DOUBLE { ONN } [EStext]  
                  { OFF }



二重下線を表示するか消去するかを指示する。ONN も OFF も指示しなければ、二重下線があれば除去、なければ表示する。

ONN : 二重下線を表示する。  
OFF : 二重下線を消去する。

修正するテキストを選択する。

EStext : テキストを選択する。アイテムにテキストが1つだけしかないときは必要ない。

●製図用定数の値を変更する

TEXT/DOUBLEGAP s

二重下線 二番目の下線と文字の間隔を設定する。

一番目の下線は「枠/下線と文字の間隔 上下」で指定された位置になる。ここでは二重線のもう一方の線と文字の間隔を指定する。

s : 二番目の下線と文字の間隔。(0.0 ~ 327.0)。

【メニュー】

ACADCMD.MEN に以下の行を追加

V [37, 1, 89] !ETEXT/DOUBLEGAP!  
V [53, 1, 89] !TEXT/DOUBLEGAP!  
+ [82, 1, 23] !TEXT/DOUBLE!

ACADOSM.MEN

Pagename = mod\_text に以下の行を追加

+ <14, 1> "二重下線" !TEXT/DOUBLE! [mod\_text, dummy5, c0]

ACADRVP.MEN

Pagename = rvp\_drf に以下の行を追加

+ <22, 1> "二重下線と文字の間隔" !TEXT/DOUBLEGAP!

Pagename = rvp\_drfedit に以下の行を追加

+ <24, 1> "二重下線と文字の間隔" !ETEXT/DOUBLEGAP!

## 2.5.6 切断線ラベル位置のメニュー表現

[ リクエスト番号 ]: E19013  
[ コマンド ]: SECTION  
[ リリース ]: 19.03  
[ 区分 ]: 変更  
[ メニュー ]: なし

【要望】

切断線のラベル位置を指示するメニュー表記を、以下のように変更して欲しい。

[ 現状 ]	[ 提案 ]
マークの上	矢の前
マークの横	矢の横
マークの下	矢の後

【対応】

オンスクリーンメニューおよびメッセージの表記を、提案のように修正しました。

【メニュー】

ACADOSM.MEN の以下の行を変更

Pagename = mdf\_section

```
+<13, 1> " 矢の前 " !UPP!
+<14, 1> " 矢の横 " !HOR!
+<15, 1> " 矢の後 " !DWN!
```

## 2.5.7 切断線 水平／垂直拘束

```
[ リクエスト番号 ]: E19016
[ コマンド       ]: SECTION
[ リリース      ]: 20.00
[ 区分         ]: 変更
[ メニュー      ]: なし
```

### 【要望】

切断線コマンドのデフォルト設定を「水平垂直オン」の状態にして欲しい。

### 【対応】

- ・「水平垂直オン」をデフォルトにしました。
- ・マークサイズ変更を明示的に示すコマンド修飾子 SCF を追加しました。
- ・メニューとメッセージの表現を統一しました。
- ・メッセージゾーンのクリックでオプションを指定する機能を追加しました。

### 【構文】

- 切断線を作る。

```
SECTION [ { ONN } ]
        [ {      } ] [NUM s] [SID d] [ { SCF } s]
        [ { OFF } ]

                [ { UPP } ] * ]
                [ { HOR } ] ]
                [ { DWN } ] ]
P1 [P2]* [ { BTX } text [ {      } ] ] <CE>
                [ { ALN } ] ]
                [ {      } ] ]
                [ { PAR } ] ]
```

マークの大きさを指示する。

SCF s : マークの大きさを入力する。

### 【メニュー】

ACADOSM.MEN

Pagenam = mdf\_section を以下のように変更

```
Menu [mdf_section, 1, 17, c3]
#ifdef MODIFIER
+ < 6, 1> " 水平垂直オン " !ONN!
+ < 7, 1> " 水平垂直オフ " !OFF!
+ < 8, 1> " マークサイズ " !SGF!
+ < 9, 1> " マーク番号 " !NUM! [rvp_mark4, none, c0]
+ <10, 1> " 矢の向き " !SID!
+ <11, 1> " ラベル文字 " !BTX!
+ <12, 1> " ラベルの位置 " [none, none, c4]
+ <13, 1> " 矢の前 " !UPP!
+ <14, 1> " 矢の横 " !HOR!
+ <15, 1> " 矢の後 " !DWN!
+ <16, 1> " ラベルの向き " [none, none, c4]
+ <17, 1> " 水平 " !PAR!
+ <18, 1> " マークに沿う " !ALN!
#else // NOMODIFIER
+ < 9, 1> " 矢の向き " !SID!
#endif // End of NOMODIFIER
```

### 2.5.8 複合アイテム内の楕円に円中心線を入れる

[ リクエスト番号 ]: E18075  
 [ コマンド ]: CNTLIN  
 [ リリース ]: 19.04  
 [ 区分 ]: 追加  
 [ メニュー ]: なし

#### 【要望】

複合アイテム内の円には中心線を入れられるが、楕円には中心線が入れられない。  
 複合アイテム内の楕円にも中心線を入れられるようにしてほしい。

#### 【対応】

複合アイテム内の楕円にも中心線を入れられるように機能追加しました。

### 2.5.9 製図要素一括修正のアイテム数

[ リクエスト番号 ]: E19023  
 [ コマンド ]: DRF/EDIT  
 [ リリース ]: 19.05  
 [ 区分 ]: 変更  
 [ メニュー ]: なし

#### 【要望】

バージョン 19 からの製図一括修正コマンドは、修正結果をテンポラリアイテムにするようになった。テンポラリ状態なので解除ができて便利だが、テンポラリアイテムが 256 アイテムを超えると自動的に確定されてしまう。256 アイテムの制限をなくしてほしい。

#### 【対応】

製図一括修正コマンドのテンポラリアイテム数の上限を 10000 アイテムに拡張しました。

### 2.5.10 寸法値が丸められたことを通知

[ リクエスト番号 ]: E19036  
 [ コマンド ]: 長さ寸法  
 [ リリース ]: 18.20, 19.05  
 [ 区分 ]: 追加  
 [ メニュー ]: あり

#### 【要望】

三次元 CAD から取り込んだ形状には微妙な誤差が存在することがある。この形状に寸法をつけたときに、たとえば小数点以下 3 桁を表示した場合、下 4 桁目が四捨五入されていて、寸法値として正しくないことがある。寸法値が丸められたことが分かるようにしてほしい。

#### 【対応】

製図定数に「丸め前の寸法値を確認表示」するかどうかの定数を追加しました。

#### ●丸め前の寸法値を確認表示

DIM/ACTVAL s : 丸め前の寸法値をメッセージ領域に表示するかどうかを指示する。  
 0 : 表示しない  
 1 : 表示する

表示するとした場合、表示形式が十進の「長さ寸法」「半径寸法」「直径寸法」「面取り寸法」を記入するときに、丸め後の寸法値と丸め前の寸法値をメッセージ領域に表示します。丸め前と丸め後の値の差分が、演算定数の「最小長さ」を超えた場合はエラー音を鳴らし、丸め前の寸法値を赤色で、超えない場合は緑色で表示します。この定数は定数ファイルに保存しますが、モデルファイルには保存しません。

## 【メニュー】

```
ACADCMD.MEN に以下の行を追加
  V [53, 1, 90] !DIM/ACTVAL!
ACADRVP.MEN
Pagename = rvp_drf に以下の行を追加
  + <40, 1> "丸め前の寸法値を確認表示" !DIM/ACTVAL!
```

### 2.5.11 指定した寸法補助線を移動する

```
[ リクエスト番号 ]: E18084
[ コマンド       ]: DIM/WITMOVE
[ リリース      ]: 19.04
[ 区分         ]: 変更
[ メニュー      ]: なし
```

## 【要望】

現状では移動後の位置に近い方の寸法補助線が移動されるが、指示した寸法補助線を移動するように変更して欲しい。

## 【対応】

- 以下の3点の機能変更および機能追加を行いました。
- ・寸法要素選択時にピックした位置に近い方の寸法補助線を移動するように変更しました。
  - ・選択されたアイテムをハイライト表示するようにしました。
  - ・バックスペースキー入力で選択を解除できるようにしました。

### 2.5.12 半径寸法の内側引出し線を円中心まで伸ばす

```
[ リクエスト番号 ]: E18006
[ コマンド       ]: DMR
[ リリース      ]: 19.05
[ 区分         ]: 変更
[ メニュー      ]: なし
```

## 【要望】

半径寸法で「円中心まで」と指定した場合は、内側引出し線を円中心まで伸ばして欲しい。

## 【対応】

「内側引出し付き」で「円中心まで」と指定した場合は、内側引出し線を円中心線まで伸ばすように変更しました。

## 【構文】

- 半径寸法を作る

```
[[ ONN ]] [[ ADD ]] { ISarc } [[ text ]]  
DMR [[ CEN ]] [[   ]] {   } [[   ]] [ tol ] [ P ]* <CE>  
[[ OFF ]] [[ REL ]] { ESbzc } [[ s   ]]
```

引出し線のモードを次のいずれかで指示する。

- ONN : 引出し線の最初の線は必ず円中心を通過する直線上にあるようにする。(省略時)
- CEN : 引出し線を円中心まで伸ばす。寸法テキスト位置をテンポラリポイントで指示する。寸法テキスト位置が1点で、円の内側が指示されたときは、引出し線を円中心まで伸ばす。寸法テキスト位置として円の外側が指示されたとき、「内側引出し線付き」の場合は内側引出し線を円中心まで伸ばす。「内側引出し線なし」の場合は内側引出し線はつけない。寸法テキスト位置を指示しないで<CE>を入力したときは、引出し線を円中心まで伸ばし、寸法テキストは円周と円中心線の間点に記入する。
- OFF : 入力した点列をそのまま使って引出し線を作成する。

### 2.5.13 半径寸法の引出し線を修正する

[ リクエスト番号 ]: E18015  
 [ コマンド ]: DMR/MOD  
 [ リリース ]: 19.05  
 [ 区分 ]: 追加  
 [ メニュー ]: あり

#### 【要望】

既に作図してある半径寸法に対して「引出線を円中心まで伸ばす」「内側引出線を付加する」「内側引出線を削除する」機能を追加して欲しい。

#### 【対応】

寸法要素修正コマンドに、半径寸法の引出し線を修正するコマンドを追加しました。

#### 【構文】

●半径寸法の引出し線を修正する

```

      { GEN }
DMR/MOD { ADD }
      { REL }
  
```

引出し線の修正方法を次のいずれかで指示する。

GEN : 引出し線を円中心まで伸ばす。  
 ADD : 外側に引き出されている半径寸法に内側引出し線を追加する。  
       内側引出し線の長さは製図定数の「半径寸法引出線長さ」になる。  
 REL : 外側に引き出されている半径寸法の内側引出し線を削除する。

#### 【メニュー】

ACADCMD.MEN に以下の行を追加  
 + [82, 2, 19] !DMR/MOD!

ACADOSM.MEN

Pagename = mod\_dim1 に以下の行を追加

+ <18, 1> "半径寸法引出線" !DMR/MOD! [mod\_dim1, mdf\_moddim4, c0]

Pagename = mdf\_moddim4 を追加

Menu [mdf\_moddim4, 5, 17, c3]

+ <16, 1> "引出線" [none, none, c4]

+ <17, 1> "円中心まで" !GEN!

+ <18, 1> "内側引出線" ! [none, none, c4]

+ <19, 1> "付加" !ADD!

+ <20, 1> "削除" !REL!

### 2.5.14 小半径の円弧への半径寸法の移動

[ リクエスト番号 ]: E19030  
 [ コマンド ]: DIM/ALN  
 [ リリース ]: 19.05  
 [ 区分 ]: 変更  
 [ メニュー ]: なし

#### 【要望】

フィレットなどの小さい半径の円弧の半径寸法を寸法線移動するとき、中心より離れた位置に寸法値を記入しようとする、引き出し位置がフィレットを指していない。半径寸法記入コマンドと同様に、フィレット部分まで伸ばして欲しい。

#### 【対応】

---

移動前の半径寸法の引き出し位置が円弧に接している場合は、その円弧上を優先するように変更しました。

## 2.5.15 半径寸法のラバーバンド

[ リクエスト番号 ]: E19042  
[ コマンド ]: DMR, DIM/ALN  
[ リリース ]: 19.05  
[ 区分 ]: 変更  
[ メニュー ]: なし

### 【要望】

半径寸法および半径寸法の寸法線移動コマンドのラバーバンド形状が、寸法記入位置によっては実際に作成される寸法線形状と一致しないことがある。ラバーバンド形状を、実際に記入する寸法形状に合わせて欲しい。

### 【対応】

ラバーバンド形状を、作成される寸法線形状に合わせました。ただしラバーバンド形状は、テンポラリポイントによる丸めを行う前のカーソル位置での形状になるので、テンポラリポイントによる丸め後の位置とは形状が大きく異なる場合があります。

## 2.6 結合アイテム

### 2.6.1 サブモデルリスト 現ピクチャの配置数を表示する

[ リクエスト番号 ]: E18039  
[ コマンド ]: SUB/LST, SYM/LST  
[ リリース ]: 19.02  
[ 区分 ]: 変更  
[ メニュー ]: なし

#### 【要望】

サブモデルリストの画面表示でサブモデル名とモデル全体の個数が表示されているが、現ピクチャの個数も表示して欲しい。

#### 【対応】

サブモデルリストおよびシンボルリストの画面表示に、現ピクチャの個数も表示するようにしました。  
リストファイル名は必ず指定しなければなりませんでした。指定しない場合はファイル出力を省略して、画面表示だけを行うように変更しました。

### 2.6.2 サブモデル更新情報表示 元ピクチャ番号を表示する

[ リクエスト番号 ]: E19031  
[ コマンド ]: SUB/ULS, SUB/LST  
[ リリース ]: 19.05  
[ 区分 ]: 変更  
[ メニュー ]: なし

#### 【要望】

サブモデル更新情報表示 (SUB/ULS) で、一覧表示内容に「参照元ピクチャ」の番号を表示して欲しい。

#### 【対応】

サブモデル更新情報表示 (SUB/ULS) およびサブモデルリスト (SUB/LST) の画面表示に、元ピクチャを表示するようにしました。サブモデルリストの画面表示は1サブモデル名が1行になっていましたが、配置ピクチャ番号、サブモデル名、参照元ピクチャ番号が同じものを1行にして表示するように変更しました。

### 2.6.3 サブモデル更新情報表示 ピクチャ参照を表示

[ リクエスト番号 ]: E19032  
[ コマンド ]: SUB/ULS, SUB/LST  
[ リリース ]: 19.05  
[ 区分 ]: 変更  
[ メニュー ]: あり

#### 【要望】

サブモデル更新情報表示 (SUB/ULS) で、「ピクチャ参照」の場合は、一覧表示内容にピクチャ参照であることを表示して欲しい。

#### 【対応】

サブモデル更新情報表示 (SUB/ULS) およびサブモデルリスト (SUB/LST) の画面表示に、ピクチャ参照のサブモデルの場合は、サブモデル名の前に「ピクチャ参照」と表示するようにしました。





## 2.7 アイテムの編集

### 2.7.1 ピクチャ指定をコマンドが終了するまで保持する

[ リクエスト番号 ]: E16018  
 [ コマンド ]: COPY, MOVE, MOVE/HOR, MOVE/VRT  
 ROTATE, MIRROR, STRETCH, EXPAND  
 ARY, RARY, RARY/ROT  
 [ リリース ]: 19.03  
 [ 区分 ]: 変更  
 [ メニュー ]: なし

#### 【要望】

複製で、出力ピクチャ指定が<CE>で複製を実行するたびにクリアされている。複製忘れがあると再度出力ピクチャを指定しなければならない。複製コマンドを抜けるまで出力ピクチャを保持して欲しい。

#### 【対応】

以下のコマンドの出力ピクチャ指定を、コマンドが終了するまで保持するように変更しました。  
 COPY, MOVE, MOVE/HOR, MOVE/VRT  
 ROTATE, MIRROR, STRETCH, EXPAND  
 ARY, RARY, RARY/ROT

### 2.7.2 伸縮方向を水平／垂直拘束する

[ リクエスト番号 ]: E19021  
 [ コマンド ]: STRETCH  
 [ リリース ]: 20.00  
 [ 区分 ]: 追加  
 [ メニュー ]: あり

#### 【要望】

伸縮コマンドに、伸縮方向を水平または垂直に拘束する機能を追加して欲しい。

#### 【対応】

伸縮方向を指定するオプションを追加しました。水平または垂直方向に伸縮するとした場合は、伸縮量を数値で指定できます。また補助座標がオンのときは、補助座標系での伸縮量を表示するようにしました。

#### 【構文】

- アイテムの端点やコーナーを移動してアイテムを伸縮する

```

STRETCH  [ { BOX d d } ] [ { STD } ] [ { vec } ] [ { { DUP } } ]*
          [ { } ] [ { HOR } ] [ { } ] [ { { CUR } } ]
          [ { PLY d d [d]+ } ] [ { VRT } ] [ { s } ] [ { { OFF } } ]
                                                  [ { { s } } ]
                                                  [ { OUTPIC { vs } } ]
                                                  [ { { name } } ]

          [ { { PRV } } ]
          [ { { } } ] [ ISauto ]+
          [ { { INSIDE } } ] } <CE>
          [ { } ]
          [ USEACT ]
  
```

伸縮方向を指示する。

STD : 伸縮方向を拘束しない。(省略時)

HOR : 水平方向に伸縮する。  
VRT : 垂直方向に伸縮する。

伸縮ベクトルを指定する。

vec : ベクトルで指定する。  
s : 水平または垂直方向に拘束されているときは数値で指定できる。

## 【メニュー】

ACADOSM.MEN

Pagename = mdf\_stretch を以下のように変更しました。

```
Menu [mdf_stretch, 1, 17, c3]
#ifdef MODIFIER
+ < 3, 1> "伸縮域_箱" !BOX!
+ < 4, 1> "伸縮域_範囲" !PLY!
+ < 5, 1> "自由移動" !STD!
+ < 6, 1> "水平移動" !HOR!
+ < 7, 1> "垂直移動" !VRT!
+ < 8, 1> "複製_ON" !DUP!
+ < 9, 1> "複製_CUR" !CUR!
+ <10, 1> "複製_OFF" !OFF!
+ <11, 1> "ベクトル" [none, none, c4]
+ <12, 1> "2点" !VPP!
+ <13, 1> "成分" !VRL! [char_vec, none, c0]
+ <14, 1> "角度" !VAG!
+ <15, 1> "平行" !VPA!
+ <16, 1> "垂直" !VPE!
+ <17, 1> "出力ピクチャ" !OUTPIC!
+ <18, 1> "伸縮域内要素" !INSIDE!
+ <19, 1> "前回編集要素" !PRV!
+ <20, 1> "ACTより" !USEACT!
#else // NOMODIFIER
+ < 6, 1> "伸縮域_箱" !BOX!
+ < 7, 1> "伸縮域_範囲" !PLY!
+ < 8, 1> "ベクトル" [none, none, c4]
+ < 9, 1> "2点" !VPP!
+ <10, 1> "成分" !VRL! [char_vec, none, c0]
+ <11, 1> "角度" !VAG!
+ <12, 1> "平行" !VPA!
+ <13, 1> "垂直" !VPE!
+ <14, 1> "伸縮域内要素" !INSIDE!
+ <15, 1> "前回編集要素" !PRV!
+ <16, 1> "ACTより" !USEACT!
#endif // End of NOMODIFIER
```

## 2.8 モデル

### 2.8.1 最近使用したモデル一覧から選択

[ リクエスト番号 ]: E19014  
 [ コマンド ]: MODEL/MRU  
 [ リリース ]: 19.03  
 [ 区分 ]: 新規  
 [ メニュー ]: あり

#### 【要望】

モデル呼出しコマンドで「最近使用したモデル」の一覧から選択する機能を追加して欲しい。

#### 【対応】

ダイアログを使用していない場合、モデル呼出しコマンドで「最近使用したモデル」から選択することができませんでした。「最近使用したモデル」の一覧を表示する割り込みコマンド MODEL/MRU を追加しました。一覧からモデルを選択すると、動作中の上位コマンドにモデル名が渡されます。

また、モデル呼出しダイアログでは「最近使用したモデル」をコンボボックスで選択するようになっていましたが、コンボボックスではモデルタイトルを表示することが困難なので、ボタン「最近のモデル」を追加し、このボタンをクリックしたときに「最近使用したモデル」の一覧ダイアログを表示するように変更しました。

#### 【構文】

- 最近使用したモデルの一覧を表示する

```
MODEL/MRU [dig] <CE>
```

最近使用したモデルの一覧表を表示する。表示されているモデルをピックしてモデル名指定に流用できる。

最近使用したモデルの一覧は、コンフィギュレーションファイルに #MODEL:MRU# が指定されている場合に 32 モデルだけ記録します。画面への表示数は、モデル定数の「最近使用したモデルの表示数」で指定します。

#### 【メニュー】

ACADCMD. MEN

PageName = mdf\_mdIread に以下の行を追加  
 V [52, 3, 4] !MODEL/MRU!

ACADOSM. MEN

PageName = mdf\_mdIread に以下の行を追加  
 + <2, 1> "最近のモデル" !MODEL/MRU! [none, none, c2]

### 2.8.2 モデル表示で <SP> や <BS> で前後のモデルを表示する

[ リクエスト番号 ]: E17021  
 [ コマンド ]: MODEL/DSP, SUB/DSP, SYM/DSP  
 [ リリース ]: 19.02  
 [ 区分 ]: 変更  
 [ メニュー ]: あり

#### 【要望】

モデル表示で、モデル一覧から表示するモデルを選択した場合も <SP> や <BS> で前後のモデルを表示するようにして欲しい。

## 【対応】

モデル表示、サブモデル表示およびシンボル表示を要望のように修正しました。構文の変更はありませんが、メニューの表現を以下のように変更しました。

- ・ 図形表示  
指定されたモデルを図形表示する。ワイルドカードが指定できる。  
省略時の状態であり、今回、明示的にメニューに記述しました。
- ・ 一覧表示  
以前の「一覧後表示」を「一覧表示」に変更しました。  
指定されたモデルファイル名を一覧表示する。ワイルドカードが指定できる。  
"A\*" などの絞込みができる。  
一覧表から選択されたモデルの図形を表示する。 <SP> や <BS> で前後のモデルを表示する。
- ・ 全一覧後表示（廃止）  
「全一覧後表示」は「一覧後表示」 → 「全モデル」を実行するマクロが埋め込まれていました。  
このメニューは廃止しました。「一覧表示」 → 「全モデル」とすることで同じことが行えます。

## 【構文】

- モデルファイル画面に表示する。

```
MODEL/DSP  [ [ [ DSPPIC ] s ] ] [ [ ACTPLN ] ] [ [ NME ] ] [ [ ALL ] ]  
            [ [ ALLPIC ] ] [ [ ] ] [ [ ] ] [ [ ] ]  
            [ [ CURSLO ] ] [ [ TMPPLN ] ] [ [ FNM ] ] [ [ name ] ]
```

モデルファイル名の一覧を表示するときに指定する。

FNM : 以後に指定されたモデルファイル名の一覧表を表示する。

図形表示または一覧表示するモデルファイル名を指定する。

ALL : 全モデル。

name : モデルファイル名を指定する。ワイルドカードが指定できる。

## 【メニュー】

ACADOSM.MEN

Pagename = mdf\_mdldsp を以下のように変更

```
Menu [mdf_mdldsp, 3, 17, c3]  
+ < 6, 1> " 図形／一覧表 " [none, none, c4]  
+ < 7, 1> " 図形表示 " !NME!  
+ < 8, 1> " 一覧表示 " !FNM!  
+ <10, 1> " 全モデル " !ALL!  
#ifdef MODIFIER  
+ <12, 1> " 表示ピクチャ " [none, none, c4]  
+ <13, 1> " 指定ピクチャ " !DSPPIC!  
+ <14, 1> " 全ピクチャー " !ALLPIC!  
+ <15, 1> " S L O 合わせ " !CURSLO!  
+ <17, 1> " 表示色 " [none, none, c4]  
+ <18, 1> " カラー " !ACTPLN!  
+ <19, 1> " 単色 " !TMPPLN!  
#endif // End of MODIFIER
```

Pagename = mdf\_subdsp を以下のように変更

```
Menu [mdf_subdsp, 3, 17, c3]  
+ < 7, 1> " 図形／一覧表 " [none, none, c4]  
+ < 8, 1> " 図形表示 " !NME!  
+ < 9, 1> " 一覧表示 " !FNM!  
+ <11, 1> " 全サブモデル " !ALL!  
#ifdef MODIFIER
```

```
+ <13, 1> " 表示ピクチャ"           [none, none, c4]
+ <14, 1> " 指定ピクチャ"           !DSPPIC!
+ <15, 1> " 全ピクチャー"           !ALLPIC!
+ <16, 1> " S L O 合わせ"           !CURSLO!
+ <18, 1> " 表示色"                 [none, none, c4]
+ <19, 1> " カラー"                 !ACTPLN!
+ <20, 1> " 単色"                   !TMPPLN!
#endif // End of MODIFIER
Pagename = mdf_symdsp を以下のように変更
Menu [mdf_symdsp, 3, 17, c3]
+ <10, 1> " 図形／一覧"             [none, none, c4]
+ <11, 1> " 図形表示"               !NME!
+ <12, 1> " 一覧表示"               !FNM!
+ <14, 1> " 全シンボル"            !ALL!
#ifdef MODIFIER
+ <16, 1> " 表示色"                 [none, none, c4]
+ <17, 1> " カラー"                 !ACTPLN!
+ <18, 1> " 単色"                   !TMPPLN!
+ <20, 1> " 画面分割数"            !NUM!
#endif // End of NOMODIFIER
```



## 2.9 図面配置と図面出力

### 2.9.1 インプレースエディット中にウインドウ枠を表示する

[ リクエスト番号 ]: E18077  
 [ コマンド ]: VIE, PIC, WIN  
 [ リリース ]: 19.02  
 [ 区分 ]: 追加  
 [ メニュー ]: なし

#### 【要望】

図面配置状態でのピクチャアイテムの修正（インプレースエディット）中にアクティブピクチャを切り替えるために「AVP」ボタンをクリックしたときに、図面配置してある各ウインドウの枠を表示して欲しい。

#### 【対応】

インプレースエディット中に VIE、PIC、WIN コマンドが選択されたときに、配置されているウインドウの枠、原点およびピクチャ番号を表示するようにしました。

### 2.9.2 コピー印刷で図面枠を使用する

[ リクエスト番号 ]: E17047  
 [ コマンド ]: HCOPIY/PRINT, QPLOT/PRINT  
 [ リリース ]: 19.03  
 [ 区分 ]: 追加  
 [ メニュー ]: なし

#### 【要望】

コピー印刷で、コピー出力と同様な描画ができるようにして欲しい。具体的には指定図面枠に、モデルタイトルや日付を記述したい。

これができるば hpgl や lips などをサポートしていないプリンタでも、図面枠をつけたコピー印刷が可能になり、プリンタの有効利用ができる。

#### 【対応】

コピー印刷（HCOPIY/PRINT）およびクイック印刷（QPLOT/PRINT）のプリントオプションファイルで、パラメータファイルを指定できるように機能追加しました。

#### ● コピー印刷、クイック印刷で図面枠を使用する

HCOPIY/PRINT = パラメータファイル名  
 QPLOT/PRINT = パラメータファイル名

パラメータファイル名：コピー印刷／クイック印刷で使用するパラメータファイル名を記述する。  
 パラメータファイルの場所や書式はコピー出力／クイック出力と同じなので、コピー出力／クイック出力と同じパラメータファイルが使用できる。

上記定義がないときは従来通りの印刷を行う。

たとえば、以下のように記述する。

HCOPIY/PRINT = HCOPIY.PRM  
 QPLOT/PRINT = QPLOT.PRM

#### ● sample/PLOT フォルダに以下のサンプルファイルを追加／修正しました。

-----

---

```
/
/ COLOR. POP
/
RAS_COLOR = 50, 90, 50 ; R, G, B (%)
COLOR 1 = 0, 0, 0 ; Pen 1: Black
COLOR 2 = 100, 0, 0 ; Pen 2: Red
COLOR 3 = 0, 100, 0 ; Pen 3: Green
COLOR 4 = 0, 0, 100 ; Pen 4: Blue
COLOR 5 = 100, 100, 0 ; Pen 5: Yellow
COLOR 6 = 100, 0, 100 ; Pen 6: Magenta
COLOR 7 = 0, 100, 100 ; Pen 7: Cyan
COLOR 8 = 80, 80, 80 ; Pen 8: Gray
/
PW = 0.05
/
LW = 0.1
LW 1 = 0.1
LW 2 = 0.2
LW 3 = 0.3
LW 4 = 0.4
LW 5 = 0.5
LW 6 = 0.6
LW 7 = 0.7
LW 8 = 0.8
LW 9 = 0.9
LW 10 = 1.0
LW 11 = 1.1
LW 12 = 1.2
LW 13 = 1.3
LW 14 = 1.4
LW 15 = 1.5
LW 16 = 1.6
/
QPLOT/PRINT = QPLOT. PRM
HCOPY/PRINT = HCOPY. PRM
/
/ End of file
```

---

```
/
/ MONOCHROME. POP
/
PW = 0.05
/
LW = 0.1
LW 1 = 0.1
LW 2 = 0.2
LW 3 = 0.3
LW 4 = 0.4
LW 5 = 0.5
LW 6 = 0.6
LW 7 = 0.7
LW 8 = 0.8
LW 9 = 0.9
LW 10 = 1.0
LW 11 = 1.1
LW 12 = 1.2
LW 13 = 1.3
LW 14 = 1.4
LW 15 = 1.5
LW 16 = 1.6
/
```



```
QPLOT/PRINT = QPLOT.PRM
HCOPIY/PRINT = HCOPIY.PRM
/
/ End of file
```

```
-----
/
/ QPLOT.PRM
/
/ A4
/
A4 Template-name "COPYA4.SYM"
A4 Plotter-zone < 33.6 , 6.5 > < 290.5 , 203.5 >
A4 G-zone-plot "NO"
A4 V-zone-plot "YES"
A4 P-number-size "3.0"
/A4 P-number-form "PIC.%d"
/
/ B4
/
B4 Template-name "COPYB4.SYM"
B4 Plotter-zone < 39.3 , 6.5 > < 357.5 , 250.5 >
B4 G-zone-plot "NO"
B4 V-zone-plot "YES"
B4 P-number-size "3.0"
/B4 P-number-form "PIC.%d"
/
/ A3
/
A3 Template-name "COPYA3.SYM"
A3 Plotter-zone < 43.2 , 6.5 > < 413.5 , 290.5 >
A3 G-zone-plot "NO"
A3 V-zone-plot "YES"
A3 P-number-size "3.0"
/A3 P-number-form "PIC.%d"
/
/ End of file
```

```
-----
/
/ HCOPIY.PRM
/
/ A4
/
A4 Template-name "COPYA4.SYM"
A4 Plotter-zone < 33.6 , 6.5 > < 290.5 , 203.5 >
A4 G-zone-plot "NO"
A4 V-zone-plot "YES"
A4 P-number-size "3.0"
/A4 P-number-form "PIC.%d"
/
/ B4
/
B4 Template-name "COPYB4.SYM"
B4 Plotter-zone < 39.3 , 6.5 > < 357.5 , 250.5 >
B4 G-zone-plot "NO"
B4 V-zone-plot "YES"
B4 P-number-size "3.0"
/B4 P-number-form "PIC.%d"
/
/ A3
```

```

/
A3 Template-name "COPYA3.SYM"
A3 Plotter-zone < 43.2 , 6.5 > < 413.5 , 290.5 >
A3 G-zone-plot "NO"
A3 V-zone-plot "YES"
A3 P-number-size "3.0"
/A3 P-number-form "PIC.%d"
/
/ End of file

```

サンプルでは「グラフィックゾーンは描画しない」「ピクチャ番号は描画しない」設定になっています。

### 2.9.3 ピクチャ番号を左下に印刷

```

[ リクエスト番号 ]: E19034
[ コマンド       ]: HCOPIY, HCOPIY/PRINT, QPLOT, QPLOT/PRINT
[ リリース      ]: 19.05
[ 区分         ]: 追加
[ メニュー      ]: なし

```

#### 【要望】

HCOPIY、HCOPIY/PRINT でピクチャ番号を描画する位置が左上になっているが、画面表示と同じように、左下にして欲しい。

#### 【対応】

ピクチャ番号の描画位置を指定できるように機能追加しました。

```

P-number-position "TOP"      : 左上に描画する (省略時)
P-number-position "BOTTOM"  : 左下に描画する

```

#### ● HCOPIY 時のパラメータファイル "HCOPIY.PRM" の例

```

/
/ HCOPIY.PRM
/
/ A4
/
A4 Template-name "COPYA4.SYM"
A4 Plotter-zone < 33.6 , 6.5 > < 290.5 , 203.5 >
A4 G-zone-plot "NO"
A4 V-zone-plot "YES"
A4 P-number-size "3.0"
/A4 P-number-form "PIC.%d"
/A4 P-number-position "TOP" // Default
/A4 P-number-position "BOTTOM"
/
/ B4
/
B4 Template-name "COPYB4.SYM"
B4 Plotter-zone < 39.3 , 6.5 > < 357.5 , 250.5 >
B4 G-zone-plot "NO"
B4 V-zone-plot "YES"
B4 P-number-size "3.0"
/B4 P-number-form "PIC.%d"
/B4 P-number-position "TOP" // Default
/B4 P-number-position "BOTTOM"
/
/ A3
/
A3 Template-name "COPYA3.SYM"

```

```
A3 Plotter-zone    < 43.2 , 6.5 > < 413.5 , 290.5 >
A3 G-zone-plot    "NO"
A3 V-zone-plot    "YES"
A3 P-number-size  "3.0"
/A3 P-number-form  "PIC.%d"
/A3 P-number-position "TOP" // Default
/A3 P-number-position "BOTTOM"
/
/ End of file
```

上記のサンプルでは "TOP" 指定の行も "BOTTOM" 指定の行も、1 カラム目の "/" により注釈行になっています。そのために省略時の描画位置である "左上" に描画します。



## 2.10 その他の機能

### 2.10.1 カーブ合成で基準アイテムをハイライト表示する

[ リクエスト番号 ]: E16036  
[ コマンド ]: ISOITM  
[ リリース ]: 19.03  
[ 区分 ]: 変更  
[ メニュー ]: なし

#### 【要望】

カーブ合成で、選択した「三次元元図形作成の基準アイテム」を白色表示して欲しい。

#### 【対応】

深さを与えるカーブおよびカーブ合成が成功した基準アイテムをハイライト表示するように変更しました。

### 2.10.2 カーブ合成で基準アイテムを矩形領域で選択する

[ リクエスト番号 ]: E18019  
[ コマンド ]: ISOITM  
[ リリース ]: 19.03  
[ 区分 ]: 変更  
[ メニュー ]: なし

#### 【要望】

カーブ合成で、三次元図形の基準アイテムの選択時に、矩形や多角形領域で指定できるようにして欲しい。

#### 【対応】

基準アイテムを、矩形領域または多角形領域で選択できるように変更しました。

### 2.10.3 ラスター背景をファイル名で削除する

[ リクエスト番号 ]: E19008  
[ コマンド ]: RAS/REL  
[ リリース ]: 18.17, 19.02  
[ 区分 ]: 追加  
[ メニュー ]: あり

#### 【要望】

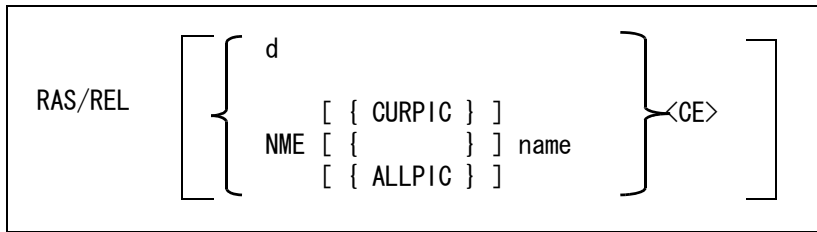
マクロ内からラスター背景を削除するときに、座標値を指定すると目的以外のラスター背景が削除される心配がある。削除するラスター背景をファイル名で指定できると便利。

#### 【対応】

ファイル名で削除する機能を追加しました。

#### 【構文】

●ラスター背景を削除する



削除するラスター背景を名前で指定する。

- NME : 名前で指定することを宣言する。
- CURPIC : 現ピクチャのラスター背景を削除の対象にする。(省略時)
- ALLPIC : 全ピクチャのラスター背景を削除の対象にする。
- name : 削除するラスター背景をファイル名で指定する。

ディレクトリの指定は任意。

ディレクトリが指定されていた場合は、指定および配置されているラスター背景をフルパスにして、ディレクトリの一致も調べる。

ディレクトリが指定されていない場合は、配置されているラスター背景のディレクトリは一致を調べる対象にしない。デフォルトのディレクトリ以外のラスター背景でも、ディレクトリ名は一致を調べる対象にしない。

拡張子の指定は任意。

拡張子が指定されていた場合は、指定および配置されているラスター背景の拡張子の一致も調べる。

拡張子が指定されていない場合は、配置されているラスター背景の拡張子は一致を調べる対象にしない。デフォルトの拡張子以外のラスター背景でも、拡張子は一致を調べる対象にしない。

ファイル名 (ディレクトリと拡張子を除いた部分) は必ず指定する。ファイル名にはワイルドカードが指定できる。

例

ファイル名が "ABC" で始まる、全ピクチャのラスター背景を削除する。

```
RAS/REL NME ALLPIC "ABC*"
```

現ピクチャの全てのラスター背景を削除する。

```
RAS/REL NME "*"
```

【メニュー】

ACADOSM.MEN

Pagename = note2 の以下の行を変更

```
+< 4, 1> " 削除 " !RAS/REL! [note2, mdf_rasrel, c0]
```

Pagename = mdf\_rasrel を追加

/

```
/ Pagename = mdf_rasrel
```

/

```
Menu [mdf_rasrel, 1, 17, c3]
```

```
+< 4, 1> " 名前指定 " !NME!
```

```
+< 5, 1> " 現ピクチャ " !CURPIC!
```

```
+< 6, 1> " 全ピクチャ " !ALLPIC!
```

## 2.10.4 Advance CAD の画面だけのイメージ

[ リクエスト番号 ]: E19043

[ コマンド ]: DOC/RAS, DRAW/RAS

[ リリース ]: 19.05  
[ 区分 ]: 変更  
[ メニュー ]: なし

**【要望】**

DOC/RAS コマンドでイメージファイルを作成し、それをデータベースに登録することで図面検索に利用している。データベース登録までの一連の処理をマクロで行っているが、そのときに Advance CAD の画面とは無関係のイメージファイルが作成されることがある。Advance CAD の画面とは関係のないウインドウの内容は、イメージファイルに含めないようにしてほしい。

**【対応】**

DOC/RAS コマンドはドキュメント作成を意識して用意しました。そのために指定領域上に重なっているウインドウの画面、たとえばエディターやエクセルの表も含めたイメージファイルが作成できるように、画面情報からイメージファイルを作成していました。以下の変更を行い、Advance CAD の画面とは関係のないウインドウの内容は、イメージファイルに含めないようにしました。

アクティブビューポートの表示内容でイメージファイルを作成する場合は、メモリー内に保持している画面情報からイメージファイルを作成するように変更しました。DRAW/RAS コマンドも同様です。





## 2.11 定数設定

### 2.11.1 最近使用したモデルの表示数

[ リクエスト番号 ]: E19015  
 [ コマンド ]: MRU/COUNT  
 [ リリース ]: 19.03  
 [ 区分 ]: 新規  
 [ メニュー ]: あり

#### 【要望】

最近使用したモデルの表示数を30程度に増やして欲しい。

#### 【対応】

モデル定数に「最近使用したモデルの表示数」を追加しました。

#### 【構文】

- 最近使用したモデルの表示数

```
MRU/COUNT [ s ] <CE>
```

最近使用したモデルとして表示するモデルの数を0～32の範囲で指定する。標準値は10。

この定数は定数ファイルに保存するが、モデルファイルには保存しない。

最近使用したファイルは、Advance CAD 起動時およびモデル呼び出しコマンド選択時に表示される。コンフィグレーションファイルに"#MODEL:MRU#"の記述がない場合は表示しない。

#### 【メニュー】

ACADCMD.MEN に以下の行を追加

```
V [53, 4, 19] !MRU/COUNT!
```

ACADRVP.MEN

Pagename = mdf\_model に以下の行を追加

```
+ <31, 1> " 最近使用したモデルの表示数 " !MRU/COUNT!
```

```
+ <32, 1> " (0-32)"
```

ACADRVP\_W.MEN

Pagename = dlg\_model1 に以下の行を追加

```
+ <10, 1> " 最近使用したモデルの表示数 (0 - 32)" !MRU/COUNT!
```

### 2.11.2 縮尺設定でピクチャを範囲で指定する

[ リクエスト番号 ]: E16029  
 [ コマンド ]: RVP/SCF  
 [ リリース ]: 19.01  
 [ 区分 ]: 追加  
 [ メニュー ]: なし

#### 【要望】

定数設定の縮尺で、ピクチャを範囲で指定できるようにして欲しい。

#### 【対応】

ダイアログモードがオフの場合、ピクチャを範囲で指定する機能を追加しました。

---

## 【構文】

- 指示したピクチャの縮尺値を変更する

```
[[ PNUMn ]]  
RVP/SCF [[      ]] s <CE>  
[[ range ]]
```

ピクチャ番号を次のいずれかで指定する。

- PNUMn : n は 1 ~ 256 で、ピクチャ番号を示す。  
PNUM を付けずに単に数値の 1 ~ 256 でもよい。  
またはピクチャ名を指定する。
- range : 複数ピクチャを範囲で指定する。  
例)  
"1-25" : ピクチャ 1 から 25  
"1, 3, 5-10" : ピクチャ 1 と 3 と 5 から 10

ピクチャ縮尺値を指定する。

- s : ピクチャ縮尺値を数値または分数で指定する。

## 2.12 ユーティリティ

### 【SXF 変換】

#### 2.12.1 属性付加機構に対応してほしい

[リクエスト番号] : なし  
 [コマンド] : SXF/READ, SXF/WRITE, SXF/ATTRSET, SXF/TTL\_CRE  
 [リリース] : V20.00  
 [区分] : 機能追加  
 [メニュー] : 変更・追加

#### 【要望】

属性付加機構に対応してほしい。

#### 【対応】

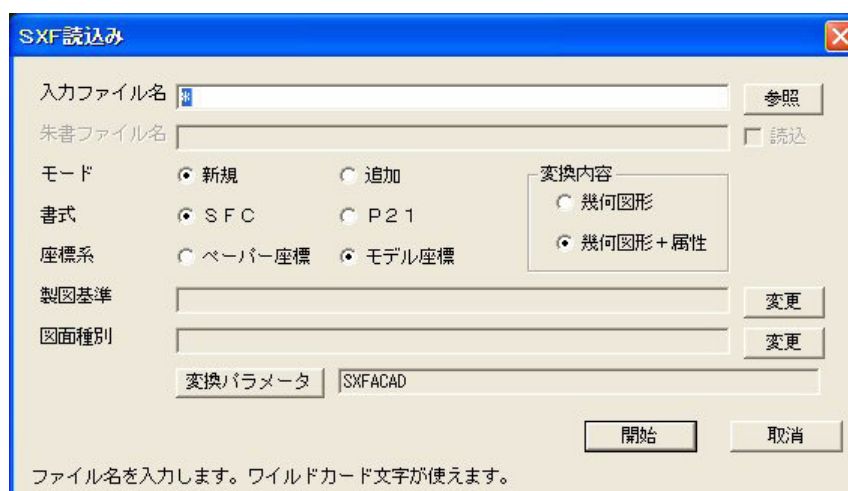
属性付加機構に対応しました。  
OCF 検定の CC3 の認証（認証番号：11311420169）を取得しました。

属性機能を追加するにあたり次のコマンドを修正及び追加しました。

SXF/READ	SXF 読み込み	修正
SXF/WRITE	SXF 書込み	修正
SXF/VER	図形の確認	修正
SXF/ATTRSET	属性の付加、修正及び削除	追加
SXF/TTL_CRE	文字列の表題欄への登録・解除	追加

- SXF/READ （SXF 読み込み）

SXF 読み込みダイアログ



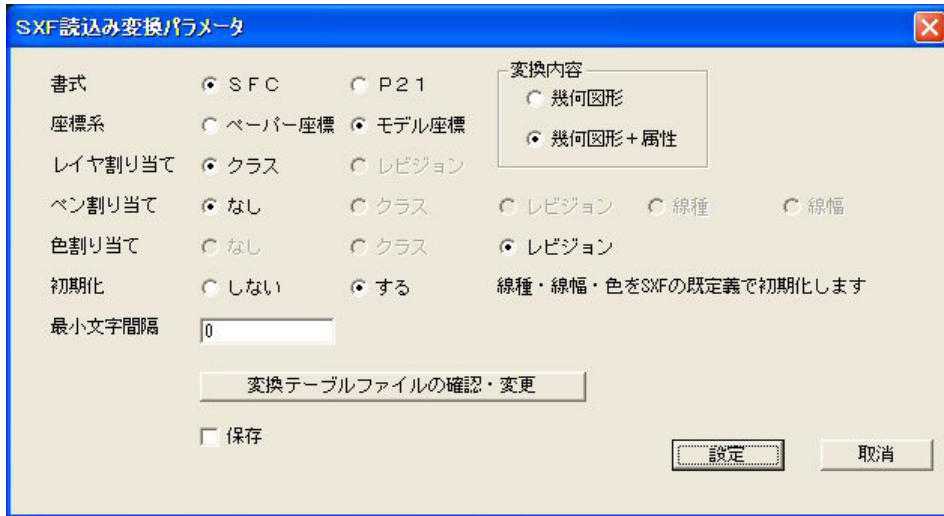
変換内容

幾何図形 : 幾何図形データのみを読み込みます。  
属性データは捨てられます。

幾何図形+属性

: 幾何図形及び属性データを読み込みます。  
追加モード及びペーパー座標指示で読む場合は  
幾何図形データのみを読み込みます。

#### SXF 読み変換パラメータダイアログ



#### 初期化

しない

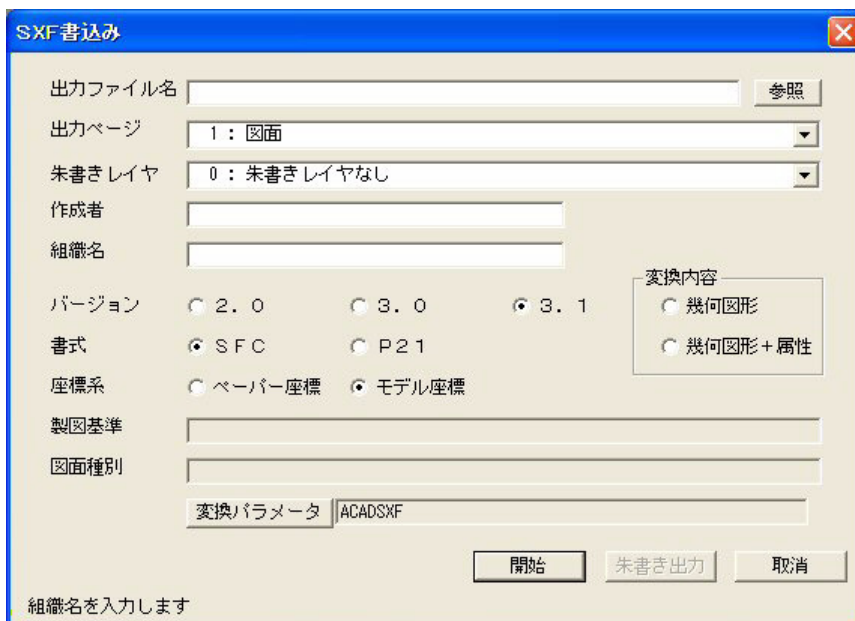
: モデルを初期化した時の線種、線幅、色テーブルで読み込みを行います。

する

: モデルを初期化した後、線種・線幅・色を SXF の既定義線種、線幅、色に設定し読み込みを行います。

#### • SXF/WRITE (SXF 書込み)

#### SXF 書込みダイアログ



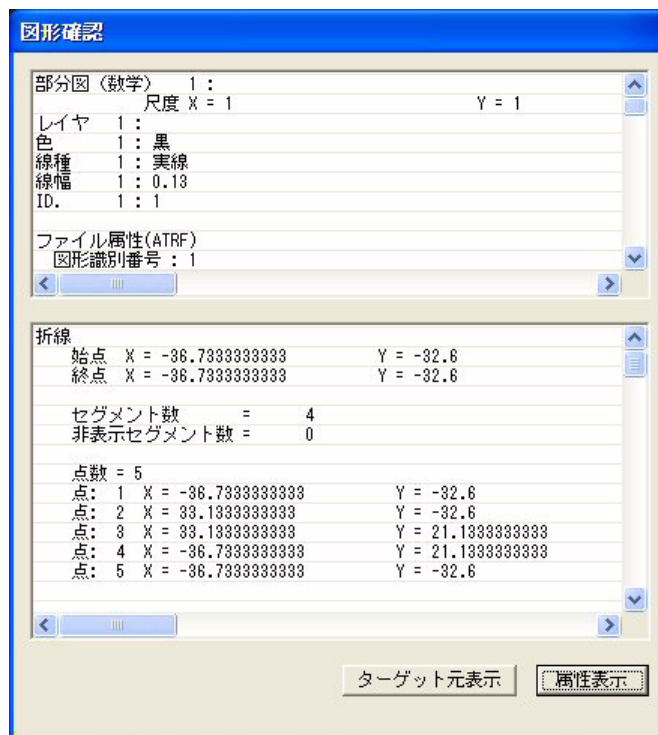
#### 変換内容

幾何図形 : 幾何図形のみを書き込みます。

幾何図形+属性 : 幾何図形及び属性を書き込みます。  
Ver3.0、Ver3.1 でモデル座標系指示の場合のみ選択できます。

- SXF/VER (図形の確認)

図形確認のダイアログ



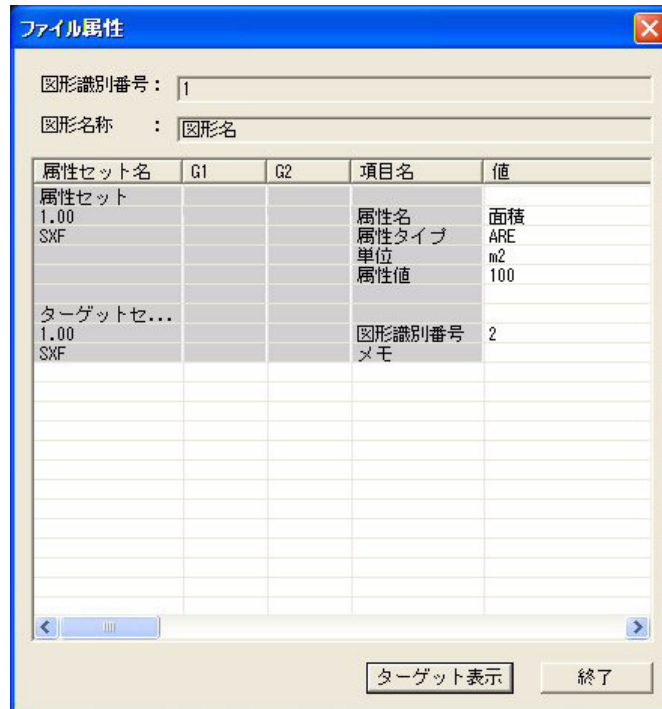
属性一覧を表示する。

図形に属性が付加されている場合、上段の一覧表示に属性を表示します。

属性を表示する。

図形にファイル属性が付加されている場合、『属性表示』ボタンが表示されます。クリックするとファイル属性が別ダイアログで表示されます。

ファイル属性表示ダイアログ



• SXF/ATTRSET (属性の付加、修正及び削除)

属性付加機構の詳細については国土交通省：SXF 表示機能及び確認機能要件書 (案)

<http://www.cals-ed.go.jp/> 電子納品に関する要領・基準

左側メニューの『電子納品に関する要領・基準』

ページ最後方の『SXF Ver3.1 仕様書、表示機能及び確認機能要件書 (案)へ』

ページ最後方の SXFVer3.1 仕様書 (第 2 版) H21.6 『LZH ファイル：4837KB』内  
の

SXF Ver3.1 仕様書・同解説 付属書 属性付加機構編

SXF Ver3.1 仕様書・同解説 付属書 共通属性セット編

SXF Ver3.1 実装規約 内の SXF 仕様 実装規約 属性付加機構編

及びオープン CAD フォーマット評議会

<http://www.ocf.or.jp/> オープン CAD フォーマット評議会

左側メニューの『OCF 検定』

左側メニューの『OCF 検定合格基準、規約類』

ページ前方の SXF 対応ソフトウェア検定 『SXF 実装規約 OCF 版 (属性検定版)』

2011/04/01

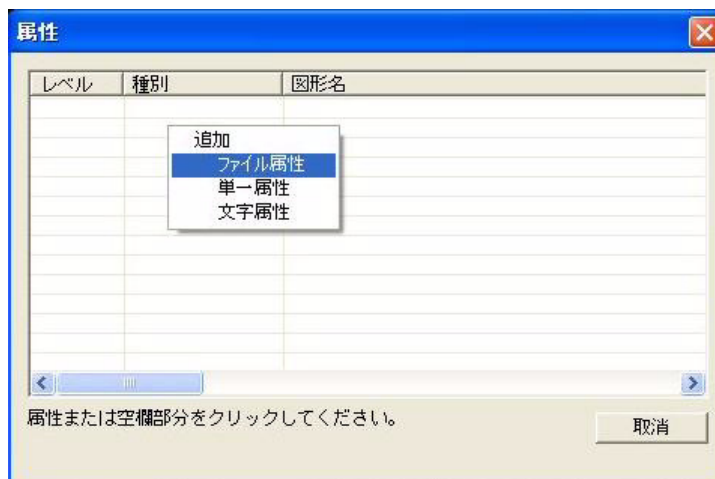
を参照ください。

【構文】

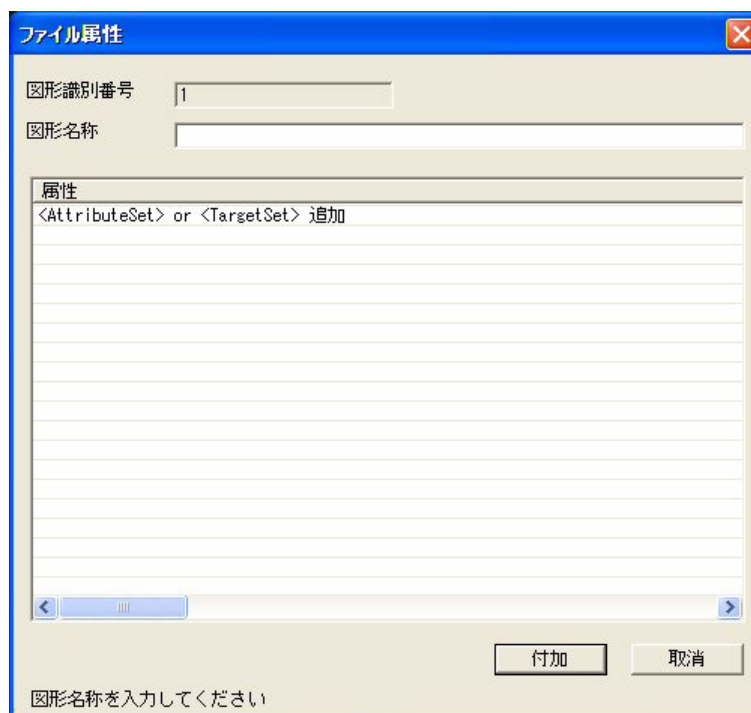
SXF/ATTRSET	IS
-------------	----

IS : 属性を付加、修正及び削除する図形を選択  
この後属性付加、編集、削除のダイアログが表示されます。

## 属性一覧ダイアログ



1. ダイアログの属性一覧の行をクリックします。  
空白行をクリックすると属性の付加になります。  
ファイル属性、単一属性、文字属性と表示されている行をクリックすると属性の挿入、修正、削除になります。
2. 属性付加の場合。
  - ・ファイル属性
  - ・単一属性
  - ・文字属性（選択した図形が文字列の場合のみ）
3. ファイル属性付加の場合。
  - ・メニューから『ファイル属性』を選択します。  
ファイル属性ダイアログ



- ・図形名称を入力します。
- ・属性セットを追加します。

- ・<AttributeSet> or <TargetSet> 追加 行ををクリックします。注1)
- ・メニューから『属性セット <AttributeSet> 追加』を選択します。
  - ・属性セットの名称・バージョン・設計者を入力します。注2)
  - ・『追加』をクリックします。
- ・属性グループを追加します。
  - ・<AttrGroup> or <Attr> 追加をクリックします。注1)
  - ・メニューから『属性グループ <AttrGroup> 追加』を選択します。
    - ・属性グループの名前を入力します。
    - ・『追加』をクリックします。
 注) 属性グループがある場合に入力します。必須ではありません。  
2階層まで入力できます。
- ・属性を追加します。
  - ・<AttrGroup> or <Attr> 追加をクリックします。注1)
  - ・メニューから『属性 <Attr> 追加』を選択します。
    - ・属性の属性名称・タイプ・単位・属性値を入力します。注3)
    - ・『追加』をクリックします。
- ・ターゲットセットを追加します。
  - ・<AttributeSet> or <TargetSet> 追加をクリックします。注1)
  - ・メニューから『ターゲットセット <TargetSet> 追加』を選択します。
    - ・ターゲットセットの名称・バージョン・設計者を入力します。注2)
    - ・『追加』をクリックします。
  - ・ターゲットを追加します。
    - ・<Target> 追加をクリックします。注1)
    - ・メニューから『ターゲット <Target> 追加』を選択します。
    - ・ターゲットの図形識別番号・メモを入力します。
      - 図形識別番号を入力する代わりに『アイテム選択』でターゲットにする図形を選択することができます。
      - 注) SXF Ver3.1 に出力する場合、メモは失われます。
    - ・『追加』をクリックします。
- ・『付加』をクリックします。

#### 4. 単一属性付加の場合。

- ・メニューから『単一属性』を選択します。
- 単一属性ダイアログ

単一属性

図形識別番号 3

図形名称

属性名

属性タイプ

単位

属性値

付加 取消

図形名称を入力してください

- ・属性の図形名称・属性名・属性タイプ・単位・属性値を入力します。注3)
- ・『付加』をクリックします。

#### 5. 文字属性付加の場合。

- ・メニューから『文字属性』を選択します。



## 文字属性ダイアログ

- ・ 属性の属性名・属性タイプ・単位を入力します。<sup>注3)</sup>
- ・ 『付加』をクリックします。

## 注1) 属性の入力規則

表示	: クリックしたときの処理
<AttributeSet> or <TargetSet> 追加	: 属性セット又はターゲットセットの追加
<AttrGroup> or <Attr> 追加	: 属性グループ又は属性の追加
<Target> 追加	: ターゲットの追加
<AttributeSet name=	: 属性セットセットの修正・削除
<TargetSet name=	: ターゲットセットの修正・削除
<AttrGroup name=	: 属性グループの修正・削除
<Attr name=	: 属性の修正・削除
<Target id=	: ターゲットの修正・削除

## 注2) ファイル属性の属性セット、ターゲットセットの参照

ファイル属性の属性セット、ターゲットセットのダイアログで『参照』をクリックすると属性セット、ターゲットセットを参照することができます。使用頻度の高い属性セット、ターゲットセットをあらかじめ登録しておくことで属性セット、ターゲットセットの入力を軽減することができます。

## 注3) 属性名、属性タイプ、属性単位をコンボボックスから選択して入力することができます。

属性名：S、A、B、C、D、E、F、G、H、I、J、K、Lの区分から選択します。

例えば区分Aを選択すると

- A-01 角度
- A-02 立体角
- A-03 長さ
- A-04 面積
- A-05 体積
- A-06 時間
- A-07 角速度
- A-08 速度
- A-09 加速度

の中から属性名を選択することができます。

選択した属性名の既定値の属性タイプ、単位が属性タイプ、単位に設定されません。属性タイプ、単位の横にあるコンボボックスから既定値以外の属性タイプ、単位を選択することもできます。

属性名、属性タイプ、単位に関しては

SXF Ver3.1 仕様書・同解説 付属書 属性付加機構編の

5 属性情報一覧

5-1 タイプと単位

5-2 既定属性一覧  
を参照してください。

- SXF/TTL\_CRE : 文字列を表題欄属性に登録、追加及び解除を行います。

表題欄属性作成

【構文】

SXF/TTL_CRE	IS
-------------	----

IS : 表題欄属性を付加する文字列を選択  
この後表題欄属性一覧ダイアログが表示されます。

表題欄属性の種別を選択します。

事業名  
工事名  
契約区分  
図面番号  
図面総数  
図面種別  
尺度  
図面名  
年月日  
会社名  
事務所名

の中から種別を選びます。

『選択』をクリックします。表題欄属性が付加されます。  
表題欄フィーチャーに登録されます。

表題欄属性追加

【構文】

SXF/TTL_CRE	ATTR_ADD	IS1	IS2	<CE>
-------------	----------	-----	-----	------

IS1 : 表題欄属性に追加する文字列を選択します。

IS2 : 既に表題欄属性が付加されている文字列を選択します。

<CE> : 表題欄属性を追加します。  
表題欄フィーチャーに追加されます。

表題欄属性削除

【構文】

SXF/TTL_CRE	ATTR_DEL	IS	<CE>
-------------	----------	----	------

IS : 既に表題欄属性が付加されている文字列を選択します。

<CE> : 表題欄属性を削除します。  
表題フィーチャーから削除されます。

- メニューの修正・追加

【ACADCMD.MEN】

```
V [ 16, 24, 17] !SXF/ATTRSET!      <-- 追加
V [ 16, 24, 19] !SXF/TTL_CRE!     <-- 追加
V [ 16, 24, 31] !SXF/PREVIEW!    <-- 追加
V [ 16, 24, 32] !SXFCOPY/PREVIEW! <-- 追加
V [ 16, 24, 33] !SXF/CONFIRM!    <-- 追加
V [ 16, 24, 34] !SXF/OPTION!     <-- 追加

V [ 34, 3, 121] !ATTR_CRE!       <-- 追加
V [ 34, 3, 122] !ATTR_EDT!      <-- 追加
V [ 34, 3, 123] !ATTR_DEL!      <-- 追加
V [ 34, 3, 124] !ATTR_ADD!      <-- 追加
V [ 34, 3, 130] !ATTR_LIST!     <-- 追加

V [ 34, 3, 138] !UNIT!          <-- 追加

V [ 34, 3, 140] !SEG!           <-- 追加

V [ 94, 1, 0] !SXF/ZOOMMENU!    <-- 追加
```

【ACADOSM.MEN】

表示メニューは全面的に追加、修正及び削除を行いました。

/ データ交換 1

/ Pagename = exchange

```
Menu [exchange, 1, 4, c2]
+ < 1, 1> " 共通データ "          [none, none, c4]
#ifdef MODIFIER
+ < 2, 1> " 読み込み "          !COMMON/READ! [exchange, mdf_commonread, c0]
#else // NOMODIFIER
+ < 2, 1> " 読み込み "          !COMMON/READ! [exchange, dummy, c0]
#endif // End of NOMODIFIER
+ < 3, 1> " 書き込み "          !COMMON/WRITE! [exchange, mdf_commonwrite, c0]
+ < 4, 1> " I G E S "          [none, none, c4]
+ < 5, 1> " 読み込み "          !IGES/READ! [exchange, dummy, c0]
#ifdef MODIFIER
+ < 6, 1> " 書き込み "          !IGES/WRITE! [exchange, mdf_igeswrite, c0]
#else // NOMODIFIER
+ < 6, 1> " 書き込み "          !IGES/WRITE! [exchange, dummy, c0]
#endif // End of NOMODIFIER
+ < 7, 1> " ポンチ絵 "          !IGES/PUNCH! [exchange, dummy, c0]
#ifdef WIN32
+ < 10, 1> " S X F "          [exchange, mdf_sxfzoom, c4]
+ < 11, 1> " 読み込み "          !SXF/READ! [exchange, mdf_sxfread, c0]
+ < 12, 1> " 書き込み "          !SXF/WRITE! [exchange, mdf_sxfwrite, c0]
+ < 13, 1> " 名称一覧 "          !SXF/LIST! [exchange, dummy, c0]
+ < 14, 1> " 部分図確認 "        !SXF/PIC_LIST! [exchange, dummy, c0]
+ < 15, 1> " レイヤ設定 "        !SXF/LAY! [exchange, dummy, c0]
+ < 16, 1> " 分解 "            !SXF/SFIG_BRK! [exchange, dummy, c0]
```

```

+ <18, 1> " 図形確認 " !SXF/VER! [exchange, dummy, c0]
+ <19, 1> " 再表示 " !SXF/ZOOM! [exchange, mdf_sxfzoom, c1]
+ <20, 1> " 次ページ " [exchange1_2, dummy, c1]
#endif

/ データ交換 SXF

/ Pagename = exchange1_2

#ifdef WIN32
Menu [exchange1_2, 1, 4, c2]
+ < 1, 1> " S X F " [exchange1_2, mdf_sxfzoom, c4]
+ < 2, 1> " 読み込み " !SXF/READ! [exchange1_2, mdf_sxfread3,
c0]
+ < 3, 1> " 書き込み " !SXF/WRITE! [exchange1_2, mdf_sxfwrite3, c0]
+ < 4, 1> " 確認 " [exchange1_2, dummy, c4]
+ < 5, 1> " 部分図確認 " !SXF/PIC_LIST! [exchange1_2, dummy, c0]
+ < 6, 1> " 名称一覧 " !SXF/LIST! [exchange1_2, dummy, c0]
+ < 7, 1> " 図形確認 " !SXF/VER! [exchange1_2, mdf_sxfverify, c0]
+ < 8, 1> " 確認機能 " !SXF/CONFIRM! [exchange1_2, dummy, c0]
+ < 9, 1> " 図形作成編集 " [exchange1_2, dummy, c4]
+ <10, 1> " 等高線 " !SXF/CNT! [exchange1_2, mdf_sxfcontour, c0]
+ <11, 1> " マーカー " !SXF/MARKER! [exchange1_2, mdf_sxfmarker, c0]
+ <12, 1> " ハッチング " [exchange1_2, mdf_sxfhatch, c1]
+ <13, 1> " 移動・回転 " !SXF/MOVE! [exchange1_2, mdf_sxfmove, c0]
+ <14, 1> " 表示順 " !SXF/SEQUENCE! [exchange1_2, mdf_sxfseq, c0]
+ <15, 1> " 設定 " [exchange1_2, dummy, c4]
+ <16, 1> " レイヤ設定 " !SXF/LAY! [exchange1_2, dummy, c0]
+ <17, 1> " 部分図倍率 " !SXF/PIC_SCF! [exchange1_2, dummy, c0]
+ <18, 1> " 印刷・プレビュー " [exchange1_5, dummy, c1]
+ <19, 1> " 再表示 " !SXF/ZOOM! [exchange1_2, mdf_sxfzoom, c1]
+ <20, 1> " 次ページ " [exchange1_3, dummy, c1]

/ Pagename = exchange1_3

Menu [exchange1_3, 1, 4, c2]
+ < 1, 1> " 表題欄 " [exchange1_3, mdf_sxfzoom, c4]
+ < 2, 1> " 表題欄設定 " !SXF/TTL_SET! [exchange1_3, dummy, c0]
+ < 3, 1> " 表題欄属性 " !SXF/TTL_CRE! [exchange1_3, mdf_sxfttl, c0]
+ < 4, 1> " 属性 " [exchange1_3, dummy, c4]
+ < 5, 1> " 属性 " !SXF/ATTRSET! [exchange1_3, dummy, c0]
+ < 6, 1> " 複合図形 " [exchange1_3, dummy, c4]
+ < 7, 1> " 配置 " !SXF/SFIG_REF! [exchange1_3, dummy, c0]
+ < 8, 1> " 作成・編集 " !SXF/SFIG_GEN! [exchange1_3, dummy, c0]
+ < 9, 1> " 配置修正 " !SXF/SFIG_EDT! [exchange1_3, dummy, c0]
+ <10, 1> " 分解 " !SXF/SFIG_BRK! [exchange1_3, dummy, c0]
+ <11, 1> " 削除 " !SXF/SFIG_DEL! [exchange1_3, dummy, c0]
+ <12, 1> " ユーザ定義 " [exchange1_3, dummy, c4]
+ <13, 1> " 色 " !SXF/USER_CLR! [exchange1_3, dummy, c0]
+ <14, 1> " 線種 " !SXF/USER_LFT! [exchange1_3, dummy, c0]
+ <15, 1> " 線幅 " !SXF/USER_LWT! [exchange1_3, dummy, c0]
+ <17, 1> " 図形確認 " !SXF/VER! [exchange1_3, dummy, c0]
+ <18, 1> " 再表示 " !SXF/ZOOM! [exchange1_3, mdf_sxfzoom, c1]
+ <19, 1> " 前ページ " [exchange1_2, dummy, c1]
+ <20, 1> " 次ページ " [exchange1_4, dummy, c1]

/ Pagename = exchange1_4

```

```

Menu [exchange1_4, 1, 4, c2]
+ < 1, 1> " 製図基準 " [exchange1_4, dummy, c4]
+ < 2, 1> " テンプレート " !SXF/TEMPLATE! [exchange1_4, mdf_sxftemplate, c0]
+ < 3, 1> " オプション " [exchange1_4, dummy, c4]
+ < 4, 1> " オプション " !SXF/OPTION! [exchange1_4, dummy, c0]
+ <20, 1> " 前ページ " [exchange1_3, dummy, c1]

```

```
/ Pagename = exchange1_5
```

```

Menu [exchange1_5, 1, 4, c2]
+ < 1, 1> " 印刷 " [exchange1_5, mdf_sxfzoom, c4]
+ < 2, 1> " 図面 " !SXF/PRINT! [exchange1_5, dummy, c0]
+ < 3, 1> " 画面 " !SXFCOPY/PRINT! [exchange1_5, dummy, c0]
+ < 4, 1> " プレビュー " [exchange1_5, dummy, c4]
+ < 5, 1> " 図面 " !SXF/PREVIEW! [exchange1_5, dummy, c0]
+ < 6, 1> " 画面 " !SXFCOPY/PREVIEW! [exchange1_5, dummy, c0]
+ <20, 1> " 戻る " [exchange1_2, dummy, c1]
#endif

```

```
#ifdef WIN32
```

```
/ Pagename = mdf_sxfread
```

```

Menu [mdf_sxfread, 1, 17, c3]
+ <11, 1> " 読み込み " [none, none, c4]
+ <12, 1> " ファイル名 " !FNM!
+ <13, 1> " 新規 " !NEW!
+ <14, 1> " 追加 " !ADD!
+ <15, 1> " 製図基準 " !CADSTD!
+ <16, 1> " 図面種別 " !PLANTYP!
+ <17, 1> " 朱書ファイル " [none, none, c4]
+ <18, 1> " 読み込む " !ONN!
+ <19, 1> " 読み込まない " !OFF!
+ <20, 1> " 変換 P A R M " !PARAM!

```

```
/ Pagename = mdf_sxfread3
```

```

Menu [mdf_sxfread3, 1, 17, c3]
+ < 2, 1> " 読み込み " [none, none, c4]
+ < 3, 1> " ファイル名 " !FNM!
+ < 4, 1> " 新規 " !NEW!
+ < 5, 1> " 追加 " !ADD!
+ < 6, 1> " 製図基準 " !CADSTD!
+ < 7, 1> " 図面種別 " !PLANTYP!
+ < 8, 1> " 朱書ファイル " [none, none, c4]
+ < 9, 1> " 読み込む " !ONN!
+ <10, 1> " 読み込まない " !OFF!
+ <11, 1> " 変換 P A R M " !PARAM!

```

```
/ Pagename = mdf_sxfwrite
```

```

Menu [mdf_sxfwrite, 1, 17, c3]
+ <12, 1> " 書込み " [none, none, c4]
+ <13, 1> " ファイル名 " !FNM!
+ <14, 1> " ページ番号 " !PAGE!
+ <15, 1> " 作成者 " !NME!
+ <16, 1> " 組織 " !ORG!
+ <17, 1> " 変換 P A R M " !PARAM!

```

---

/ Pagename = mdf\_sxfwrite3

Menu [mdf\_sxfwrite3, 1, 17, c3]  
+ < 3, 1> " 書込み " [none, none, c4]  
+ < 4, 1> " ファイル名 " !FNM!  
+ < 5, 1> " ページ番号 " !PAGE!  
+ < 6, 1> " 作成者 " !NME!  
+ < 7, 1> " 組織 " !ORG!  
+ < 8, 1> " 変換 P A R M " !PARAM!

/ Pagename = mdf\_sxfmove

Menu [mdf\_sxfmove, 1, 17, c3]  
+ < 13, 1> " 移動・回転 " [none, none, c4]  
+ < 14, 1> " 複製しない " !OFF!  
+ < 15, 1> " 複製する " !DUP!  
+ < 16, 1> " 原点 " !ORG!  
+ < 17, 1> " 倍率 XY " !SCF!  
+ < 18, 1> " 倍率 X " !XSCF!  
+ < 19, 1> " 倍率 Y " !YSCF!  
+ < 20, 1> " 角度 " !ANG!

/ Pagename = mdf\_sxftemplate

Menu [mdf\_sxftemplate, 1, 17, c3]  
+ < 2, 1> " テンプレート " [none, none, c4]  
+ < 3, 1> " ファイル名 " !FNM!

/ Pagename = mdf\_sxfverify

Menu [mdf\_sxfverify, 1, 17, c3]  
+ < 7, 1> " 図形確認 " [none, none, c4]  
+ < 8, 1> " セグメント " !SEG!  
+ < 9, 1> " Area 表示 " !ACTL\_SHOW!  
+ < 10, 1> " Area 非表示 " !ACTL\_NOSHOW!  
+ < 11, 1> " 属性一覧 " !ATTR\_LIST!

/ Pagename = mdf\_sxfcontour

Menu [mdf\_sxfcontour, 1, 17, c3]  
+ < 10, 1> " 等高線 " [none, none, c4]  
+ < 11, 1> " 作成 " !ATTR\_CRE!  
+ < 12, 1> " 編集 " !ATTR\_EDT!  
+ < 13, 1> " 削除 " !ATTR\_DEL!  
+ < 14, 1> " 高さ " !ALTITUDE!  
+ < 15, 1> " 自動通番 " !NUM!  
+ < 16, 1> " 名称入力 " !NME!  
+ < 17, 1> " 単位 " !UNIT!

/ Pagename = mdf\_sxfmarker

Menu [mdf\_sxfmarker, 1, 17, c3]  
+ < 11, 1> " 種別 " [none, none, c4]  
T < 12, 1> " \* " !MRK 291!  
T < 13, 1> " O " !MRK 292!  
T < 14, 1> " . " !MRK 0!  
T < 15, 1> " + " !MRK 294!

```
T <16, 1> " □ "      !MRK 295!
T <17, 1> " △ "      !MRK 296!
T <18, 1> " × "      !MRK 297!
+ <19, 1> " 倍率 "    !SCF!
+ <20, 1> " 角度 "    !ANG!
```

/ Pagename = mdf\_sxfhatch

```
Menu [mdf_sxfhatch, 1, 17, c3]
+ <12, 1> " ハッチング " [none, none, c4]
+ <13, 1> " ユーザ定義 " !SXF/HATCH_USR!
+ <14, 1> " パターン " !SXF/HATCH_PAT!
+ <15, 1> " 塗り " !SXF/HATCH_FIL!
+ <16, 1> " 既定義 " !SXF/HATCH_DEF!
```

/ Pagename = mdf\_sxfseq

```
Menu [mdf_sxfseq, 1, 17, c2]
+ < 6, 1> " 表示順 " [none, none, c4]
+ < 7, 1> " 最前面 " !FRONTMOST!
+ < 8, 1> " 前面 " !FRONTONE!
+ < 9, 1> " 後面 " !BEHINDONE!
+ <10, 1> " 最後面 " !BEHINDMOST!
+ <11, 1> " アイテムの " [none, none, c4]
+ <12, 1> " 前面 " !FRONTITEM!
+ <13, 1> " 後面 " !BEHINDITEM!
+ <14, 1> " 再表示 " !REPAINT!
```

/ Pagename = mdf\_sxfttl

```
Menu [mdf_sxfttl, 1, 17, c3]
+ < 3, 1> " 標題欄属性 " [none, none, c4]
+ < 4, 1> " 作成 " !ATTR_CRE!
+ < 5, 1> " 追加 " !ATTR_ADD!
+ < 6, 1> " 削除 " !ATTR_DEL!
```

/ Pagename = mdf\_sxfzoom

```
Menu [mdf_sxfzoom, 7, 17, c3]
+ < 1, 1> " 拡大／縮小 " !SXF/ZOOMMENU! [none, none, c4]
+ < 2, 1> " 再表示 " !SXF/RPT!
+ < 3, 1> " 対角2点 " !SXF/ZOOM!
+ < 4, 1> " 拡大 " !SXF/ZOOMUP!
+ < 5, 1> " 縮小 " !SXF/ZOOMDOWN!
+ < 6, 1> " 全体 " !SXF/ZOOMALL!
+ < 7, 1> " 全体_全部 " !SXF/ZOOMALLVIE!
+ < 8, 1> " 位置の移動 " !SXF/PAN!
#endif // WIN32
```

• メッセージの修正・追加

【MSG11.TXT】すべて追加

```
+ (1101167) " 初期化 " <← 追加
+ (1101168) " しない " <← 追加
+ (1101169) " する " <← 追加

+ (1101229) " 表題_図面種別 " <← 変更
```

+ (1101275) " 変換内容 " <-- 変更

/ 標題欄属性

+ (1101331) " 作成 " <-- 修正

+ (1101332) " 追加 " <-- 修正

+ (1101333) " 削除 " <-- 修正

+ (1101334) " 標題欄属性 : " <-- 修正

/+ (1101335) "" <-- 修正

+ (1101336) " 標題欄属性を付加する文字列を選択 " <-- 修正

+ (1101337) " 標題欄属性が付加された文字列を選択 " <-- 修正

/+ (1101338) "" <-- 修正

/+ (1101339) "" <-- 修正

+ (1101608) "Area\_control 確認 " <-- 追加

【ERR11.TXT】すべて追加

+ (1101510) " X Y 異縮尺には対応していません "

/ STEP SXF 属性

+ (1101561) " このアイテムには属性が付加されていません "

+ (1101562) " ファイル属性で属性値 <\$\$\$> が使用されています。ATRS は付加できません。 "

+ (1101563) " 文字アイテムではありません "

+ (1101564) " 属性が付加されている複合図形は分解（複製、異縮尺）できません "

+ (1101565) " 属性が付加されている複合図形は分解できません "

+ (1101566) " 複合図形ではありません "

+ (1101567) " 既に表題欄は作成されています "

+ (1101568) " このアイテムは既にターゲットに設定されています "

+ (1101569) " このアイテムはターゲットではありません "

+ (1101570) " 図面属性は付加されていません "

+ (1101571) " 作図グループはありません "

+ (1101572) " 削除しようとしている属性はターゲット属性です "

+ (1101573) " 選択したアイテムは作図グループではありません "

+ (1101574) " 空きピクチャがありません "

+ (1101575) " 作図グループは編集中です "

/ STEP SXF 標題欄属性

+ (1101581) " 選択されたアイテムは文字列ではありません "

+ (1101582) " 選択されたアイテムは既に標題欄属性が付加されています "

+ (1101583) " 選択されたアイテムには標題欄属性が付加されていません "

+ (1101584) " 作成年月日には追加できません "

+ (1101585) " 図面番号には追加できません "

+ (1101586) " 図面総数には追加できません "

+ (1101587) " 選択されたアイテムには既定義属性が付加されています "

+ (1101588) " 作成年月日の書式に誤りがあります "

## 2.12.2 確認機能に対応してほしい

[リクエスト番号] : なし  
 [コマンド] : SXF/CONFIRM  
 [リリース] : V20.00  
 [区分] : 機能追加  
 [メニュー] :



## 【要望】

SXF 確認機能に対応してほしい。

## 【対応】

SXF 確認機能に対応しました。

OCF 検定の SXF 確認機能検定の認証（16311420170）を取得しました。

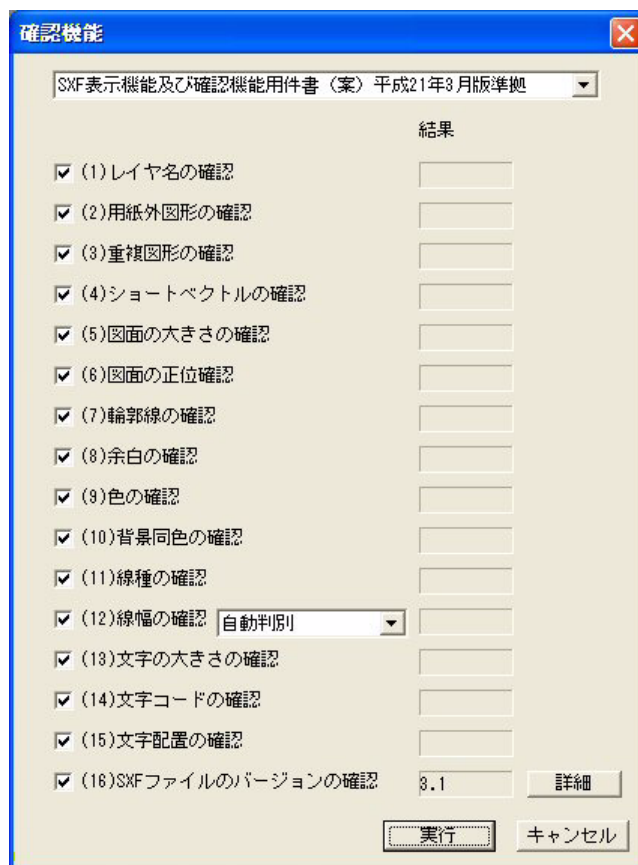
SXF 確認機能の対応に伴いいくつかのコマンドの追加・機能修正を行いました。

SXF/CONFIRM	: 確認機能	<-- 追加
SXF/OPTION	: 各種設定	<-- 追加
SXF/PREVIEW	: 図面のプレビュー	<-- 追加
SXFCOPY/PREVIEW	: 画面のプレビュー	<-- 追加
SXF/RPT	: 異縮尺部分図（ピクチャ）の表示	<-- 機能修正
	: ラスターを透過モードで表示	

- SXF/CONFIRM（確認機能：ダイアログモードのみ）

次の 16 項目について確認します。

確認機能ダイアログ



- (1) レイヤ名  
レイヤ名が命名規則に則って付けられているかを確認
- (2) 用紙外図形  
用紙外に作図されていないかを確認
- (3) 重複図形  
図形が重複していないかを確認
- (4) ショートベクトル  
短い線分が連続していないかを確認

- 
- (5) 図面の大きさ  
図面の大きさが A サイズかを確認
  - (6) 面の正位  
図面の方向が横で使用されているかを確認
  - (7) 輪郭線  
輪郭線の線種・線幅が規則に則っているかを確認
  - (8) 余白  
余白が規則に則っているかを確認
  - (9) 色  
既定義色以外の色が使われていないかを確認
  - (10) 背景同色  
背景色と同じ色が使われていないかを確認
  - (11) 線種  
線種が規則に則っているかを確認
  - (12) 線幅  
線幅が規則に則っているかを確認  
使用線幅 1:2:4 の組合せを指示することができます。  
指示がない場合は自動で組合せを決めます。
  - (13) 文字の大きさ  
文字の大きさが規則に則っているかを確認
  - (14) 文字コード  
文字コードが規則に則っているかを確認
  - (15) 文字配置  
文字配置が規則に則っているかを確認
  - (16) SXF ファイルのバージョン  
SXF ファイルのバージョンを確認

各項目の詳細については国土交通省：SXF 表示機能及び確認機能要件書（案）  
<http://www.cals-ed.go.jp/> 電子納品に関する要領・基準  
左側メニューの『電子納品に関する要領・基準』  
ページ最後方の『SXF Ver3.1 仕様書、表示機能及び確認機能要件書（案）へ』  
ページ最後方の SXF 表示機能及び確認機能要件書（案）H21.3 『PDF ファイ：  
809KB』  
及びオープン CAD フォーマット評議会  
<http://www.ocf.or.jp/> オープン CAD フォーマット評議会  
左側メニューの『OCF 検定』  
左側メニューの『OCF 検定合格基準、規約類』  
ページ中ほどの SXF 確認機能検定『同 実装規約』  
を参照ください。

## 確認結果ダイアログ



## 確認結果の表示 (&lt;CE&gt; で終了します)

ダイアログの一覧で背景が白色表示されている項目は目視確認が必要な項目です。一覧で背景が白色表示されている項目をマウスの左ボタンでクリックし『表示』で確認項目の図形を表示させることができます。複数項目選択できます。一覧で背景が白色表示されている項目をマウスの右ボタンでクリックすると確認した内容が表示されます。表示したダイアログはダイアログ内をマウスでクリックすると閉じます。

 マーク表示

図形の始点又は基準点にマークを表示します。  
マークは表示倍率に関係なく一定の大きさで表示します。  
ショートベクトル等の確認に有効です。

 元図単色表示

元図を単色で表示します。(元図はグリッド色で表示します。)

 ブリンク

確認図形を点滅表示します。

## 『表示色』

表示色の RGB 値を変更することができます。  
変更は確認機能コマンドが実行されている間のみ有効です。

## 『設定保存』

マーク表示、元図単色表示、ブリンクの設定及び  
表示色のグリッド色、一時図形色を保存します。

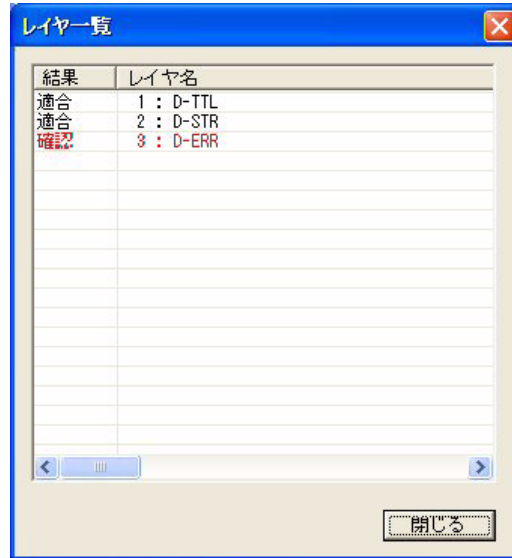
## 『表示』

一覧で選択された図形を表示します。(一時図形色で表示します。)

## 『レイヤー一覧』

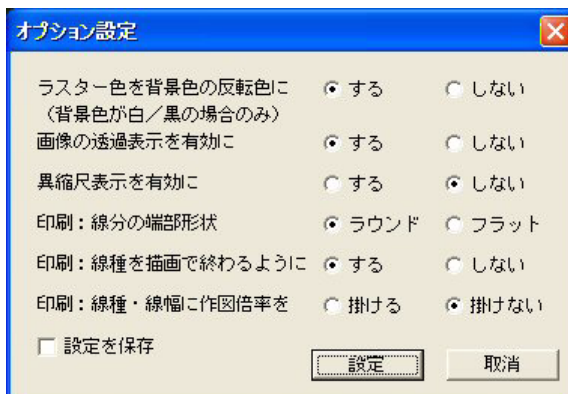
レイヤ名の一覧を別ダイアログで表示します。

## レイヤ名表示ダイアログ



- SXF/OPTION (各種設定 : ダイアログモードのみ)

## オプション設定ダイアログ



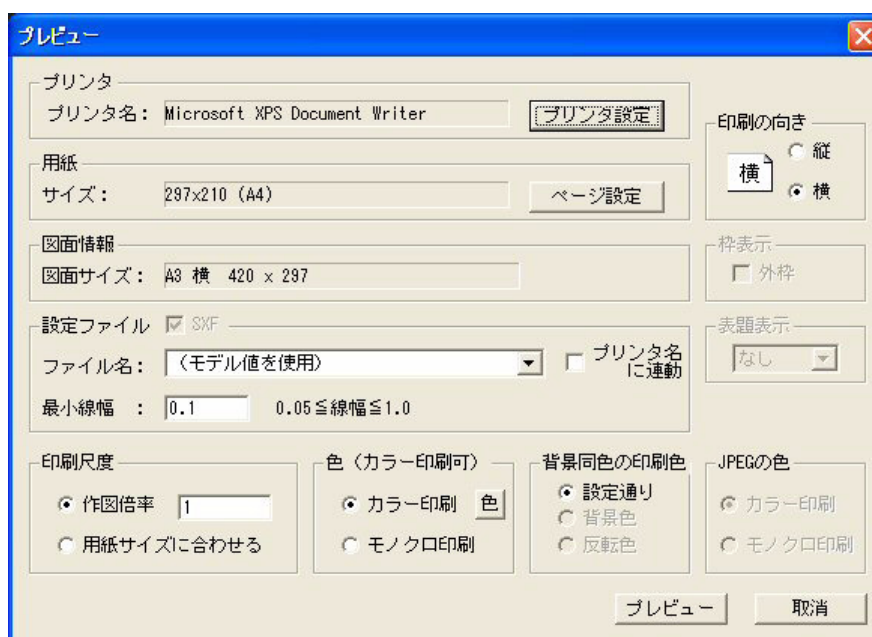
- ラスター色を背景色の反転色に  
ラスターはグリッド色で描画していますが背景色が白/黒の場合に限って黒/白で描画します。
- 画像の透過表示を有効に  
TIFF イメージの背景を透過モードで描画します。
- 異縮尺表示を有効に  
XY 異縮尺の部分図 (ピクチャ) を描画します。  
描画のみでアイテムの作成・編集は行えません。
- 印刷 : 線分の端部形状  
線分の端部形状を丸又はフラットで描画します。
- 印刷 : 線種を描画で終わるように  
線分の端点が必ず描画で終わるようにする又はしない。
- 印刷 : 線種・線幅に作図倍率を  
線種・線幅に作図倍率を掛ける又は掛けない。

- 設定を保存  
設定内容を保存します。

• SXF/PREVIEW（図面印刷のプレビュー：ダイアログモードのみ）

図面印刷をプレビューし印刷の確認を行います。

図面印刷プレビューダイアログ



『プリンタ設定』

『ページ設定』

印刷の向き

縦

横

設定ファイル

SXF

▼ファイル名

最小線幅

プリンタに連動

印刷倍率

作図倍率

用紙サイズに合わせる

色

カラー印刷

『色』

モノクロ印刷

背景同色の印刷色

設定通り

背景色

出力するプリンタを選択します。注1)

用紙サイズ、余白等を設定します。

印刷の向きを選択します。

用紙の縦方向に印刷します。

用紙の横方向に印刷します。

設定ファイルを設定します。

設定ファイルを SXF 用で使用します。注2)

設定ファイルを選択します。注3)

設定ファイルで (モデル値を使用) を選択した場合最小線幅を指定します。

設定ファイルをプリンタ名に連動させます。

印刷倍率を設定します。

倍率を指定して印刷します。

用紙サイズに合わせて印刷します。

印刷色を設定します。注4)

カラーで印刷します。

色の RGB 値を変更します。

注) 変更された内容はプレビュー実行中のみ有効です。

モノクロで印刷します。

背景色が白/黒の場合の白/黒色の印刷指定を選択します。

注) 背景が黒の場合、白は黒で印刷します。

設定されたとおりに印刷します。

背景色と同じ色 (白/黒) で印刷します。

○反転色	背景色の反転色（黒／白）で印刷します。
JPEG の色	モノクロ印刷の場合に JPEG の色を選択します。
○カラー印刷	カラーで印刷します。
○モノクロ印刷	モノクロで印刷します。
『プレビュー』	プレビューを開始します。
『取消』	プレビューを取消します。

注 1) 選択したプリンタが印刷可能でない場合は正しくプレビューは行えません。

注 2) チェックがオンの場合、設定ファイルを SXF 用として使用します。

既定義色（1～16）は、設定ファイルの設定を使用します。

ユーザ定義色（17～256）は、モデルに設定されている色を使用します。

既定義線幅（1～9）は、設定ファイルの設定を使用します。

ユーザ定義線幅（11～16）は、モデルに設定されている線幅を使用します。

定義がない場合は線幅 1 を使用します。

チェックがオフの場合、色・線幅は設定ファイルの設定を使用します。

注 3) 設定ファイルがない場合または『(モデル値を使用)』が選択された場合はモデルに設定されている色、線幅を使用します。

注 4) プリンタがカラー印刷できない場合でもプレビューはカラーで表示されることがあります。

#### プレビューのメッセージゾーン

全体表示	拡大表示	対角 2 点
	縮小表示	位置移動
印刷	戻る	

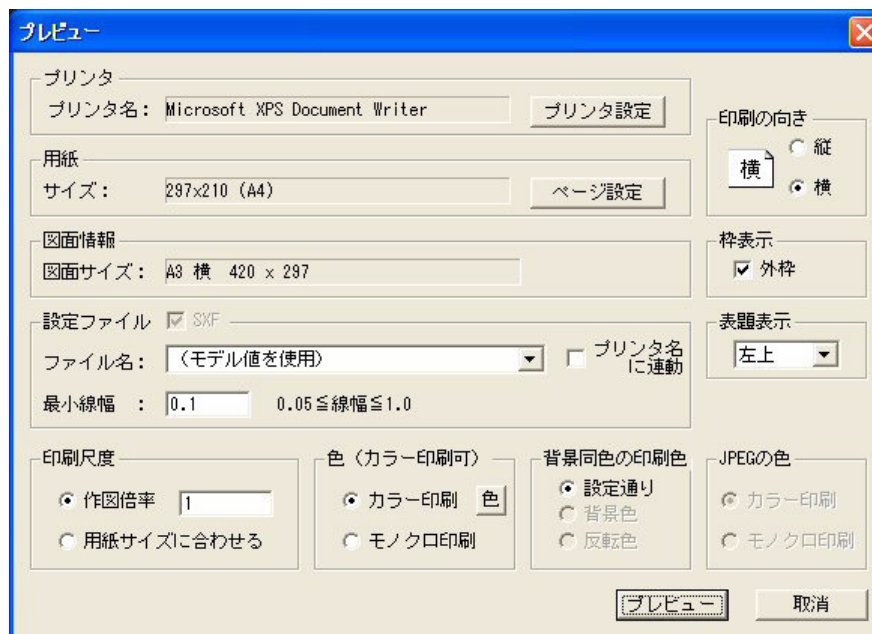
プレビューの拡大／縮小表示等はメッセージゾーンのメニューを選択して行ってください。<CE> でプレビューは終了します。

全体表示	全体を表示します。
拡大表示	拡大表示します。
縮小表示	縮小表示します。
対角 2 点	対角 2 点で指定された範囲を表示します。
位置移動	表示位置を移動させます。
戻る	1 つ前の表示状態に戻します。
印刷	印刷処理を行います。 図面印刷ダイアログが表示されます。 プレビューで設定した内容が引き継がれます。

#### • SXFCOPY/PREVIEW: 画面印刷のプレビュー（ダイアログモードのみ）

画面印刷をプレビューし印刷の確認を行います。

## 画面印刷プレビューダイアログ



『プリンタ設定』

『ページ設定』

印刷の向き

 縦 横

枠表示

 外枠

表題表示

▼表示位置

設定ファイル

 SXF

▼ファイル名

最小線幅

 プリンタに連動

印刷倍率

 作図倍率 用紙サイズに合わせる

色

 カラー印刷

『色』

 モノクロ印刷

背景同色の印刷色

 設定通り 背景色 反転色

JPEG の色

 カラー印刷 モノクロ印刷

『プレビュー』

出力するプリンタを選択します。注1)

用紙サイズ、余白等を設定します。

印刷の向きを選択します。

用紙の縦方向に印刷します。

用紙の横方向に印刷します。

枠表示を設定します。

枠を表示します。

表題表示を設定します。

表示位置を選択します。

設定ファイルを設定します。

設定ファイルを SXF 用で使用します。注2)

設定ファイルを選択します。注3)

設定ファイルで (モデル値を使用) を選択した場合  
最小線幅を指定します。

設定ファイルをプリンタ名に連動させます。

印刷倍率を設定します。

倍率を指定して印刷します。

用紙サイズに合わせて印刷します。

印刷色を設定します。注4)

カラーで印刷します。

色の RGB 値を変更します。

注) 変更された内容はプレビュー実行中のみ  
有効です。

モノクロで印刷します。

背景色が白/黒の場合の白/黒色の印刷指定を  
選択します。

注) 背景が黒の場合、白は黒で印刷します。

設定されたとおりに印刷します。

背景色と同じ色 (白/黒) で印刷します。

背景色の反転色 (黒/白) で印刷します。

モノクロ印刷の場合に JPEG の色を選択します。

カラーで印刷します。

モノクロで印刷します。

プレビューを開始します。

『取消』

プレビューを取消します。

注 1) 選択したプリンタが印刷可能でない場合は正しくプレビューは行えません。

注 2) チェックがオンの場合、設定ファイルを SXF 用として使用します。

既定義色 (1 ~ 16) は、設定ファイルの設定を使用します。

ユーザ定義色 (17 ~ 256) は、モデルに設定されている色を使用します。

既定義線幅 (1 ~ 9) は、設定ファイルの設定を使用します。

ユーザ定義線幅 (11 ~ 16) は、モデルに設定されている線幅を使用します。

定義がない場合は線幅 1 を使用します。

チェックがオフの場合、色・線幅は設定ファイルの設定を使用します。

注 3) 設定ファイルがない場合または『(モデル値を使用)』が選択された場合はモデルに設定されている色、線幅を使用します。

注 4) プリンタがカラー印刷できない場合でもプレビューはカラーで表示されることがあります。

プレビューのメッセージゾーン

全体表示	拡大表示	対角 2 点
	縮小表示	位置移動
印刷	戻る	

プレビューの拡大／縮小表示等はメッセージゾーンのメニューを選択して行ってください。<CE> でプレビューは終了します。

全体表示

全体を表示します。

拡大表示

拡大表示します。

縮小表示

縮小表示します。

対角 2 点

対角 2 点で指定された範囲を表示します。

位置移動

表示位置を移動させます。

戻る

1 つ前の表示状態に戻します。

印刷

印刷処理を行います。

図面印刷ダイアログが表示されます。

プレビューで設定した内容が引き継がれます。

- SXF/RPT (異縮尺部分図 (ピクチャ) の表示、ラスターを透過モードで表示)

異縮尺の部分図 (ピクチャ) を表示します。

ラスター背景を透過で表示します。

SXF/ZOOMALL、SXF/ZOOMALLVIE、SXF/ZOOM、SXF/ZOOMUP、

SXF/ZOOMDOWN、SXF/PAN、SXF/RPT での表示及び SXF/VER での選択は

異縮尺に対応していますがその他のコマンド (図形作成、編集、表示等) は対応していません。

## 【モデルダウンコンバータ】

### 2.12.3 モデルダウンコンバータ

〔リクエスト番号〕 : なし

〔コマンド〕 : mdlconv.exe

〔リリース〕 : 20.00

〔区分〕 : 機能追加

〔メニュー〕 :

#### 【要望】



モデルファイルを下位のバージョンでも読込めるようにしてほしい。

#### 【対応】

モデルファイルを下位のバージョンでも読込めるようにしました。

### 2.12.4 モデルダウンコンバータ（ダイアログ版）

〔リクエスト番号〕：なし  
 〔コマンド〕：mdlconv\_dlg.exe  
 〔リリース〕：20.00  
 〔区分〕：機能追加  
 〔メニュー〕：

#### 【要望】

ダウンコンバートをダイアログでできるようにしてほしい。

#### 【対応】

ダイアログでダウンコンバートができるようにしました。

### 【APG】

### 2.12.5 APGを一覧図から選択する

〔リクエスト番号〕：E18044  
 〔コマンド〕：APG/DSP  
 〔リリース〕：19.01  
 〔区分〕：追加  
 〔メニュー〕：あり

#### 【要望】

APG 配置時に、一覧図から APG を選択できるようにして欲しい。

#### 【対応】

APG を一覧図から選択する機能を追加しました。

#### 【構文】

- APG 形状を一覧表示する。

指定した APG ファイルの形状を一覧表示する。APG ファイル名にワイルドカードを指定できる。

APG 配置コマンドが動作中の場合は、表示された APG 形状を選択すると APG ファイル名が APG 配置コマンドに渡される。

APG/DSP [ BRK s ] filename

表示数を変更するときに指定する。

BRK s : 1画面に表示する APG 数を入力する。s は 1 ~ 256 の整数。

表示する APG ファイル名を指定する。

filename : 表示する APG ファイル名を入力する。ワイルドカードが指定できる。  
 指定した APG の形状が表示される。  
 APG 形状をマウスで選択すると、APG ファイル名が動作中のコマンドに渡される。

#### 【メニュー】

ACADCMD. MEN に以下の行を追加  
+ [52, 1, 4] !APG/DSP!

ACADOSM. MEN

Pagename = apg に以下の行を追加  
+ < 8, 1> "表示" !APG/DSP! [none, mdf\_apgdsp, c0]  
Pagename = mdf\_apgdsp を追加  
Menu [mdf\_apgdsp, 3, 17, c3]  
+ < 8, 1> "画面分割数" !BRK!

## 2.12.6 APG ファイル変更

[ リクエスト番号 ]: E19001  
[ コマンド ]: APGANAL  
[ リリース ]: 20.00  
[ 区分 ]: 変更  
[ メニュー ]: なし

### 【変更】

バージョン 20 の APG ファイル（拡張子 .APX）に変更があります。ファイルの書式は同じですが、下記に掲げる項目の値が変更になっています。バージョン 19 以下の APG ファイルはそのままバージョン 20 でも使用できます。バージョン 20 で作成した APG ファイルをバージョン 19 以下で使用するのは避けてください。

#### 1) ファイルバージョン番号

ファイルの先頭にある下記の行でバージョン番号 5.02 を示します。  
/Revision [ 502 ] Advance CAD APX  
以前（V13 - V19）は 5.01 でした。

#### 2) アイテム属性の上限値を拡張

幾何要素、スプライン、シンボル、寸法、注記レコードのアイテム属性の上限を APG のアイテム属性にも適応しました。

属性	以前の上限	新しい上限
クラス	255	256
レビジョン	127	256
線種	31	63
線幅	7	16

#### 3) テキストフォントの上限値を拡張

テキストフォントの上限を APG のテキストフォントにも適応しました。

#### 4) テキストとマークの角度

以前は角度は度単位でしたが少数点以下も出力するようになりました。マークが引き出し線の矢であれば、矢の向きは引き出し線に合わせますので、この角度は無視します。

## 2.12.7 APG 注記のレビジョン

[ リクエスト番号 ]: E19002  
[ コマンド ]: APGPARAM  
[ リリース ]: 20.00  
[ 区分 ]: 変更  
[ メニュー ]: なし

**【変更】**

注記アイテムのビジョンは APG ファイルの注記レコードに記述されているレビジョンを使用するよう変更しました。幾何要素レコードなど他のレコードはそうになっており、注記レコードだけが例外でした。

**2.12.8 APG 配置 CLSOFS**

[ リクエスト番号 ]: E19050  
 [ コマンド ]: APGPARAM  
 [ リリース ]: 20.00  
 [ 区分 ]: 変更  
 [ メニュー ]: なし

**【変更】**

APG 配置コマンドの CLSOFS 修飾子で、作成するアイテムのクラス番号を変更することができます。CLSOFS 修飾子で加算値を指定します。APG の元の図形のクラス番号にこの値を加算したクラス番号を使います。この時クラス番号が最小値、最大値を超えたときの処理が不統一でした。加算値に関わらず整合性のある結果になるようなクラス番号の計算規則に変えました。

以前の計算規則では加算値により異なる結果になりました。

- 加算値 0 は変更なしです。
- 加算値 1 は問題ありません。
- 加算値が 2 以上になるとクラス 1 が 2 個あります。
- 加算値が負の時はクラス 1 が沢山あります。

加算数	加算後のクラス番号 (1-255)
3	4 5 6 7 8 ... 254 255 1 1 2
2	3 4 5 6 7 ... 253 254 255 1 1
1	2 3 4 5 6 ... 252 253 254 255 1
0	1 2 3 4 5 ... 251 252 253 254 255
- 1	1 1 2 3 4 ... 50 251 252 253 254
- 2	1 1 1 2 3 ... 249 250 251 252 253
- 3	1 1 1 1 2 ... 248 249 250 251 252

加算値によらず、クラス番号の重複がない、新しい規則に変更しました。以下はクラス番号 1-2 5 6 に加算値を加えた後のクラス番号の表です。

加算数	加算後のクラス番号 (1-256)
3	4 5 6 7 8 ... 254 255 256 1 2 3
2	3 4 5 6 7 ... 253 254 255 256 1 2
1	2 3 4 5 6 ... 252 253 254 255 256 1

加算数	加算後のクラス番号 (1-256)
0	1 2 3 4 5 ... 251 252 253 254 255 256
- 1	256 1 2 3 4 ... 250 251 252 253 254 255
- 2	255 256 1 2 3 ... 249 250 251 252 253 254
- 3	254 255 256 1 2 ... 248 249 250 251 252 253

## 【パーツ】

### 2.12.9 配置済みのパーツをピックしてサイズを指定する

[ リクエスト番号 ]: E17046  
 [ コマンド ]: PSIZE  
 [ リリース ]: 19.03  
 [ 区分 ]: 追加  
 [ メニュー ]: なし

#### 【要望】

パーツサイズ変更で、配置済みのパーツをピックすることで変更後のサイズが指定できると便利。

#### 【対応】

配置済みのパーツをピックすることでサイズ指定できるように機能追加しました。

#### 【構文】

- パーツ・パーツセットをサイズ変更する。

```
PSIZE IS1 { name } <CE>
          { IS2 }
```

変更後のサイズを次のいずれかで指示する。

NAME : サイズ名を入力する。ワイルドカードが使用できる。  
 IS2 : 配置済みのパーツ・パーツセットをピックする。  
 ピックしたパーツ・パーツセットと同じサイズになる。

### 2.12.10 パーツサイズ変更の結果をテンポラリ図形で表示する

[ リクエスト番号 ]: E17048  
 [ コマンド ]: PSIZE  
 [ リリース ]: 19.04  
 [ 区分 ]: 追加  
 [ メニュー ]: なし

#### 【要望】

パーツサイズ変更で、変更後のサイズを指定したときに、変更結果をテンポラリ図形で表示して欲しい。

#### 【対応】

変更後のサイズが指定されたときに、変更結果をテンポラリ図形で表示するように修正しました。<CE> で確定します。

### 2.12.11 複合アイテム内のパーツを参照する

[ リクエスト番号 ]: E19022  
 [ コマンド ]: PARTS, PSIZE, PVER  
 [ リリース ]: 19.05  
 [ 区分 ]: 追加  
 [ メニュー ]: なし

#### 【要望】

パーツ配置時に、既に配置されているパーツをピックすることで新たに配置するパーツを選択できるが、複合アイテム内のパーツも選択できるようにしてほしい。

#### 【対応】

パーツ配置 (PARTS)、パーツサイズ変更 (PSIZE)、パーツベリファイ (PVER) コマンドで、既に配置されているパーツを参照する場合は、複合アイテム内のパーツも参照できるように変更しました。ただし、複合アイテム内のパーツは、配置時に配置切り替えを選択して「APG 配置」としたパーツでなければなりません。APG 配置としていないパーツを複合アイテム化すると、パーツとしての情報が捨てられて、パーツとは認識できません。

### 【マクロ】

### 2.12.12 モデル変更の有無を取得／設定する

[ リクエスト番号 ]: E19009  
 [ コマンド ]: マクロ関数  
 [ リリース ]: 18.17, 19.02  
 [ 区分 ]: 新規  
 [ メニュー ]: なし

#### 【変更】

出図時にマクロで図面配置情報を一時的に変更している。複数のモデルの出図を連続で行う場合、出図モデルを呼び出すときに直前のモデルの保存確認の警告が表示される。この警告を出さないようにしてほしい。

#### 【対応】

マクロ関数 dbchgd() に、モデル変更の有無を設定する機能を追加しました。

- モデル変更の有無を調べる。

```
s = dbchgd();
```

モデルが変更されているときは 1、変更されていないときは 0 を返す。  
 モデルが変更されているというのは以下のうちの一つ以上が該当する。

- (1) アイテムが変更されている。
- (2) ラスター背景が変更されている。
- (3) 図面配置情報が変更されている。
- (4) モデルタイトルが変更されている。
- (5) ドローイングタイトルが変更されている。

- モデル変更の有無を設定する。

```
dbchgd(val)
```

val : モデル変更の有無

---

== 0 : モデルは変更されていない。  
== 1 : モデルは変更されている。

#### Advance CAD version 18 以下

ここでの設定対象は、上記「モデル変更の有無を調べる」での (2) ~ (5) の変更状態を設定します。

(1) のアイテムが変更されている状態に対しての設定はできません。

#### Advance CAD version 19 以上

ここでの設定対象は、上記「モデル変更の有無を調べる」での (3) ~ (5) の変更状態を設定します。

(1) のアイテムが変更されている状態に対しての設定はできません。

バージョン 19 から、ラスタ背景はアイテム化されました。(2) のラスタ背景が変更されている状態は (1) に含まれます。

#### 使用例

```
/* 現在のモデル変更の有無を保持しておく */  
modified = dbchgd();  
:  
/* 図面配置情報を変更し、出図する */  
:  
/* モデル変更の有無を元に戻す */  
dbchgd(modified);
```

## 2.13 システム管理者向けの機能

### 2.13.1 ドローイングモードの背景色

[ リクエスト番号 ]: E19024  
 [ コマンド ]: COLORGEN  
 [ リリース ]: 20.00  
 [ 区分 ]: 追加  
 [ メニュー ]: なし

#### 【要望】

作図状態と図面配置状態が簡単に判別できるように、背景色を別々に設定できるようにして欲しい。

#### 【対応】

カラーテーブルに「ドローイングモードの背景色定義」を新設しました。作図状態の背景色と図面配置状態の背景色を別に設定できるようにしました。

#### 【コマンド】

- 色を設定する

```
COLORGEN { d1 } [ { d2 } { d3 } ]+
          { s1 } [ { s2 } { s3 } ]
```

変更する色を次のいずれかで指示する。

- d1 : コマンドエリアのカラーバーをデジタイズして、設定するカラーを選択する。
- s1 : 色番号を入力する。  
 1xxx xxx は Advance CAD の色番号 (001 ~ 256)。  
 1900 背景色  
 1901 グリッド色  
 1902 一時図形色  
 1903 ラバー色

背景色が選択された場合は、今が作図状態か図面配置状態かで作図状態の背景色か図面配置状態の背景色かを切り分ける。

#### 【プログラミングインターフェース公開関数】

- カラーテーブルの値を設定する。

##### 【呼出し形式】

```
int Clr004(int iclr, const short igrb[], int iswt)
```

##### 【入力引数】

iclr カラーの種類  
 -4 : 図面配置のバックグラウンドカラー  
 -3 : 作図状態のバックグラウンドカラー  
 -2 : グリッドのカラー  
 -1 : テンポラリ図形のカラー  
 0 : ラバーバンドカラー  
 1 - MAXITMCLR : 実図形のカラー

igrb カラーテーブルの値  
 igrb[0] : 緑の輝度 (0 - 255)  
 igrb[1] : 赤の輝度 (0 - 255)  
 igrb[2] : 青の輝度 (0 - 255)

---

iswt 0。

**【返り値】**

0 : 正常  
1 : エラー (引数の値が不正)

**例**

```
/* 実図形のカラー# 1 を赤にする */  
short igrb[3] = { 0, 255, 0};  
Clr004(1, igrb, 0);
```

●カラーテーブルの値を得る。

**【呼出し形式】**

```
int Clr104(int iclr, short igrb[])
```

**【入力引数】**

iclr カラーの種類  
-4 : 図面配置のバックグラウンドカラー  
-3 : 作図状態のバックグラウンドカラー  
-2 : グリッドのカラー  
-1 : テンポラリ図形のカラー  
0 : ラバーバンドカラー  
1 - MAXITMCLR : 実図形のカラー

**【出力引数】**

igrb カラーテーブルの値  
igrb[0] : 緑の輝度 (0 - 255)  
igrb[1] : 赤の輝度 (0 - 255)  
igrb[2] : 青の輝度 (0 - 255)

**【返り値】**

0 : 正常  
1 : エラー (引数の値が不正)

**例**

```
/* 実図形カラー #1 のカラーテーブルの値を得る */  
short igrb[3];  
Clr104(1, igrb);
```



## 2.14 オプションソフト

### 【DXF・DWG 変換】

#### 2.14.1 Auto CAD 2010 に対応してほしい

[リクエスト番号] : なし  
 [コマンド ] : DXF/READ, DWG/READ, DXF/WRITE, DWG/WRITE  
 [リリース ] : V19.02  
 [区分 ] : 機能追加  
 [メニュー ] :

#### 【要望】

Auto CAD 2010 に対応してほしい。

#### 【対応】

Auto CAD 2010 に対応しました。

ACADDXF\_PARAM.COD のキーワード VERSION に 2010 を追加しました。

#### 2.14.2 一覧図でピクチャを指定したい

[リクエスト番号] : E14054  
 [コマンド ] : DXF/WRITE, DWG/WRITE  
 [リリース ] : V19.01  
 [区分 ] : 機能追加  
 [メニュー ] : なし

#### 【要望】

DXF 書込み時に、ピクチャ一覧図または図面配置一覧図を選択ができるようにしてほしい。

#### 【対応】

ピクチャ指定時はピクチャ一覧図、図面配置指定時は図面配置一覧図を選択できるようにしました。

#### 2.14.3 文字の変換精度を上げてほしい

[リクエスト番号] : なし  
 [コマンド ] : DXF/READ, DWG/READ, DXF/WRITE, DWG/WRITE  
 [リリース ] : 20.00  
 [区分 ] : 機能追加  
 [メニュー ] : なし

#### 【要望】

文字の変換精度を上げてほしい。

#### 【対応】

文字列変換での文字列長さの計算精度を良くしました。

DXF で使用されるストロークフォント (1 バイト文字) の各文字幅を文字幅テーブル (DXFFONTTABLE.DAT) に持つようにしました。

文字列長さの計算で各文字の文字幅をこのテーブルより取出し計算することにより文字列長さ計算の精度を良くしました。

2 バイト文字 (漢字) は、  
 文字幅 = 文字高さ × 0.95  
 文字間隔 = 文字高さ × 1.1875

---

で計算します。

ファイル (DXFFONTTABLE.DAT) は、コンフィグレーションファイル (ACAD.SET) のキーワード #DXF:TABLE# で設定されているフォルダに置く必要があります。

サンプルファイルフォルダ sample/DXF からコピーしてください。

このファイルがあると変換時 DXFACAD\_STYLE.COD, ACADDXF\_STYLE.COD のキーワード STYLE は参照しなくなります。

#### 2.14.4 図形属性 (レイヤ・線種・線幅・色) を自動変換してほしい

[リクエスト番号] : なし

[コマンド] : DXF/READ, DWG/READ, DXF/WRITE, DWG/WRITE, DXF/LTYPE, DXF/LWIDTH

[リリース] : 20.00

[区分] : 機能追加

[メニュー] : 追加・変更

##### 【要望】

図形属性 (レイヤ・線種・線幅・色・矢印) を自動変換してほしい。

##### 【対応】

図形属性 (レイヤ・線種・線幅・色) 及び寸法矢印を自動変換するようにしました。

レイヤ、線種、線幅、色及び寸法矢印ごとに変換方法を指定できます。

属性 (線種・線幅) の自動変換の機能追加に伴いコマンド

DXF/LTYPE : 線種の設定・変更を行う。

DXF/LWIDTH : 線幅の設定・変更を行う。

を追加しました。

【DXF・DWG 読み込み】

## 属性変換指定画面

属性変換				
レイヤ変換	<input type="text" value="自動変換"/>	変換テーブル使用+自動変換	変換テーブル使用	説明
変換先	<input type="text" value="クラス"/>	レビジョン		
レイヤ名変換	<input type="text" value="する"/>	しない		
線種変換	<input type="text" value="自動変換"/>	変換テーブル使用+自動変換	変換テーブル使用	説明
線幅変換	<input type="text" value="自動変換 1"/>	自動変換 2	変換テーブル使用	説明
既定線幅	<input type="text" value="0"/>			
色変換	<input type="text" value="自動変換 1"/>	自動変換 2	変換テーブル使用	説明
矢印変換	<input type="text" value="自動変換"/>	変換テーブル使用		説明
文字幅変換	<input type="text" value="自動変換"/>	変換テーブル使用		説明

保存                      設定                      取消

## 属性変換指定ダイアログ

**読み込み: 属性変換** ✕

<p><b>レイヤ</b></p> <p>変換先 <span style="float: right;">説明</span></p> <p><input type="radio"/> 自動変換    <input checked="" type="radio"/> クラス    <input type="radio"/> レビジョン</p> <p><input type="radio"/> 変換テーブル使用+自動変換    <span style="float: right;">新規作成</span></p> <p><input checked="" type="radio"/> 変換テーブル使用    <span style="float: right;">確認・変更</span></p> <p><input type="checkbox"/> レイヤ名を変換する</p> <p><b>線種</b> <span style="float: right;">説明</span></p> <p><input type="radio"/> 自動変換</p> <p><input type="radio"/> 変換テーブル使用+自動変換</p> <p><input checked="" type="radio"/> 変換テーブル使用    <span style="float: right;">確認・変更</span></p> <p><b>色</b> <span style="float: right;">説明</span></p> <p><input type="radio"/> 自動変換 1    <span style="float: right;">新規作成</span></p> <p><input type="radio"/> 自動変換 2</p> <p><input checked="" type="radio"/> 変換テーブル使用    <span style="float: right;">確認・変更</span></p>	<p><b>線幅</b> <span style="float: right;">説明</span></p> <p><input type="radio"/> 自動変換 1</p> <p><input type="radio"/> 自動変換 2</p> <p><input checked="" type="radio"/> 変換テーブル使用    <span style="float: right;">確認・変更</span></p> <p>既定線幅 <input type="text" value="0"/></p> <p><b>矢印</b> <span style="float: right;">説明</span></p> <p><input type="radio"/> 自動変換</p> <p><input checked="" type="radio"/> 変換テーブル使用    <span style="float: right;">確認・変更</span></p> <p><b>文字幅変換</b> <span style="float: right;">説明</span></p> <p><input type="radio"/> 自動変換</p> <p><input checked="" type="radio"/> 変換テーブル使用    <span style="float: right;">確認・変更</span></p> <p><input type="checkbox"/> 設定を保存する</p> <p style="text-align: center;"><span style="border: 1px solid gray; padding: 2px 10px;">設定</span>    <span style="border: 1px solid gray; padding: 2px 10px;">取消</span></p>
---	---

## 1. レイヤ属性の変換

## ○自動変換

レイヤ0を1にその他のレイヤは現れた順に2から順に割当ます。  
変換先はクラス又はレビジョンを指定します。

- クラス  
レイヤをクラスに色をレビジョンに変換します。
- レビジョン  
レイヤをレビジョンに色をクラスに変換します。
  
- 変換テーブル使用+自動変換  
変換テーブルの設定にしたがって変換します。変換テーブルで設定されていないレイヤは変換テーブルで設定されている最大番号の次から順に割当ます。
  
- 変換テーブル使用  
変換テーブルの設定にしたがって変換します。
  
- レイヤ名の変換  
レイヤ名をクラス（レビジョン）名に変換する・しないを指定することができます。

## 2. 線種属性の変換

- 自動変換  
実線（CONTINUOUS）は1にその他の線種は現れた順に2から順に割当てます。  
線種名は線種名に変換されます。
  
- 変換テーブル使用+自動変換  
変換テーブルの設定にしたがって変換します。変換テーブルで設定されていない線種は変換テーブルで設定されている最大番号の次から順に割当ます。
  
- 変換テーブル使用  
変換テーブルの設定にしたがって変換します。

備考) 自動変換した場合の線種の確認

- 1) コマンド『線種設定』（DXF/LTYPE）で線種を確認できます。

## 3. 線幅属性の変換

- 自動変換1  
線幅0を1にその他の線幅は使用されている線幅の小さい順に2から順に割当てます。  
ポリラインの幅を線幅に変換します。
  
- 自動変換2  
線幅0を1にその他の線幅は使用されている線幅の小さい順に2から順に割当てます。  
ポリラインの幅は線幅に変換しません。
  
- 変換テーブル使用  
変換テーブルの設定にしたがって変換します。

備考) 自動変換した場合の線幅の確認

- 1) コマンド『線幅設定』（DXF/LWIDTH）で線幅を確認できます。
- 2) コマンド『線幅設定』（DXF/LWIDTH）で線幅表示の〔実線幅で表示〕を選択すると画面上で線幅が確認できます。
- 3) コマンド『プレビュー』（SXF/PREVIEW）・『印刷』（SXF/PRINT）でプレビュー及び印刷が行えます。プレビュー・印刷の前に図面配置をします。コマンド『プレビュー』・『印刷』の〔▼設定ファイル〕は〔モデル値を使用〕に設定します。  
Windowsに登録されているプリンタに対してプレビュー・印刷が行えます。

## 4. 色属性の変換

## ○自動変換 1

カラーテーブルを DXF のカラーテーブルに設定してから変換します。

## ○自動変換 2

現在のカラーテーブルに一番近い色に変換します。

## ○変換テーブル使用

変換テーブルの設定にしたがって変換します。

## 5. 寸法矢印の変換

## ○自動変換

DXF の矢印をマークに自動変換します。

既定値は次の通りです。各項目の詳細については『DXF/DWG インターフェースマニュアル』の 2.6 寸法線矢印変換テーブルを参照してください。

矢印名	マーク番号	角度	大きさ	説明
LINE	1	0	300	直線 2 本
SOLID	3	0	300	塗り潰し矢印
CIRCLE	4	0	300	円
SLASH	5	180	300	直線 1 本
BOX	17	180	300	四角 (ポリライン)
INTEGRAL	6	180	300	円弧
DOT	4	180	300	円 (ポリライン)
OTHER	1	180	300	設定されている矢印以外
_Open30	1	180	300	30 度開矢印
_ClosedBlank	7	180	300	空矢印
_Closed	2	180	300	閉矢印
_Open	1	180	300	開矢印
_Open90	256	180	300	直角矢印
_BoxBlank	17	180	300	四角
_BoxFilled	18	180	300	塗り潰し四角
_Dot	277	180	300	黒丸
_ArchTick	284	180	300	ティック (太)
_Oblique	5	180	300	ティック
_Origin	15	180	300	白丸 1
_Origin2	16	180	300	白丸 2
_DotSmall	4	180	300	小黒丸
_DotBlank	51	180	300	空白丸
_Small	283	180	300	小空白丸
_DatumBlank	8	180	300	空白データム
_DatumFilled	9	180	300	塗り潰しデータム
_Integral	6	180	300	波形
_None	270	180	300	なし

## ○変換テーブル使用

変換テーブルの設定にしたがって変換します。

## 6. 文字幅の変換

- 自動変換  
DXF の文字列の文字幅を自動変換します。  
ファイル DXFFONTTABLE.DAT が必要です。

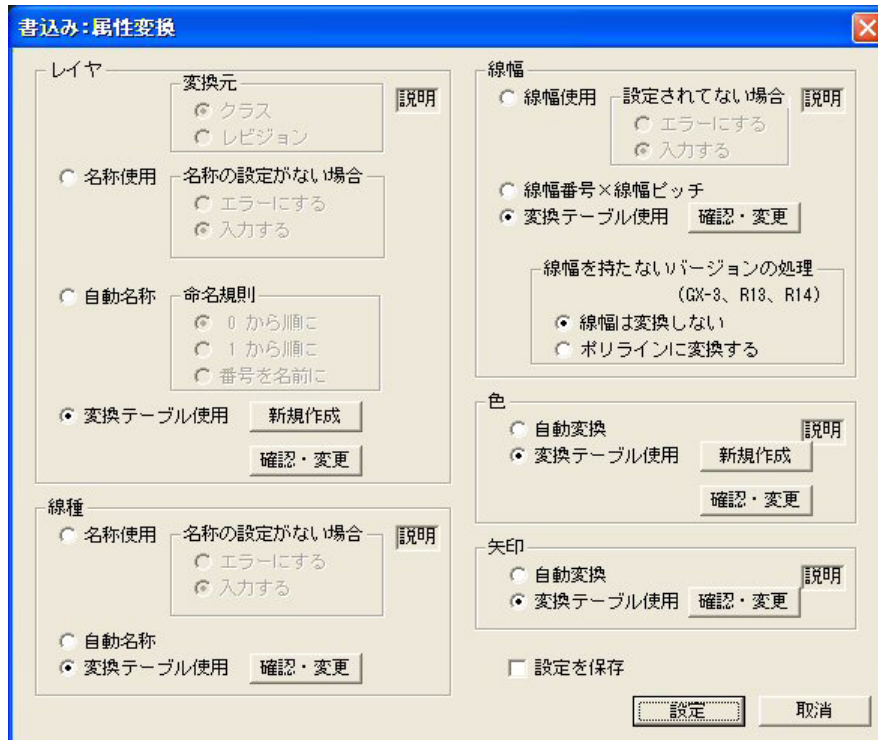
- 変換テーブル使用  
変換テーブルの設定にしたがって変換します。

## 【DXF・DWG 書込み】

### 属性変換指定画面

属性変換				
レイヤ変換	<input type="text" value="名称使用"/>	自動名称	変換テーブル使用	説明
変換元	<input type="text" value="クラス"/>	レビジョン		
命名規則	<input type="text" value="0 から順に"/>	1 から順に	番号を名前に	
線種変換	<input type="text" value="名称使用"/>	自動名称	変換テーブル使用	説明
線幅変換	<input type="text" value="線幅使用"/>	線幅番号×線幅ピッチ	変換テーブル使用	説明
線幅のないバージョン	<input type="text" value="線幅は変換しない"/>	ポリラインに変換		
色変換	<input type="text" value="自動変換"/>	変換テーブル使用		説明
矢印変換	<input type="text" value="自動変換"/>	変換テーブル使用		説明
<input type="button" value="保存"/> <input type="button" value="設定"/> <input type="button" value="取消"/>				

## 属性変換指定ダイアログ



## 1. レイヤ属性の変換

- 変換元
  - 名称使用、自動名称の場合レイヤの変換元を選択します。
  - クラス
    - クラスをレイヤに変換します。
  - レビジョン
    - レビジョンをレイヤに変換します。
- 名称使用
  - クラス（レビジョン）名をレイヤ名に変換します。
  - 名前が設定されていなかった場合の処理は次のいずれかを選択します。
  - エラーにする
    - メッセージを出して変換を中止します。
  - 入力する（ダイアログモードのみ）
    - 名前を入力するダイアログが表示されます。
- 自動名称
  - レイヤ名を命名規則にしたがって付けます。
  - 命名規則は次のいずれかを選択します。
  - 0から順に
    - 番号の若い順にレイヤ名 0、1、2、3、… と名前をつけます。
  - 1から順に
    - 番号の若い順にレイヤ名 1、2、3、4、… と名前をつけます。
  - 番号を名前に
    - 番号を名前にします。
- 変換テーブル使用
  - 変換テーブルの設定にしたがって変換します。

## 2. 線種属性の変換

- 名称使用  
線種名を線種名に変換します。  
名前が設定されていなかった場合の処理は次のいずれかを選択します。
  - エラーにする  
メッセージを出して変換を中止します。
  - 入力する（ダイアログモードのみ）  
名前を入力するダイアログが表示されます。
- 自動名称  
線種 1 は CONTINUOUS（実線）にその他は LTYPE<sub>n</sub> に変換します。  
n は線種番号。
- 変換テーブル使用  
変換テーブルの設定にしたがって変換します。

### 3. 線幅属性の変換

- 線幅使用  
線幅を DXF の一番近い線幅に変換します。  
線幅が設定されていない場合の処理は次のいずれかを選択します。
  - エラーにする  
メッセージを出して変換を中止します。
  - 入力する（ダイアログモードのみ）  
線幅を入力するダイアログが表示されます。
- 変換テーブル使用  
変換テーブルの設定にしたがって変換します。

### 4. 色属性の変換

- 自動変換  
DXF の一番近い色に変換します。
- 変換テーブル使用  
変換テーブルの設定にしたがって変換します。

### 5. 寸法矢印の変換

- 自動変換  
マークを DXF の矢印に自動変換します。

既定値は、次の通りです。  
ここで設定されていないマークは要素展開されます。

マーク番号	角度	矢印名	説明
3	0	SOLID	塗り潰し矢印
276	0	SOLID	塗り潰し矢印
1	180	_Open30	30度開矢印
7	180	_ClosedBlank	空矢印
271	180	_ClosedBlank	空矢印
2	180	_Closed	閉矢印
281	180	_Closed	閉矢印
279	180	_Open	開矢印
256	180	_Open90	直角矢印



17	180	_BoxBlank	空白四角
272	180	_BoxBlank	空白四角
18	180	_BoxFilled	塗り潰し四角
275	180	_BoxFilled	塗り潰し四角
277	180	_Dot	黒丸
284	180	_ArchTick	ティック (太)
5	180	_Oblique	ティック
280	180	_Oblique	ティック
15	180	_Origin	白丸 1
274	180	_Origin	白丸 1
16	180	_Origin2	白丸 2
4	180	_DotSmall	小白丸
282	180	_DotSmall	小白丸
273	180	_DotBlank	空白丸
283	180	_Small	小空白丸
8	180	_DatumBlank	空白データム
9	180	_DatumFilled	塗り潰しデータム
6	180	_Integral	波形
278	180	_Integral	波形
270	180	_None	なし

## ○変換テーブル使用

変換テーブルの設定にしたがって変換します。

## ○ DXF/LTYPE 線種の設定・変更を行う。

## 【構文】

DXF/LTYPE	[pick]+	[DXFSCALE scl]	<CE>
-----------	---------	----------------	------

設定・修正する線種を選択します。

pick txt : [名前] をピックして線種名を入力します。

空白は名前を取消します。

線種名は必須です。

pick pit : [描画] [空白] をピックして線種ピッチを入力します。

[描画] と [空白] は必ずペアで入力します。

0 を入力すると取消になります。

最低 1 組の [描画] と [空白] の入力が必要です。

pick num : [番号] をピックして倍率を掛ける線種を選択します。

複数選択できます。

DXFSCALE scl : 線種ピッチに掛ける倍率を入力します。

注) この機能はモデル座標系で設定された DXF の線種ピッチを Advance CAD のペーパー座標系の線種ピッチに変更します。

線種の表示方法を設定します。

[固定] をピック : 線種ピッチを固定で表示します。

[縮尺反映] をピック : 線種ピッチに縮尺を反映して表示します。

線種名を自動名称で設定します。

[自動名称] をピック : 線種名を自動名称で設定ます。  
 [元に戻す] をピック : 線種名を初期状態に戻します。

入力を終了します。

<CE> または [設定] をピック : 入力内容を有効にします。  
 [取消] をピック : 入力内容を取消します。

### 線種設定・変更の画面

線種設定		注) 線種 1 は CONTINUOUS で固定です。変更できません。						線種表示 * 固定 縮尺反映		自動名称 自動名称 元に戻す
番号	名前	描画	空白	描画	空白	描画	空白	描画	空白	
1	CONTINUOUS									
2	DASHED	2.0	1.0							
3	CENTER	3.0	1.0	1.0	1.0					
4	PHANTOM	7.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0			
5										
6										
7										
8										
9										
10										
11										
12										
13										
14										
15										
16										
17										
18										
19										
20										
21										
22										
23										
24										
25										
26										
27										
28										
29										
30										
31										
32										

設定 取消

<次頁>

### 線種設定・変更のダイアログ

**線種設定**

番号	名前	描画1	空白1	描画2	空白2	描画3	空白3	描画4	空白4
1	CONTINUOUS								
2	DASHED	2.0	1.0						
3	CENTER	3.0	1.0	1.0	1.0				
4	PHANTOM	7.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0		
5									
6									
7									
8									
9									
10									
11									
12									
13									
14									
15									

線種ピッチに倍率  を  を

自動名称

線種表示

 固定
   
 縮尺反映

○ DXF/LWIDTH 線幅の設定・変更を行う。

### 【構文】

```
DXF/LWIDTH [pick]+ <CE>
```

設定・修正する線幅を選択します。

**pick scl** : [番号] または [線幅] をピックして線幅を入力します。  
**0** を入力すると取消になります。  
 画面右側に表示されている線幅一覧をピックして入力することもできます。

線幅の表示方法を設定します。

[線幅非表示] をピック : 線幅は表示しません。  
 [線種番号×ピッチで表示] をピック : 線幅を線幅番号×ピッチで表示します。  
 [実線幅で表示] をピック : 線幅を設定された線幅で表示します。

線幅を自動線幅で設定します。

[線種番号×ピッチ] をピック : 線幅を線幅番号×ピッチで設定します。  
 線幅番号×ピッチで求めた線幅に一番近い DXF の線幅を設定します。  
 [元に戻す] をピック : 線幅を初期状態に戻します。

入力を終了します。

<CE> または [設定] をピック : 入力内容を有効にします。  
 [取消] をピック : 入力内容を取消します。

### 線幅設定・変更の画面

線幅設定		番号 線幅一覧	
番号	線幅	番号	線幅一覧
1	0.0	1	0.0
2		2	0.05
3		3	0.09
4		4	0.13
5		5	0.15
6		6	0.18
7		7	0.2
8		8	0.25
9		9	0.3
10		10	0.35
11		11	0.4
12		12	0.5
13		13	0.53
14		14	0.6
15		15	0.7
16		16	0.8
17		17	0.9
18		18	1.0
19		19	1.06
20		20	1.2
21		21	1.4
22		22	1.58
23		23	2.0
24		24	2.11
線幅表示	線幅非表示		
	* 線幅番号×ピッチで表示 (固定)		
	実線幅で表示 (縮尺反映)		
自動線幅	線幅番号×ピッチ		
	元に戻す		
設定	取消		

注) ここでの線幅設定はDXFで使用されている線幅の設定になります。  
 線幅一覧で表示されている線幅を設定することができます。  
 線幅 1 の 0.0 は固定です。変更できません。

線幅設定・変更のダイアログ



【メニューの追加・変更】

ACADCMD.MEN

```
V [ 16, 19, 6] !DXF/LTYPE! <-- 追加
V [ 16, 19, 7] !DXF/LWIDTH! <-- 追加

V [ 34, 3, 60] !DXFATTR! <-- 追加
```

ACADOSM.MEN

```
/
/ Pagename = exchange2
/
Menu [exchange2, 1, 4, c2]
+ < 1,1> "CADAMDB 読込" [none, none, c4]
+ < 2,1> " Micro" !CADAMDB/READM! [exchange2, mdf_mcadambread, c0]
#ifdef WIN32
+ < 3,1> " MC-W" !CADAMDB/READX! [exchange2, mdf_mcxdbread, c0]
#else // UNIX
+ < 3,1> " MC-X" !CADAMDB/READX! [exchange2, mdf_mcxdbread, c0]
#endif // End of UNIX
+ < 4,1> " Regular_I" !CADAMDB/READI! [exchange2, mdf_rcadambread, c0]
+ < 5,1> " Regular_F" !CADAMDB/READF! [exchange2, mdf_rcadambread, c0]
+ < 6,1> "CADAMDB 書込" [none, none, c4]
+ < 7,1> " Micro" !CADAMDB/WRITEM! [exchange2, mdf_mcdbwrite, c0]
#ifdef WIN32
+ < 8,1> " MC-W" !CADAMDB/WRITEX! [exchange2, mdf_mcxdbwrite, c0]
#else // UNIX
+ < 8,1> " MC-X" !CADAMDB/WRITEX! [exchange2, mdf_mcxdbwrite, c0]
#endif // End of UNIX
+ < 9,1> " Regular_I" !CADAMDB/RITEI! [exchange2, mdf_rcdbwrite, c0]
+ <10,1> " Regular_F" !CADAMDB/RITEF! [exchange2, mdf_rcdbwrite, c0]
+ <11,1> "副座標" !CADAM/ORIGIN! [exchange2, mdf_cadamorigin, c0]
+ <12,1> "DXF/DWG" [none, none, c4] <--- 修正
+ <13,1> " DXF 読込み" !DXF/READ! [exchange2, mdf_dxfread, c0] <--- 修正
+ <14,1> " 書込み" !DXF/RITE! [exchange2, mdf_dxfwrite, c0] <--- 修正
+ <15,1> " DWG 読込み" !DWG/READ! [exchange2, mdf_dxfread, c0] <--- 修正
+ <16,1> " 書込み" !DWG/RITE! [exchange2, mdf_dxfwrite, c0] <--- 修正
+ <17,1> " 文字修正" !DXF/TEXT! [exchange2, mdf_dxftext, c0] <--- 修正
```

```

+ <18,1> " 線種設定 "      !DXF/LTYPE!      [exchange2, none, c0]      <--- 追加
+ <19,1> " 線幅設定 "      !DXF/LWIDTH!     [exchange2, none, c0]     <--- 追加
+ <20,1> "CATIA 読み込み" !CATIA/READ!    [exchange2, mdf_catiaread, c4] <--- 修正

/
/ Pagename = mdf_dxftread
/
Menu [mdf_dxftread, 1, 17, c3]
+ < 2,1> " 一括変換 "      !FILENAME!      [exchange2, dummy, c0]
+ < 3,1> " 全部選択 "      !SELALL!
+ < 4,1> " 選択取消 "      !CANCEL!
+ < 6,1> " 新規モード "    !NEW!
+ < 7,1> " 追加モード "    !ADD!
+ < 8,1> " 格納先ピクチャ " !WRPIC!
+ < 9,1> " 倍率 "          !DXFSCALE!
+ <10,1> " サブモデル名 " !SUBMDLNAM!
+ <12,1> " シェイプ読み込 " !DXFSHAPE!
+ <14,1> " テーブル選択 " !SELECT!
+ <15,1> " 変換 P A R M " !DXFPARAM!
+ <16,1> " 属性変換 "      !DXFATTR!      <--- 追加
+ <17,1> " フロッピー "   !FLOPPY!
T <18,1> " ファイル一覧 " !"*"!
+ <19,1> " 終了 "        !EJECT!

/
/ Pagename = mdf_dxftwrite
/
Menu [mdf_dxftwrite, 1, 17, c3]
+ < 7,1> " 一括変換 "      !SPC_MDL!      [exchange2, dummy, c0]
+ < 8,1> " 全部選択 "      !SELALL!
+ < 9,1> " 選択取消 "      !CANCEL!
+ <11,1> " ページ番号 "    !PAGE!
+ <12,1> " 現ピクチャ "    !CURPIC!
+ <13,1> " ピクチャ番号 " !OUTPIC!
+ <15,1> " テーブル選択 " !SELECT!
+ <16,1> " 変換 P A R M " !DXFPARAM!
+ <17,1> " 属性変換 "      !DXFATTR!      <--- 追加
+ <18,1> " フロッピー "   !FLOPPY!
+ <19,1> " 終了 "        !EJECT!

```

## 【メッセージの追加・変更】

MSG13.TXT (すべて追加です)

```

+(1300139) " 矢印マーク高さが上限を越えています "
+(1300140) " 矢印マーク高さが下限を越えています "

+(1300512) " 文字幅テーブル DXFFONTTABLE.DAT がないか又は壊れています。 "
+(1300513) " sample/DXF がら #DXF:TABLE# のディレクトリにコピーしてください。 "

/ 線幅設定
+(1300601) " 線幅を選択/線幅番号を入力/<CE>で終了 "
+(1300602) " 線幅を入力/線幅一覧から選択/<CE>で終了 "
+(1300603) " 線幅設定 "
+(1300604) " 番号 "
+(1300605) " 線幅 "
+(1300606) " 線幅一覧 "
+(1300607) " 設定 "
+(1300608) " 取消 "
+(1300609) " 注) ここでの線幅設定は DXF で使用されている線幅の設定になります。 "
+(1300610) " 線幅一覧で表示されている線幅を設定することができます。 "

```

- 
- + (1300611) " 線幅 1 の 0.0 は固定です。変更できません。 "
  - + (1300612) " 線幅表示 "
  - + (1300613) " 線幅非表示 "
  - + (1300614) " 線幅番号×ピッチで表示 (固定) "
  - + (1300615) " 実線幅で表示 (縮尺反映) "
- / 線種設定
- + (1300701) " 線種を選択/線種番号を入力/<GE>で終了 "
  - + (1300702) " 線種名を入力/<GE>で終了 "
  - + (1300703) " 線種ピッチを入力/<GE>で終了 "
  - + (1300704) " 線種設定 "
  - + (1300705) " 番号 "
  - + (1300706) " 名前 "
  - + (1300707) " 描画 "
  - + (1300708) " 空白 "
  - + (1300709) " 設定 "
  - + (1300710) " 取消 "
  - + (1300711) " <前頁> "
  - + (1300712) " <次頁> "
  - + (1300713) " 注) 線種 1 は CONTINUOUS で固定です。変更できません。 "
  - + (1300714) " 線種ピッチ倍率 "
  - + (1300715) " 線種ピッチに掛ける倍率を入力 "
  - + (1300716) " 線種表示 "
  - + (1300717) " 固定 "
  - + (1300718) " 縮尺反映 "
- / 属性変換
- / メニュー項目
- + (1300801) " 属性変換 "
  - + (1300802) " レイヤ変換 "
  - + (1300803) " 線種変換 "
  - + (1300804) " 線幅変換 "
  - + (1300805) " 色変換 "
  - + (1300806) " 矢印変換 "
  - + (1300807) " 変換先 "
  - + (1300808) " 変換元 "
  - + (1300809) " レイヤ名変換 "
  - + (1300810) " 名称の設定がない場合 "
  - + (1300811) " 命名規則 "
  - + (1300812) " 既定線幅 "
  - + (1300813) " 線幅のないバージョン "
  - + (1300814) " 文字幅変換 "
- / 選択項目
- + (1300821) " 保存 "
  - + (1300822) " 設定 "
  - + (1300823) " 取消 "
  - + (1300824) " 説明 "
  - + (1300825) " 自動変換 "
  - + (1300826) " 自動変換 1 "
  - + (1300827) " 自動変換 2 "
  - + (1300828) " 名称使用 "
  - + (1300829) " 線幅使用 "
  - + (1300830) " 自動名称 "
  - + (1300831) " 線幅番号×線幅ピッチ "
  - + (1300832) " 変換テーブル使用+自動変換 "
  - + (1300833) " 変換テーブル使用 "
  - + (1300834) " クラス "

- + (1300835) " レビジョン "
- + (1300836) " する "
- + (1300837) " しない "
- + (1300838) " エラーにする "
- + (1300839) " 自動変換 "
- + (1300840) " 0 から順に "
- + (1300841) " 1 から順に "
- + (1300842) " 番号を名前に "
- + (1300843) " 線幅は変換しない "
- + (1300844) " ポリラインに変換 "
  
- / 説明
- + (1300851) " ○自動変換 "
- + (1300852) " " レイヤ 0 を 1 に、その他のレイヤは現れた順に 2 から順に割当てます。  
" "
- + (1300853) " " 実線を 1 に、その他の線種は現れた順に 2 から順に割当てます。 "
- + (1300854) " " 矢印をマークに自動変換します。 "
- + (1300855) " " 色を DXF の 1 番近い色に変換します。 "
- + (1300856) " " マークを矢印に自動変換します。 "
- + (1300857) " ○名称使用 "
- + (1300858) " " クラス (レビジョン) 名をレイヤ名に変換します。 "
- + (1300859) " " 線種名を線種名に変換します。 "
- + (1300860) " ○線幅使用 "
- + (1300861) " " 設定された線幅を DXF の 1 番近い線幅に変換します。 "
- + (1300862) " ○自動名称 "
- + (1300863) " " 変換するクラス (レビジョン) をレイヤ名に自動変換します。 "
- + (1300864) " " 変換する線種を線種名に自動変換します。 "
- + (1300865) " ○線幅番号×線幅ピッチ "
- + (1300866) " " 線幅を線幅番号×線幅ピッチとして DXF の 1 番近い線幅に変換します。  
" "
- + (1300867) " ○自動変換 1 "
- + (1300868) " " 線幅 0 を 1 に、その他の線幅は小さい順に 2 から順に割当てます。 "
- + (1300869) " " ポリラインの幅も線幅に変換します。 "
- + (1300870) " " カラーテーブルを DXF のカラーテーブルに設定してから変換します。 "
- + (1300871) " ○自動変換 2 "
- + (1300872) " " ポリラインの幅は線幅に変換しません。 "
- + (1300873) " " 現在のカラーテーブルの 1 番近い色に変換します。 "
- + (1300874) " ○変換テーブル使用+自動変換 "
- + (1300875) " " 変換テーブルで設定されていないレイヤは現れた順に変換テーブルで指  
定 "
- + (1300876) " " された最大番号の次の番号から順に割当てます。 "
- + (1300877) " " 変換テーブルで設定されていない線種は現れた順に変換テーブルで指定 "
- + (1300878) " " された最大番号の次の番号から順に割当てます。 "
- + (1300879) " ○変換テーブル使用 "
- + (1300880) " " 変換テーブルの設定にしたがって変換します。 "
- + (1300881) " ○変換先 "
- + (1300882) " " 自動変換の場合レイヤの変換先を指定します。 "
- + (1300883) " " クラス : レイヤをクラスに色はレビジョンに変換します。 "
- + (1300884) " " レビジョン : レイヤをレビジョンに色はクラスに変換します。 "
- + (1300885) " ○変換元 "
- + (1300886) " " 名称使用、自動名称の場合レイヤの変換元を指定します。 "
- + (1300887) " " クラス : クラスをレイヤに変換します。 "
- + (1300888) " " レビジョン : レビジョンをレイヤに変換します。 "
- + (1300889) " ○レイヤ名変換 "
- + (1300890) " " する : レイヤ名をクラス (レビジョン) 名に変換します。 "
- + (1300891) " " しない : レイヤ名は変換しません。 "
- + (1300892) " ○名称の設定がない場合 "
- + (1300893) " " 名称使用で名称の設定がない場合の処理を指定します。 "

+(1300894) " エラーにする：メッセージを出し処理を中止します。"  
 +(1300895) " 自動変換 : 自動名称を選択した場合と同じです。"  
 +(1300896) " ○命名規則 "  
 +(1300897) " 自動名称の場合のレイヤ名の付け方を指定します。"  
 +(1300898) " 0 から順に : 番号の若い順に 0 から順に名前を付けます。"  
 +(1300899) " 1 から順に : 番号の若い順に 1 から順に名前を付けます。"  
 +(1300900) " 番号を名前に : 番号を名前に変換します。"  
 +(1300901) " ○既定線幅 "  
 +(1300902) " 線幅が既定線幅で設定されている図形の線幅を指定します。"  
 +(1300903) " ○線幅のないバージョン "  
 +(1300904) " 線幅のないバージョン (GX-3、R13、R14) への変換方法を指定しま  
 す。"  
 +(1300905) " 線幅は変換しない : 線幅は変換しません。"  
 +(1300906) " ポリラインに変換 : 線幅を線幅を持ったポリラインに変換します。"  
 /+(1300907) ""  
 +(1300908) " 文字幅を自動変換します。"  
  
 +(1300911) " 線幅が設定されていない場合はメッセージを出し処理を中止します。  
 "  
 +(1300912) " 注) 追加モードの場合、自動変換するレイヤは既存モデルの "  
 +(1300913) " レイヤとの関連はありません。"  
 +(1300914) " 注) 追加モードの場合、レイヤ名は変換しません。"  
 +(1300915) " 注) 追加モードの場合、自動変換する線幅は既存モデルの "  
 +(1300916) " 線幅との関連はありません。"  
 +(1300917) " 注) 追加モードの場合、自動変換 2 になります。"  
 +(1300918) " 注) ファイル DXFFONTTABLE.DAT が必要です。"  
  
 / 操作メッセージ  
 +(1300921) " 項目を選択 "  
 +(1300922) " 線幅を選択 "  
 +(1300923) " 次の中から選んでください。"

ERR13.TXT (修正以外は追加です)

+(1300005) " ファイルが既に存在します (重ね書きします) " <--- 修正  
  
 +(1300413) "#DXF# のディレクトリが存在しないか又は書き込み権がありません。"  
 +(1300414) "#DWG# のディレクトリが存在しないか又は書き込み権がありません。"  
  
 / 線幅設定  
 +(1300601) " 線幅が選択されていません "  
 +(1300602) " 無効な線幅です。線幅一覧を参照してください。"  
 +(1300603) " 線幅は既に設定されています "  
  
 / 線種設定  
 +(1300701) " 線種が選択されていません "  
 +(1300702) " 名前は既に使用されています "  
 +(1300703) " 無効なピッチです "  
 +(1300704) " 描画と空白は必ず 1 対で入力してください "  
 +(1300705) " 名前が設定されていません "  
 +(1300706) " ピッチが設定されていません "  
  
 / 自動変換  
 +(1300801) " クラス名が設定されていません。処理を中断します。"  
 +(1300802) " レビジョン名が設定されていません。処理を中断します。"  
 +(1300803) " 線種名が設定されていません。処理を中断します。"  
 +(1300804) " 線幅が設定されていません。処理を中断します。"  
  
 / 文字幅テーブル



- + (1300901) “文字幅テーブル (DXFFONTTABLE. DAT) がありません。”
- + (1300902) “文字幅テーブル (DXFFONTTABLE. DAT) のバージョンが違います。”
- + (1300903) “文字幅テーブル (DXFFONTTABLE. DAT) の書式が違います。”
- + (1300904) “文字幅テーブル (DXFFONTTABLE. DAT) にデータがありません。”

## 【ACADWorks (Windows 版)】

### 2.14.5 SolidWorks ヘスケッチ転送 幾何拘束

[リクエスト番号] : E19003  
 [コマンド ] : SWAT/SKETCH  
 [リリース ] : 18.19, V19.04  
 [区分 ] : 機能追加  
 [メニュー ] : なし

#### 【要望】

Advance CAD から SolidWorks へのスケッチ転送で、転送された図形エンティティに幾何拘束を付加して欲しい。

#### 【対応】

転送された図形を、API ConstraintAll() で幾何拘束しました。拘束条件は、SolidWorks の設定に従います。

### 2.14.6 SolidWorks ヘスケッチ転送 寸法

[リクエスト番号] : E19004  
 [コマンド ] : SWAT/SKETCH  
 [リリース ] : 18.19, 19.04  
 [区分 ] : 機能追加  
 [メニュー ] : なし

#### 【要望】

Advance CAD から SolidWorks へのスケッチ転送で、Advance CAD の図面に配置した寸法を、SolidWorks のスケッチ寸法として転送して欲しい。

#### 【対応】

Advance CAD では寸法と図形との対応付けが行われていないので、直接この機能を実現することは、困難であると考えました。そこで、代替的に、スケッチに転送した図形に、寸法を自動的に作成する機能を追加しました。

### 2.14.7 ACADWorks 設定方法改善

[リクエスト番号] : E19041  
 [コマンド ] :  
 [リリース ] : 19.05, 20.00  
 [区分 ] : 変更  
 [メニュー ] : なし

#### 【要望】

ACADWorks の設定で、.cus ファイルを使用した「メニューのカスタマイズ」を中止して欲しい。SolidWorks 2005 から .cus ファイルの正式サポートが中止となった。

#### 【対応 Advance CAD V19.05】

メニューのカスタマイズでの .cus ファイルの使用を中止する。メニューのカスタマイズはオペレーションで行うことにする。次のように変更した。

- ・「カスタマイズメニュー設定」ボタンを非表示

- 
- ・「起動マクロ設定」ボタンは、Local Administrator Group に属するユーザのみ有効
  - ・「Advance CAD 起動環境」の初期値を設定

**【対応 Advance CAD V20.00】**

「カスタマイズメニュー設定」「起動マクロ設定」ボタンを中止して、この二つで実現していた機能を Addin で実装することにする。

- ・「カスタマイズメニュー設定」と「起動マクロ設定」ボタンの削除
- ・「ルートディレクトリ」を「Addin ファイルパス名」に変更
- ・「Addin の登録」「Addin の解放」ボタンの追加
- ・「Addin の登録」「Addin の解放」ボタンは、Local Administrator Group に属するユーザのみ有効
- ・「Advance CAD 起動環境」の初期値を設定

## 2.15 モデルビューアー

### 2.15.1 ACADViewer (Java)

Java の Advance CAD モデルビューアー ACADViewer はバージョン 20 のモデルを表示できるように更新しました。

新しいモデルビューアー のバージョンは 5.00 です。このモデルビューアーは Advance CAD のリリースには含まれません。モデルビューアーだけをダウンロードできるようになっています。

新しいモデルビューアーを使用するときは Java 6 (build 1.6) 以上で使用してください。Java のバージョンを表示するには次のコマンドを使います。

```
java -version  
java version "1.6.0_29"
```

### 2.15.2 AcadAX (ActiveX)

Windows ActiveX の Advance CAD モデルビューアー AcadAX はバージョン 20 のモデルを表示できるように更新しました。

新しいモデルビューアー のバージョンは 20,0,0,0 です。このモデルビューアーは Advance CAD のリリースには含まれません。モデルビューアーだけをダウンロードできるようになっています。

AcadAX は VC++2008 でビルドした 32 bit アプリケーション (DLL) です。この ActiveX は 32 bit の Windows Internet Explorer や Windows Office で使用できます。



---

## 第 3 章 不具合修正

Advance CAD Version 19.00 リリース以降に修正された不具合を掲載します。

### 3.1 基本機能

#### 3.1.1 モデル一覧でモデルタイトルが表示されない

【レポート番号】 B19024 【発生】 19.00 【修正】 19.02

【現象】

ダイアログモードがオフのときのモデルファイル一覧で、モデルタイトルが表示されないことがある。

【対応】

修正しました。

#### 3.1.2 バッチモードで異常終了 (Solaris 版、Linux 版のみ)

【レポート番号】 B19031 【発生】 18.00 【修正】 18.17, 19.02

【現象】

起動時に -b オプションをつけてバッチモードで起動した場合、モデル呼び出しで異常終了することがある。

【対応】

Solaris 版と Linux 版で、バッチモードのときのアウトラインフォントおよびツールタイプフォントの表示のスキップ処理に誤りがありました。修正しました。

#### 3.1.3 TrueTypeFont の空白文字の幅

【レポート番号】 B19049 【発生】 当初から 【修正】 18.18, V19.03

【現象】

空白文字を含む文字列を、可変文字幅の TrueTypeFont を使用して描画すると、文字列の長さが間延びしてしまう。

【対応】

TrueTypeFont では、空白文字の幅を、無条件に、次のようにしていました。

半角の空白：文字高さ / 2

全角の空白：文字高さ

そのため、可変文字幅 TrueTypeFont では文字列が間延びする現象が発生しました。この現象を回避するため、以下のように変更しました。

#### Windows 版

Windows の API を使用して、空白文字の幅を問い合わせるように変更しました。

#### Solaris、Linux 版

FreeFont の API を使用して、空白文字の幅を問い合わせるように変更しましたが、その結果は次のような値となります。つまり、変更前と変わりありません。

半角の空白：文字高さ / 2

全角の空白：文字高さ

### 3.1.4 表示中にフリーズしたように感じる

【レポート番号】 B19052 【発生】 19.00 【修正】 19.03

#### 【現象】

大量のアイテムのピクチャー一覧は、Advance CAD がフリーズした様な状態になる。表示途中のキャンセルもできない。

#### 【対応】

バージョン 19 では画面への表示は 200 アイテムごとに行っています。キャンセルの問い合わせも 200 アイテムごとの表示時に行っています。要素の多いサブモデルや複合アイテムが多いと 200 アイテムごとの表示では画面がフリーズしているように感じます。

200 アイテムまたは 2000 サブレコードのどちらかの条件を満たしたときに画面に表示するように修正しました。ただし表示単位がアイテムなので、あるアイテムの処理途中で 2000 サブレコードに達しても、そのアイテムの処理が終了するまでは表示することはありません。そのためサブモデルなど多くのサブレコードを持つアイテムは表示がなめらかでないように感じる場合もあります。

### 3.1.5 クロスヘアカーソルの残像が残る

【レポート番号】 B19064 【発生】 当初から 【修正】 18.18, 19.03

#### 【現象】

コンフィグレーションファイルで DRAGGING\_TYPE\_COPY と指定している場合、カーソルタイプ 1 (クロスヘア) または 2 (物差し) でドラッグ操作を行うと、カーソル形状の残像が残る。

#### 【対応】

修正しました。

### 3.1.6 半角カナが化ける

【レポート番号】 B19079 【発生】 当初から 【修正】 18.19, 19.04

#### 【現象】

Solaris 版、Linux 版の Advance CAD で、メッセージ領域およびコマンド入力領域の半角カタカナが文字化けする。

#### 【対応】

半角カタカナの描画に誤りがあり、修正しました。

### 3.1.7 起動時の背景色が正しくない

【レポート番号】 B19120 【発生】 18.00 【修正】 18.20, 19.05

**【現象】**

起動時の背景色がカラーテーブルの内容と一致していない。

**【対応】**

デフォルトの背景色になっていました。カラーテーブルの背景色で表示するように修正しました。

**3.1.8 円弧の一部分を拡大表示すると存在しない線も描画**

**【レポート番号】** B19190 **【発生】** 14.25 **【修正】** 19.07

**【現象】**

円弧の一部分をどんどん拡大表示していくと、あるところから、存在しない線分を表示することがある。

**【対応】**

拡大表示 (ZOOM/UP など) には限界があります。その限界に達したり、限界に近い状態で、円の一部を表示するときに、上記のような現象が発生することがありました。存在しない線分を表示しないよう訂正しました。このような限界に近い状態では、円弧が真の位置からずれたところに表示されることがあります。





## 3.2 汎用割込みコマンド

### 3.2.1 塗りつぶしが表示されない (Solaris 版、Linux 版のみ)

【レポート番号】 B19015 【発生】 当初から 【修正】 18.16、19.01

【コマンド】 RPT

【現象】

Solaris 版および Linux 版で、図面配置状態の時に塗りつぶしが表示されないことがある。

【対応】

修正しました。

### 3.2.2 書体一覧ダイアログで書体番号が変更できない (Windows 版のみ)

【レポート番号】 B19038 【発生】 18.00 【修正】 18.17、19.02

【コマンド】 FONT/DSP

【現象】

書体一覧ダイアログで、表示する書体番号が変更できない。

【対応】

書体番号を変更できるように修正しました。

### 3.2.3 文章呼び出しダイアログで行末に改行が入る (Windows 版のみ)

【レポート番号】 B19039 【発生】 16.00 【修正】 18.17、19.02

【コマンド】 TLB

【現象】

文章呼び出しダイアログで、複数行を選択して材質などを入力しているが、各行末に改行文字が入ってしまい、操作性が悪くなった。バージョン 15 までは 1 行ずつ選択した場合は改行文字は入らなかった。

【対応】

バージョン 15 と同様に、1 行ずつ選択した場合は、行末に改行文字をつけないように修正しました。

### 3.2.4 レジスタ値をコマンドに渡せない

【レポート番号】 B19053 【発生】 16.00 【修正】 18.18、19.03

【コマンド】 REG

【現象】

レジスタダイアログでレジスタを選択したときに、値が動作中のコマンドに渡らない。

---

**【対応】**

修正しました。

### **3.2.5 メジャーで座標入力を受け付けない**

**【レポート番号】** B19059 **【発生】** 19.00 **【修正】** 19.03

**【コマンド】** MES/SEG

**【現象】**

ある点からの距離を測るために座標値を入力するが、入力が無視されてしまう。

**【対応】**

修正しました。

### **3.2.6 メジャー面積**

**【レポート番号】** B19069 **【発生】** 19.00 **【修正】** 19.03

**【コマンド】** MES/AREA

**【現象】**

計測領域を連結モード (CHN) で指示したとき、計測領域を構成するアイテムが閉領域を構成しているのに、「閉じていない」というエラーメッセージが表示され、計算できない。

**【対応】**

閉領域の判定に誤りがあり修正しました。

### **3.2.7 2次モーメントが不正な値**

**【レポート番号】** B19181 **【発生】** 19.00 **【修正】** 19.07

**【コマンド】** MES/AREA

**【現象】**

面積コマンドで計算した2次モーメントの値が非数値 (Nan) になることがあります。この場合、作表コマンド (HYOU/AREA) で2次モーメントの値が 1.#Q0 などと表示されます。もしこのような不正な数値をもつ図心点を見つけたら削除してください。

**【対応】**

修正しました。

### **3.2.8 APG アイテムの配置角度レジスタ**

**【レポート番号】** B19081 **【発生】** 18.00 **【修正】** 18.19, 19.04

**【コマンド】** VER

**【現象】**

APG アイテムをベリファイしたときに、配置角度がレジスタ #VERANG に設定されない。

**【対応】**

修正しました。

**3.2.9 属性変更で異常終了する**

【レポート番号】 B19091 【発生】 15.00 【修正】 18.19, 19.04

【コマンド】 ATR/MOD, CLS/MOD, REV/MOD, LFT/MOD, LWT/MOD

**【現象】**

属性変更で「元アイテムの属性を参照」のときにアイテムのピックに失敗すると Advance CAD が異常終了する。

**【対応】**

修正しました。

**3.2.10 アイテム選択マスク設定でログが消える**

【レポート番号】 B19095 【発生】 17.00 【修正】 18.19, 19.04

【コマンド】 CLS/SEL, REV/SEL, LFT/SEL, LWT/SEL, ITM/SEL,

CLS/DSP, REV/DSP, LFT/DSP, LWT/DSP, ITM/DSP

**【現象】**

選択マスク設定で、最後の操作を取り消すために <BS> を入力すると、メッセージ領域に表示されている操作ログが全部が消えてしまう。操作情報は残っているので入力続けると、全部の操作ログが表示される。  
表示マスク設定でも同様な問題がある。

**【対応】**

修正しました。

**3.2.11 ペン割付ができない**

【レポート番号】 B19098 【発生】 当初から 【修正】 18.19, 19.04

【コマンド】 PEN/ITM, PEN/CLS, PEN/REV, PEN/LFT, PEN/LWT,

CLR/ITM, CLR/CLS, CLR/REV, CLR/LFT, CLR/LWT

**【現象】**

マクロでペン割付を行うときに、不要な画面表示を避けるために LIST/OFF を指定すると、ペン割付が設定できない。  
色割付でも同様な問題がある。

**【対応】**

修正しました。

**3.2.12 テンポラリアイテム選択マスクが ALL になる**

【レポート番号】 B19125 【発生】 当初から 【修正】 18.20, 19.05

---

【コマンド】CLS/SEL, REV/SEL, LFT/SEL, LWT/SEL, ITM/SEL

【現象】

クラス選択マスク設定時に全体表を表示し「キャンセル」でコマンドを終了すると、テンポラリクラス選択マスク (MCLS) が ALL になってしまう。  
アイテムタイプ、レビジョン、線種、線幅による選択マスクでも同様な問題がある。

【対応】

修正しました。

### 3.2.13 「テンポラリポイント中心点」で楕円の中心点が得られない

【レポート番号】 B19158 【発生】 19.00 【修正】 19.07

【コマンド】 TPCR

【現象】

テンポラリポイントの中心点 (TPCR) コマンドで楕円の中心点を得たいが、誤った結果になる。この問題は円錐曲線 (楕円、双曲線、放物線) を近似しているスプラインアイテムだけで発生します。それ以外では問題ありません。

【対応】

修正しました。

### 3.2.14 「テンポラリポイント特徴点」で線分の中点が得られない

【レポート番号】 B19184 【発生】 当初から 【修正】 18.22, 19.07

【コマンド】 TPDY

【現象】

カーソルを線分の中間付近に置くと、線分の中点に○記号が表示されます。○記号の上をディジタイズすればテンポラリポイント『中点』ができます。水平な線分や垂直な線分では、『中点』を採用すべき場合でも、中点の『X座標参照』や『Y座標参照』が採用されるという誤りがありました。

【対応】

修正しました。

## 3.3 図形アイテム

### 3.3.1 陰線処理の内側破線で範囲線上の線の線種が正しくない

【レポート番号】 B19011 【発生】 当初から 【修正】 18.16、19.01

【コマンド】 CLIPPER、CLIP\_OUTL、CLIP\_PLY

#### 【現象】

陰線処理の「内側破線」／「外側破線」で「範囲線上を含む」とした場合、範囲線上の線種3以上の線が線種2になってしまう。範囲内／範囲外の線種3以上の線は、線種が保持されている。

#### 【対応】

範囲線上の線種3以上の線も、範囲内／範囲外と同様に、以前の線種を保持するように修正しました。

### 3.3.2 陰線処理の外側破線の線幅が不安定

【レポート番号】 B19019 【発生】 当初から 【修正】 18.17、19.01

【コマンド】 CLIPPER、CLIP\_OUTL、CLIP\_PLY

#### 【現象】

陰線処理の外側破線のときにメッセージが「線幅継承」ではなく「線幅1」になっている。また破線に変えられた部分の線幅が「線幅1」になったり「線幅継承」になったりして不安定。

#### 【対応】

メッセージも処理も「線幅継承」になるように修正しました。

### 3.3.3 重複削除で非表示部分が表示に変わる

【レポート番号】 B19021 【発生】 当初から 【修正】 18.17、19.02

【コマンド】 PURGE

#### 【現象】

部分線種で非表示にしたアイテムも部分重複処理の対象に含まれている。そのために非表示にした部分が表示に変わってしまう。

#### 【対応】

以下の3点を修正しました。

- BLANK コマンドで非表示にされたアイテムは、完全重複および部分重複の処理対象から外しました。
- 直線アイテムと円弧アイテムで部分的に非表示になっているアイテムは、部分重複の処理対象から外しました。
- 「線種比較する」場合の直線アイテムと円弧アイテムで、部分的に線種変更が指示されているアイテムは、部分重複の処理対象から外しました。

### 3.3.4 サブモデル内の線分をトリムできない

【レポート番号】 B19028 【発生】 19.00 【修正】 19.02

---

【コマンド】 TRM, TRM/PP, TRM/G, TRM/P

【現象】

配置したサブモデル内の線分がトリムできない。

【対応】

寸法アイテム、複合アイテム、シンボル、サブモデルなどの図形をトリムする時の処理に誤りがあり修正しました。

### 3.3.5 中抜きのある曲線のオフセットに誤り

【レポート番号】 B19044 【発生】 V19.00 【修正】 19.02

【コマンド】 OFFSET, LPL

【現象】

線分アイテムの中央部を非表示にする。平行線コマンドでこの線分の平行線を作成する。さらにこの平行線を元に平行線を作成するとおかしい線分ができる。

【対応】

オフセットコマンド、平行線コマンドで上記の問題を確認しました。非表示部分を持つ曲線アイテムのオフセットに誤りがあり訂正しました。非表示部分がないか部分線種が破線などではこの問題ありません。

### 3.3.6 サブモデルに挿入したフィレットが消える

【レポート番号】 B19051 【発生】 V19.00 【修正】 19.03

【コマンド】 FILLET, CHAMFER, SUB/BRK

【現象】

配置したサブモデルにフィレットを入れ、その後にサブモデルを分解すると、追加したフィレットが消えてしまう。チャンファも同様な問題があります。

【対応】

フィレットおよびチャンファの挿入位置が正しくありませんでした。そのためにサブモデル分解でフィレットおよびチャンファが削除されていました。修正しました。

### 3.3.7 フィレットが作成できない

【レポート番号】 B19057 【発生】 V19.00 【修正】 19.03

【コマンド】 FILLET

【現象】

「同一ストリングの場合、隣合うセグメントを指示してください。」とエラーメッセージが表示されて、フィレットできないことがある。

【対応】

修正しました。

### 3.3.8 中抜きトリムの中抜き位置が正しくない

【レポート番号】 B19058 【発生】 V19.00 【修正】 19.03

**【コマンド】 MTRM****【現象】**

マルチトリムで中抜きした要素を、中抜き位置を変更するためにもう一度中抜きトリムすると、中抜き位置が正しくない。

**【対応】**

修正しました。

**3.3.9 クリップ領域が交差する**

【レポート番号】 B19062 【発生】 当初から 【修正】 18.18, 19.03

**【コマンド】 CLIPPER****【現象】**

端点が離れた二つのアイテムで領域を指定した場合、領域が交差することがある。

**【対応】**

近い端点同士を結んでクリップ領域としていましたが、近い端点同士を結んだときに領域線が交差する場合は、反対側の点と結ぶように修正しました。

**3.3.10 トリム連続でテンポラリアイテムを確定するとコマンドが終了する**

【レポート番号】 B19088 【発生】 19.00 【修正】 19.04

**【コマンド】 TRM/SEQ****【現象】**

トリム連続で、テンポラリ図形を確定させるために <CE> を入力すると、トリム連続コマンドが終了してしまう。

**【対応】**

- 以下のように変更しました。
- ・要素を選択するたびにトリム結果をテンポラリ図形で表示する。
  - ・<CE> でテンポラリ図形を確定する。
  - ・確定後の <CE> でコマンドを終了する。

**3.3.11 円のトリム**

【レポート番号】 B19100 【発生】 19.00 【修正】 19.04

【コマンド】 TRM/GG, TRM/PP, MTRM/GG, MTRM/PP, LMT/GG, LMT/PP

**【現象】**

円をトリムするとき、トリム点 (2点) の順序によって円弧の残る部分が違っていなければならないが、いつも同じ結果になってしまう。

**【対応】**

修正しました。

---

### 3.3.12 敷き写し

【レポート番号】 B19102 【発生】 19.00 【修正】 19.05

【コマンド】 STR/TRACE

#### 【現象】

離れている線分アイテムを選択すると「交点が計算できません」のエラーメッセージが出る。バージョン 18 では離れている線分でもできていた。

#### 【対応】

修正しました。ストリングアイテムを選択した場合などで、実交点を持たず延長交点を使用したとき問題が生ずることがあり、制限を加えたのですが、以前のバージョンと同じに戻しました。

### 3.3.13 アイテム分解で非表示アイテムが画面に残る

【レポート番号】 B19107 【発生】 18.00 【修正】 18.20, 19.05

【コマンド】 ITM/BRK

#### 【現象】

複合アイテムを分解したときに、表示マスクにより非表示になるアイテムが、分解前の属性で表示されている。

#### 【原因】

元アイテムの形状を消去していませんでした。そのために、表示マスクにより非表示になるアイテムの形状が、複合アイテムの属性で画面に残っていました。

#### 【対応】

修正しました。

### 3.3.14 オフセット距離 0 で曲線セグメントの複製ができない

【レポート番号】 B19132 【発生】 19.00 【修正】 19.06

【コマンド】 OFFSET, LPL, LPLS

#### 【現象】

オフセットおよび平行線コマンドで、オフセット距離を 0.0 にしての複合アイテム内のカーブセグメントの複製ができない。

#### 【対応】

修正しました。

### 3.3.15 ベクトル点 二番目以降の点が誤り

【レポート番号】 B19155 【発生】 19.00 【修正】 19.07

【コマンド】 PVR

#### 【現象】



このコマンドで曲線上に点を作る時、最初の点は正しいが、二番目以降の点は最初の点と同じ位置に作成される。たとえば次のような操作で、線分端点から 20 と 40 の位置に点を作るとします。

```
PVR TPN D 20 ISline 40 ISline
```

この結果の二番目の点が最初の点と同じになるのが誤りです。

**【対応】**

修正しました。

**3.3.16 カーブアイテム分割で異常終了**

【レポート番号】 B19157 【発生】 19.00 【修正】 19.07

【コマンド】 ITM/SPLIT

**【現象】**

ストリングアイテムを交差する線分で分割しようとする時、Advance CAD が異常終了してしまう。

**【原因】**

分割しようとするストリングアイテムに特性データが付加されています。特性データがストリングアイテムの図形データの並びに割り込んでいます。これがトラブルの原因です。リングアイテムの図形データの並びに図形以外のデータが割り込んでいなければ問題は生じません。

**【対応】**

修正しました。

通常特性データはアイテムの最後に付加することになっています。Advance CAD の形状処理のほとんどがそれを前提としています。

**3.3.17 カーブアイテム分割で分割したアイテムが消滅**

【レポート番号】 B19164 【発生】 19.00 【修正】 19.07

【コマンド】 ITM/SPLIT

**【現象】**

分割したアイテムが消えて無くなる場合があります。

**【対応】**

修正しました。

**3.3.18 ベクトルコマンドで異常終了**

【レポート番号】 B19166 【発生】 19.00 【修正】 19.07

【コマンド】 PVA, PVE

**【現象】**

VPA コマンド (カーブセグメントに平行なベクトル) でカーブセグメントを選択するところ  
で、誤って点を選択してしまうと異常終了してしまう。

```
PCE 0,0 <CE>
```

```
VPA <dig> ← ここで点を選択すると...
```

VPE コマンド (カーブセグメントに垂直なベクトル) も同じ問題があります。

---

**【対応】**

修正しました。

### 3.3.19 距離 0 でオフセット : アイテムタイプが変わる

【レポート番号】 B19167 【発生】 19.00 【修正】 19.07

【コマンド】 OFFSET, LPL, LPLS

**【現象】**

曲線アイテムを距離 0 でオフセットしてできるアイテムのアイテムタイプが元の曲線アイテムと違っていることがあります。たとえば、円弧をオフセットしたらアイテムタイプが線分になっているといったことです。このようなアイテムができてしまったなら削除してください。曲線アイテムは、線分、円・円弧、自由曲線またはストリングです。複合アイテムやサブモデルアイテムの中の曲線アイテムをオフセットしてもこの問題はありません。また、オフセット距離が 0 でなければ、この問題はありません。

**【対応】**

修正しました。

### 3.3.20 長さがきわめて短い接円弧

【レポート番号】 B19182 【発生】 19.00 【修正】 19.07

【コマンド】 CFL

**【現象】**

接円コマンドで長さがきわめて短い接円弧が計算され、画面上で見えないことがありました。一点で接触している二つの円に対して接円弧を計算するときだけ発生します。複数の接円弧が計算されたとき、デジタル化した位置に近い接円弧が選ばれるので、長さがきわめて短い接円弧が最初に出てくることはありません。複数の接円弧が計算されたとき、次候補 (NXT) を入力すれば、接円弧を順次表示します。この時何も表示されないなら、長さがきわめて短い接円弧です。さらに次候補 (NXT) を入力すれば次の接円弧を表示します。

**【対応】**

長さがきわめて短い接円弧ができないよう修正しました。

### 3.3.21 クリッピングコマンドで異常終了

【レポート番号】 B19196 【発生】 19.00 【修正】 19.07

【コマンド】 CLIPPER

**【現象】**

クリッピングコマンドで、クリップされたテンポラリアイテムを確定する時に Advance CAD が異常終了することがある。

CLIPPER IS1 <CE> IS2 <CE> <CE>

**【対応】**

クリッピングコマンドで、アイテムの非表示になった部分を削除する過程に誤りがありました。除去する部分がなければこの問題はありません。訂正しました。

## 3.4 製図アイテム

### 3.4.1 文字列修正で文字列が選択できない

【レポート番号】 B19005 【発生】 19.00 【修正】 19.01

【コマンド】 TEXT/RPL

#### 【現象】

文字列修正でテンポラリアイテムの文字列が選択できない。

#### 【対応】

トラップボックスが文字枠内に完全に含まれる場合に文字列が選択できませんでした。修正しました。

### 3.4.2 製図要素一括修正で文字列の位置が移動する

【レポート番号】 B19054 【発生】 19.00 【修正】 19.03

【コマンド】 ETEXT/ORGHOR, ETEXT/ORGVER

#### 【現象】

製図要素一括修正で文字列原点水平基準、垂直基準を変更すると文字列が移動する。

#### 【対応】

修正しました。

### 3.4.3 寸法値変更で半角カナの文字がなくなる

【レポート番号】 B19072 【発生】 当初から 【修正】 18.18, 19.00

【コマンド】 DTEXT/CHG

#### 【現象】

寸法値変更で寸法値を選択したときに、半角カナの寸法付加テキストがプロンプト領域に表示されない。そのために半角カナの付加テキストを再度入力しなければならない。

#### 【対応】

修正しました。

### 3.4.4 製図要素一括修正、トリム：キャンセルキーで変更が確定する

【レポート番号】 B19077 【発生】 19.00 【修正】 19.03

【コマンド】 DRF/EDIT, TRM, MTRM, CTRM

#### 【現象】

製図一括修正で、パラメータを変更して修正するアイテムを選択するとテンポラリ図形になる。そのときに、修正をキャンセルしようとしてキャンセルキーを打つと修正結果のテンポラリ図形が確定してしまい、キャンセルできない。

TRM、MTRM、CTRM も同様の問題があります。

---

**【対応】**

修正しました。

### **3.4.5 累進寸法の寸法追加ができない**

**【レポート番号】** B19089 **【発生】** 当初から **【修正】** 18.19, 19.04

**【コマンド】** ODMADD

**【現象】**

「累進寸法を追加」で累進寸法を選択すると「アイテムタイプが違います」となり、追加できないことがある。

**【対応】**

修正しました。

### **3.4.6 計算公差の再計算ができない**

**【レポート番号】** B19094 **【発生】** 19.00 **【修正】** 19.04

**【コマンド】** DIMTOL/MOD

**【現象】**

計算公差修正で、計算公差を再計算させるために "\*" を入力すると「無効な入力です」となり公差が更新されない。また誤って計算公差の付いていない寸法に "\*" を指定すると、Advance CAD が異常終了する。

**【対応】**

修正しました。

### **3.4.7 直列長さ寸法の寸法値位置**

**【レポート番号】** B19101 **【発生】** 19.00 **【修正】** 19.05

**【コマンド】** MDMH、MDMV

**【現象】**

直列長さ寸法記入コマンドは、寸法値文字列が寸法補助線間に収まらないときは寸法値文字列を移動し、隣接する寸法の寸法値文字列との重なりを避けようとしています。この場合の寸法値文字列の移動方向がバージョン 18 と逆方向になっていました。

**【対応】**

修正しました。

### **3.4.8 寸法線移動のラバーバンド形状が正しくない**

**【レポート番号】** B19134 **【発生】** 19.00 **【修正】** 19.06

**【コマンド】** DIM/ALN

**【現象】**

寸法線移動で面取り寸法を選択すると、文字枠のラバーバンドが正しくない。

**【対応】**

修正しました。

**3.4.9 上の寸法許容差入力が下の寸法許容差になる**

【レポート番号】 B19135 【発生】 19.00 【修正】 19.06

【コマンド】 DIM TOLUP text

**【現象】**

寸法記入コマンドで、上の寸法許容差を文字列で入力すると下の寸法許容差となってしまう。たとえば、“-0”のような入力をした場合、下の寸法許容差になる。上の寸法許容差を数値で入力するときは正しい。

**【対応】**

修正しました。

**3.4.10 寸法値と引出し線とのクリアランスが一定でない**

【レポート番号】 B19136 【発生】 19.00 【修正】 19.06

【コマンド】 DMD, DMR, DCHM, DCO

**【現象】**

半径寸法、直径寸法、面取り寸法、座標寸法など、引出し線上に寸法値を記入する形式の寸法で発生します。製図定数の『引出線 最後の線の丸め角度』が設定してあると、引出し線の最後の線分の角度を丸めます。このとき寸法値記入位置の計算に誤りがありました。この記入位置の若干のずれにより、寸法値と引出し線とのクリアランスが製図定数で指定した通りにならない現象が発生しました。デフォルトではこの丸め角度は5度で、記入位置のずれは目立ちません。丸め角度を大きくするとずれが大きくなります。

**【対応】**

修正しました。

**3.4.11 溶接記号：コマンドの入力を <BS> で戻すときに誤り**

【レポート番号】 B19140 【発生】 18.00 【修正】 18.21, 19.06

【コマンド】 WMARK

**【現象】**

溶接記号を記入するとき、溶接記号、溶接部分断面寸法、ルート間隔などを入力します。入力途中で誤りに気がついたときは <BS> を入力すれば、さかのぼって再入力できます。向こう側の溶接記号の入力時、この <BS> の処理が適切に機能しないことがあります。手前側の溶接記号の入力時はこの問題はありません。

**【対応】**

向こう側の溶接記号の入力時の <BS> 処理に誤りがあり、修正しました。

**3.4.12 引出し線が文字列よりかなり長い**

【レポート番号】 B19142 【発生】 19.00 【修正】 19.06

---

## 【コマンド】 DMR など

### 【現象】

半径寸法を記入すると、引出し線の最後の線分が寸法値の文字列よりかなり長くなることがある。

この問題は文字列の長さが 1 より短いときに発生します。通常は文字列の長さが充分長いので発生しません。部分拡大図などで、ピクチャスケールを 10 倍、20 倍などに設定すると顕著になります。半径寸法の引出し線だけでなく、引出し線すべてに関係します。

製図定数の『引出線 最後の線の丸め角度』に 0 を設定し、引出し線の最後の線分の角度丸めを無効にすれば回避できます。

### 【対応】

訂正しました。

## 3.4.13 文字列の矩形ドラッグिंग

【レポート番号】 B19173 【発生】 18.00 【修正】 19.07

【コマンド】 GNT, GLB, GNTPLY

### 【現象】

空文字列なのに小さい矩形をドラッグしている。小さな矩形 (1 x 0.25) なのでほとんど気付かないが、拡大していくと気付くことがある。これによる害はありません。

### 【対応】

訂正しました。

## 3.4.14 切断線：入力点数が多いと異常終了

【レポート番号】 B19186 【発生】 当初から 【修正】 18.22, 19.07

【コマンド】 SECTION

### 【現象】

切断線を 17 点以上の点列で作成するとアプリケーションが異常終了します。バージョン 17 では、異常終了はしませんが、次のような問題があります。点数が 32 を超えると「無効な入力です」のエラーが出るのに、入力点は拒否されず追加されていました。

### 【対応】

最多点数を 32 に制限し、誤りを訂正しました。

## 3.4.15 面の肌記号の引出し線

【レポート番号】 B19187 【発生】 18.00 【修正】 18.22, 19.07

【コマンド】 SMARK

### 【現象】

面の肌記号の引出し線は 15 点以内だが、16 点入力できエラーになる。

### 【対応】

最多点数を 15 に制限し、誤りを訂正しました。

### 3.4.16 境界として使用したハッチングアイテム

【レポート番号】 B19189 【発生】 19.00 【修正】 19.07

【コマンド】 XHT

#### 【現象】

ハッチング作成コマンドで閉じた境界 (BNDCL0) のとき、ハッチングの境界として使用したハッチングアイテムは、アイテム作成後に削除されるはずだが、削除されずに残っている。

#### 【対応】

誤りを訂正しました。

### 3.4.17 寸法許容差値を計算する

【レポート番号】 B19191 【発生】 17.04 【修正】 20.00

【コマンド】 DIMTOL/MODT

#### 【現象】

DIMTOL/MOD コマンドは、寸法値と公差域クラスから寸法許容差を計算し、寸法アイテムにそれを付加します。たとえば、寸法値テキスト "90 H7" は、寸法値が 90 で、公差域クラスが H7 です。この寸法アイテムに対して " \* " を入力すると、寸法許容差を計算し、寸法アイテムを更新します。公差クラス付き寸法値に、" \* " を入力しても寸法許容差値が付かなくなっています。

#### 【対応】

DIMTOL/MOD コマンドの誤りを訂正しました。

製図常数のひとつに『公差域クラスの表示形式』があります。これは長さ寸法に公差域クラスを付加したときの表示形式を指定します。

製図常数『公差域クラスの表示形式』(DIM/TOLSTL)

- 0 : 公差域クラスの後に寸法許容差を括弧で括って表示。
- 1 : 公差域クラスの後に寸法許容差を表示。
- 2 : 公差域クラスだけ表示。

これは公差域クラス ("H7", "g7" など) が入力された場合に限りです。

それ以外の特殊な入力 ("-g7", "\*", "100h7" など) は公差域クラスから寸法許容差を計算するのが目的なので、この製図常数は適用しません。この製図常数を「2 : 公差域クラスだけ表示」に設定していると、このような寸法許容差計算/設定ができなくなっていました。以前のようにこれができるように訂正しました。





## 3.5 結合アイテム

### 3.5.1 シンボル表示ダイアログでシンボル名が表示されない

【レポート番号】 B19025 【発生】 当初から 【修正】 18.17, 19.02

【コマンド】 SYM/DSP

【現象】

シンボル表示ダイアログで「次ページ」ボタンで次候補のシンボルを表示すると、シンボル名が表示されない。「前ページ」ボタンでの前候補の場合はシンボル名も表示される。

【対応】

修正しました。

### 3.5.2 シンボル表示ダイアログで異常終了する

【レポート番号】 B19026 【発生】 当初から 【修正】 18.17, 19.02

【コマンド】 SYM/DSP

【現象】

シンボル表示ダイアログで、シンボル名のエディットボックスが空の状態ですべての Enter キーを打つと Advance CAD が異常終了することがある。

【対応】

修正しました。

### 3.5.3 コンポジットアイテム作成失敗でも元のアイテムが削除される

【レポート番号】 B19027 【発生】 19.00 【修正】 19.02

【コマンド】 COMP

【現象】

多くのアイテムをひとつのコンポジットアイテムにしようとしたときに発生します。コンポジットアイテムのサイズが制限を超え、作成に失敗したのに元のアイテムが削除される現象です。これは UNDO で回復します。

削除する元のアイテムが 2048 を超えるとき、最初の 2048 アイテムだけが削除され、削除が不完全であることです。これはコンポジットアイテムの作成に成功した場合にも発生します。

【対応】

修正しました。

### 3.5.4 サブモデル配置で異常終了

【レポート番号】 B19030 【発生】 19.00 【修正】 19.02

【コマンド】 SUB

---

#### 【現象】

SUB “name” ANG 30 DRGITM とした時点で異常終了します。  
サブモデルを回転して配置するとき、ドラッグモードをアイテム (DRGITM) としたときに問題が発生します。ドラッグモードを矩形 (DRGBOX) とした場合は問題ありません。

#### 【対応】

修正しました。

### 3.5.5 ドラッグ開始時にグラフィックス領域の図形が消える

【レポート番号】 B19048 【発生】 18.00 【修正】 18.18, 19.03

【コマンド】 SUB, SYM

#### 【現象】

サブモデル配置およびシンボル配置のドラッグ開始時に、グラフィック領域の図形が消える。

#### 【対応】

Windows 版で、ACAD.SET に DRAGGING\_TYPE\_COPY と記述されている場合に発生します。  
修正しました。

### 3.5.6 サブモデル更新情報表示で異常終了する

【レポート番号】 B18059 【発生】 当初から 【修正】 18.02

【コマンド】 SUB/ULS

#### 【現象】

サブモデルの更新情報表示で親サブモデルが表示されていない子サブモデルをクリックすると Advance CAD が異常終了する。

#### 【対応】

親サブモデルが表示されていない子サブモデルをクリックしたときは、エラーにするように修正しました。

### 3.5.7 サブグラフィック ウィンドウのシンボル表示色

【レポート番号】 B19063 【発生】 19.00 【修正】 19.03

【コマンド】 SYM, SYM/GEN

#### 【現象】

シンボル作成およびシンボル配置で、サブグラフィックウィンドウに表示されるシンボルの色が、配置したときの色になっていない。

#### 【対応】

モデル定数のシンボルのカラー表示が 0 (=結合アイテム) の時に、サブウィンドウに表示するシンボルの色が配置時の色と違っていました。配置時の色になるように修正しました。

### 3.5.8 シンボル表示で指定したディレクトリパスが表示されない

【レポート番号】 B19066 【発生】 19.02 【修正】 19.03

【コマンド】 MODEL/DSP, SUB/DSP, SYM/DSP

【現象】

シンボル表示で、指定したディレクトリ名が表示されなくなった。

【対応】

サブウィンドウにシンボル形状を表示したときに、表示しているシンボルの保存されているディレクトリを、ステータス領域に表示するように修正しました。

### 3.5.9 サブモデル名称変更でフリーズ

【レポート番号】 B19071 【発生】 当初から 【修正】 18.18, 19.00

【コマンド】 SUB/RNM

【現象】

サブモデル名称変更で Advance CAD がフリーズすることがある。

【対応】

カテゴリサブレコードのサブレコード番号を保持する変数が 16 ビット整数のために 32767 までしか表現できませんでした。そのために 32767 レコード以降にカテゴリサブレコードが現れると、そこで無限ループになっていました。32 ビット整数に変更しました。

### 3.5.10 サブモデル更新情報表示で情報が表示されない

【レポート番号】 B19086 【発生】 当初から 【修正】 18.19, 19.04

【コマンド】 SUB/ULS, SYM/ULS

【現象】

マクロで SUB/ULS ALL とすると、サブモデル更新情報が表示されない。

【対応】

サブモデル更新情報表示およびシンボル更新情報表示で、初期画面はメモリと画面の両方に描画しているが、「更新する・しない」を変更した場合は、メモリへ描画しないで画面だけに描画していました。そのために、ウィンドウをクローズしてからオープンした時や、マクロからの更新情報表示が正しく表示されないことがありました。メモリへも描画するように修正しました。

### 3.5.11 サブモデル配置で異常終了する (Windows 版のみ)

【レポート番号】 B19106 【発生】 17.10, 18.12 【修正】 18.20, 19.05

【コマンド】 SUB, SUB/DSP, SYM, SYM/DSP

【現象】

サブモデル配置で異常終了することがある。

【原因】

Windows 版でダイアログモードがオンの場合のサブモデル配置で、配置するサブモデルをサブモデル表示で選択したあとのドラッグ処理に誤りがあり、異常終了することがありました。シンボル配置のシンボル表示も同様な問題があります。

---

**【対応】**

修正しました。

## 3.6 アイテムの編集

### 3.6.1 寸法アイテムのストレッチ結果が正しくない

【レポート番号】 B19032 【発生】 19.00 【修正】 19.02

【コマンド】 STRETCH

【現象】

長さ寸法アイテムの寸法参照点のどちらか一方だけがストレッチ領域に入っているときに問題が発生します。寸法線（矢羽の付いている）が傾き、寸法値が変わってしまいます。寸法アイテム全体、両方の寸法参照点、あるいは寸法補助線がストレッチ領域に入る場合は問題ありません。

【対応】

修正しました。

### 3.6.2 コピー／ペーストで異常終了

【レポート番号】 B19033 【発生】 当初から 【修正】 18.17, 19.02

【コマンド】 WCP/COPY, WCP/PASTE

【現象】

コピー／ペーストコマンドで異常終了することがある。

【対応】

全角で 1000 文字を超える注記があるとコピー時に異常終了することがありました。また、コピーに成功してもペースト時に異常終了する場合があります。修正しました。

### 3.6.3 伸縮できない

【レポート番号】 B19104 【発生】 18.00 【修正】 18.20, 19.05

【コマンド】 STRETCH

【現象】

伸縮できないことがある。

【原因】

モデル呼出しでストレッチ領域を読み込んだときに、ストレッチ領域の最大外形が正しく設定されていませんでした。そのために伸縮の対象アイテムかどうかの判定が不安定でした。

【対応】

修正しました。  
バージョン 18.00～18.19、19.00～19.04 でこの現象が発生したら、ストレッチ領域の再設定をすればその瞬間は解決します。ただしモデル保存およびモデル呼出しをすると問題の状態に戻ります。

### 3.6.4 切出更新 ALL

【レポート番号】 B19105 【発生】 19.00 【修正】 19.05

---

**【コマンド】** CUT\_REGEN

**【現象】**

CUT\_REGEN ALL が機能しない。

**【対応】**

修正しました。

### **3.6.5 座標寸法のスチレッチ**

**【レポート番号】** B19175 **【発生】** 19.00 **【修正】** 19.07

**【コマンド】** STRETCH

**【現象】**

ストレッチコマンドで座標寸法を移動した場合、引出し線先頭（矢の先）が移動したときは寸法値が更新される。寸法値が更新されなかったり、値が間違っている。

**【対応】**

修正しました。

## 3.7 モデルの保存／読み込み

### 3.7.1 モデル読み込みで異常終了

【レポート番号】 B19037 【発生】 19.00 【修正】 19.02

【コマンド】 MODEL/READ

#### 【現象】

マーク番号0のマーク・サブレコードを持つアイテムがあり、しかもそれが、ピクチャの最初のアイテムのとき異常終了します。ピクチャの最初のアイテムでなければ、このアイテムは読み飛ばされます。

#### 【対応】

バージョン19はアイテムデータの有効性の検査を、以前のバージョンより厳密に行います。マーク番号0をもつマーク・サブレコードは不正なデータと判断したのが原因です。マーク番号0は表示するマークが無いので、通常はサブレコードを非表示にすることで同じ効果が得られます。そういう処理をせずマーク番号を0に設定している場合があります。マーク・サブレコードの有効性の検査をあまくして、マーク番号0を許可するように修正しました。

### 3.7.2 図面枠情報が正しく読み込めない

【レポート番号】 B19041 【発生】 19.00 【修正】 19.02

【コマンド】 MODEL/READ

#### 【現象】

バージョン14のモデルをバージョン19で呼び出すと、図面枠情報が正しくないことがある。

#### 【対応】

図面枠の指定方法で、図面枠シンボル指定と用紙サイズ指定が混在している場合に、最初に現われた指定方法とは違う指定方法の図面枠情報が正しく読み込まれませんでした。正しく読み込むように修正しました。

### 3.7.3 アイソメグリッド情報が正しく読み込めない

【レポート番号】 B19045 【発生】 18.00 【修正】 18.17, 19.02

【コマンド】 MODEL/READ

#### 【現象】

バージョン17のモデルをバージョン18で呼び出すと、アイソメグリッド情報が正しくない。

#### 【対応】

バージョン18および19で、バージョン15～17で作成したモデルを読み込む場合に、アイソメグリッド情報の読み込みに誤りがありました。正しく読み込むように修正しました。

### 3.7.4 ヘッダーブロックのデータ構造エラー

【レポート番号】 B19046 【発生】 18.00 【修正】 18.07, 19.02

【コマンド】 MODEL/READ

### 【現象】

バージョン 14 のモデルをバージョン 18 で呼び出すと、ヘッダーブロックのデータ構造エラーになり、モデルが呼び出せない。

### 【対応】

エラーを起こすバージョン 14 のモデルファイル内の属性バンドルテーブルレコードがバージョン 7 以下の形式になっていました。バージョン 7 以下の形式も読み込むように修正しました。

## 3.7.5 ドローイングブロックのデータ構造エラー

【レポート番号】 B19047 【発生】 18.00 【修正】 18.17

【コマンド】 MODEL/READ

### 【現象】

バージョン 14 のモデルをバージョン 18 で呼び出すと、ドローイングブロックのデータ構造エラーになり、モデルが呼び出せない。

### 【対応】

エラーを起こすバージョン 14 のモデルファイル内のページタイトルレコードが不正な構造になっていました。バージョン 18.17 で、読み飛ばすように修正しました。  
バージョン 19 は、19.00 で読み飛ばすように修正されています。

## 3.7.6 ストレッチ領域定義点を読み飛ばす

【レポート番号】 B19082 【発生】 19.00 【修正】 19.04

【コマンド】 MODEL/READ

### 【現象】

モデルファイル読み込みで、ストレッチ領域の定義点数が 1 2 8 以上のとき、ストレッチ領域が読み飛ばされる。定義点数が 1 2 8 以下であれば問題ない。

### 【対応】

修正しました。

## 3.7.7 モデルタイトルのダイアログでキャレットが表示されない

【レポート番号】 B19090 【発生】 17.01 【修正】 18.19, 19.04

【コマンド】 MODEL/TITLE、DRAW/TITLE

### 【現象】

モデルタイトルおよび図枠タイトルダイアログで、テキストエディットボックスのキャレット（カーソル）が表示されないで、編集しにくいことがある。

### 【対応】

ダイアログが表示されたときおよび縦スクロールしたときに、テキストエディットボックスのキャレットが表示されませんでした。正しく表示するように修正しました。

## 3.7.8 モデル呼び出しでアイテムが欠落

【レポート番号】 B19121 【発生】 18.00 【修正】 18.20, 19.05



**【コマンド】 MODEL/READ****【現象】**

モデル呼出時に「アイテムのサブレコードタイプが有効でない」とメッセージが表示されてアイテムが欠落する。

**【対応】**

サブモデル配置時に選択マスクを使用するとした場合、配置時の選択マスクをサブモデルアイテムに保持します。原因は不明ですが、問題のモデルファイルに保持されていた選択マスクのデータ構造に誤りがありました。

バージョン 18 は、誤りのまま読み込んでいました。

バージョン 19 は、誤りをのあるアイテムを削除していました。

バージョン 18、19 ともに正しいデータ構造に修復するように修正しました。

**3.7.9 共通データファイルの図枠サイズに誤り**

**【レポート番号】** B19122 **【発生】** 18.00 **【修正】** 18.20, 19.05

**【コマンド】 COMMON/WRITE****【現象】**

共通データ書き込みで作成した共通データファイル内の、図面枠の大きさが正しくない場合がある。

**【対応】**

修正しました。

**3.7.10 共通データファイル読み込みで異常終了**

**【レポート番号】** B19126 **【発生】** 18.00 **【修正】** 18.20, 19.05

**【コマンド】 COMMON/READ****【現象】**

共通データ読み込みで異常終了することがある。

**【対応】**

新規モードで共通データを読み込んだ場合に、ドローイングタイトルの処理に誤りがありました。修正しました。

**3.7.11 アイテム名が失われる**

**【レポート番号】** B19130 **【発生】** 19.00 **【修正】** 19.06

**【コマンド】 MODEL/WRITE****【現象】**

ピクチャ参照機能 (サブモデル) を使用している場合、モデル保存するとサブモデルおよび複合アイテムに付加したアイテム名がなくなってしまう。

**【対応】**

修正しました。



## 3.8 図面配置と図面出力

### 3.8.1 可変記入項目定義の下線や文字枠が常に描画される

【レポート番号】 B19003 【発生】 18.00 【修正】 18.16, 19.01

【コマンド】 DRAW、PLOT

#### 【現象】

図面枠の可変記入項目定義に、下線や文字枠を設定しておく、可変記入項目の入力の有無にかかわらず、定義時の下線や文字枠が常に描画される。

#### 【対応】

修正しました。

### 3.8.2 可変記入項目定義が図面枠の大きさに含まれる

【レポート番号】 B19004 【発生】 18.00 【修正】 18.16, V19.01

【コマンド】 DRAW、PLOT

#### 【現象】

図面枠の可変記入項目定義が、図面枠の最大外形に含まれてしまう。図面枠定義が図面枠をはみ出す場合があり、その図面枠は、1サイズ大きい用紙サイズとして処理されてしまう。

#### 【対応】

可変記入項目定義は図面枠の大きさには含めないよう修正しました。

### 3.8.3 コピー出力でグラフィックゾーンが描画されない

【レポート番号】 B19065 【発生】 当初から 【修正】 18.18, 19.03

【コマンド】 HCOPY、QPLOT

#### 【現象】

コピー出力時のパラメータファイルで「グラフィックゾーンを描画する」と指定してもグラフィックゾーンが描画されない。

#### 【対応】

修正しました。

### 3.8.4 図面印刷の線種ピッチが正しくない

【レポート番号】 B19078 【発生】 18.13 【修正】 18.18, 19.03

【コマンド】 PLOT/PRINT

#### 【現象】

点線の円、円弧、自由曲線の線種ピッチが正しくない。点で埋め尽くされているように見える。

#### 【対応】

修正しました。

---

### 3.8.5 ポストスクリプトで色が出ない

【レポート番号】 B19108 【発生】 当初から 【修正】 18.20, 19.05

【コマンド】 ap\_PS

#### 【現象】

カラーでのポストスクリプト出力時に、パラメータファイルの COLOR\_MODE 行でカラーの指定方法を設定するが、RGB で指定するために "1" と記述すると、白黒出力になってしまう。

#### 【原因】

数値指定 (1=RGB、2=CMYK) は有効ではありませんでした。"Rgb" または "Cmyk" と指定すれば有効になります。

#### 【対応】

数値指定も正しく処理するように修正しました。

### 3.8.6 モノクロームイメージが正しく描画されない

【レポート番号】 B19114 【発生】 当初から 【修正】 18.20, 19.05

#### 【現象】

ウインドウ領域でクリップされたモノクロームイメージを回転して図面配置するとイメージの描画が正しくない。

#### 【対応】

修正しました。

### 3.8.7 ウインドウ枠の表示が正しくない

【レポート番号】 B19115 【発生】 19.00 【修正】 19.05

#### 【現象】

図面配置時に、倍率を指定してウインドウを配置すると、ウインドウ枠の表示が正しくない。

#### 【対応】

修正しました。

### 3.8.8 図面印刷で線幅が細く描画される

【レポート番号】 B19123 【発生】 19.00 【修正】 19.05

【コマンド】 PLOT/PRINT

#### 【現象】

図面印刷で、ウインドウ 0 の境界線上の線の線幅が細い。

#### 【対応】

境界より外側の線幅が描画されませんでした。修正しました。

### 3.8.9 図面印刷で異常終了する

【レポート番号】 B19124 【発生】 当初から 【修正】 18.20, 19.05

**【コマンド】 PLOT/PRINT****【現象】**

線種ピッチが大きいと、図面印刷で異常終了することがある。

**【対応】**

修正しました。

**3.8.10 ビューポート領域が印刷領域の下側に描画される**

**【レポート番号】** B19133 **【発生】** 18.18, 19.03 **【修正】** 18.21, 19.06

**【コマンド】 HCOPIY, HCOPIY/PRINT, QPLOT, QPLOT/PRINT****【現象】**

ウインドウを最大化してコピー出力およびコピー印刷を行うと、ビューポート領域が印刷領域の下側に描画される。

クイック出力、クイック印刷でも同様な問題がある。

**【対応】**

ビューポート領域を印刷領域の中央に合わせるように修正しました。



## 3.9 その他の機能

### 3.9.1 リスタートで陰線処理の結果が正しくない

【レポート番号】 B19010 【発生】 当初から 【修正】 18.16, 19.01

【コマンド】 RESTART, CLIPPER, CLIP\_OUTL, CLIP\_PLY

【現象】

リスタートで陰線処理の結果が正しくない。

【原因】

陰線処理のオプションは、Advance CAD 起動時は「内側消去」になり、以後は一度指定されたオプションを Advance CAD の終了まで保持します。リスタートのセッションログファイルはモデル保存のたびに、保存したモデルの呼出しから始まるように更新されます。モデル保存以前に、たとえば「内側破線」で陰線処理し、モデル保存後の陰線処理でオプション指示を省略した場合、リスタートで「内側消去」として処理されます。

【対応】

陰線処理コマンドが選択されたときに、その時点でのオプションをセッションログファイルに記録するように修正しました。

### 3.9.2 3Dのスweep、回転体が作成できない

【レポート番号】 B19056 【発生】 19.01 【修正】 19.03

【コマンド】 SWEEP\_3, REVOL\_3

【現象】

sweep、回転体の作成コマンドを実行しても3Dデータのビュー投影が作成されない。

【対応】

修正しました。

### 3.9.3 リスタート時に切断線が正しく復元しない

【レポート番号】 B19070 【発生】 当初から 【修正】 18.18, 19.03

【コマンド】 SECTION, RESTART

【現象】

リスタート時に切断線が正しく復元されないことがある。

【対応】

修正しました。

### 3.9.4 演算定数を指数形式で入力できない

【レポート番号】 B19119 【発生】 当初から 【修正】 18.20, 19.05

【コマンド】 RVP/MATH

---

**【現象】**

ダイアログモードがオフの場合、演算定数を指数形式で入力すると「無効な入力です」になり、値が設定できない。

**【対応】**

演算定数入力時は数値を指数形式でも指定できるように修正しました。

### 3.9.5 Mdlread() 関数の誤り

【レポート番号】 B19073 【発生】 19.00 【修正】 19.03

【関数】 Mdlread()

**【現象】**

プログラミングインターフェース公開関数 Mdlread() の第二引数（読み込みモード）に 2 を指定しても、ピクチャ縮尺値が読み込めない。またプログラミングマニュアルの Mdlread1() の記述が正しくない。

**【対応】**

関数 Mdlread() の誤りを修正しました。またプログラミングマニュアルの Mdlread1() の記述の誤りを訂正しました。

### 3.9.6 gmuctn3g() 関数の誤り

【レポート番号】 B19145 【発生】 19.00 【修正】 19.07

【関数】 gmuctn3g()

**【現象】**

プログラミングインターフェース公開関数 gmuctn3g() で計算した 3 接円が V15 と V19 で結果が異なり、V19 が誤っている。

**【対応】**

収束判定の誤りを修正しました。

### 3.9.7 Drw005() 関数の誤り

【レポート番号】 B19163 【発生】 18.00 【修正】 18.22, 19.07

【関数】 Drw005()

**【現象】**

第一引数 (drwpg) で指定したドローイングレイアウト番号が無効になっている。

```
int Drw005(int drwpg, int tnum, 略 );
```

この関数は、引数 (drwpg) を使わず、アクティブなドローイングレイアウトを参照していました。アクティブなドローイングレイアウト以外を指定したときは正しい結果が得られませんでした。

**【対応】**

収束判定の誤りを修正しました。



### 3.9.8 ISO ハッチングアイテムを処理できない

【レポート番号】 B19179 【発生】 19.00 【修正】 19.07

【コマンド】 ISO

【現象】

ハッチングアイテムを処理できなくなっていました。

【対応】

修正しました。

### 3.9.9 ISOITM 点アイテムを処理できない

【レポート番号】 B19180 【発生】 19.00 【修正】 19.07

【コマンド】 ISOITM

【現象】

Z 深さを指定し、変換する点アイテムを指示するとエラーメッセージが出て処理できません。

【対応】

修正しました。



## 3.10 ユーティリティ

### 【SXF 変換】

#### 3.10.1 "ユーザ定義線幅が定義されていません"とメッセージが出る

【レポート番号】なし【発生】18.15【修正】18.17, 19.01

【コマンド】SXF/WRITE

##### 【現象】

"ユーザ定義線幅が定義されていません"とメッセージが出る

##### 【対応】

塗り潰し・ハッチングが塗り潰し・ハッチングに変換できなくて作図部品に変換する場合の処理に不具合がありました。修正しました。

### 【モデル検索】

#### 3.10.2 検索項目のモデルタイトルの位置がずれる

【レポート番号】なし【発生】18.14【修正】18.15, 19.01

【コマンド】TTLSET

##### 【現象】

検索項目で設定したモデルタイトルの位置がずれる。(サブウインドウモード)

##### 【対応】

修正しました。

#### 3.10.3 一覧表示で異常終了する

【レポート番号】なし【発生】18.01【修正】18.19, 19.04

【コマンド】MDLDISP

##### 【現象】

モデル検索後モデルの一覧表示で異常終了する。

##### 【対応】

モデルタイトルの表示に不具合がありました。  
修正しました。

#### 3.10.4 情報変更で変更後の表示位置がずれる

【レポート番号】B19067【発生】19.03B【修正】18.18, 19.03

【コマンド】モデル検索

##### 【現象】

---

DLGMODE=0 の時、モデル検索の情報変更のタイトル変更を行なった時に修正後の表示コラムが異なる。

**【対応】**

モデル情報変更でモデルタイトルの一覧表示の表示位置の設定に誤りがありました。修正しました。

### 3.10.5 モデル情報変更後のカラーテーブルがデフォルト値になる

**【レポート番号】** B19068 **【発生】** 19.03B **【修正】** 19.03

**【コマンド】** モデル検索

**【現象】**

バージョン 17 のモデルを情報変更でタイトルを変更すると、色定義数がバージョン 17 の時のデフォルト数 14 に戻ってしまう

**【対応】**

モデルの変更でバージョン 17 以前のモデルの場合、カラーテーブルの初期設定を行っていませんが既定値の初期設定のみでカラーテーブル (COLORTBL.TXT) を読み込んでいませんでした。既定値での初期設定の後、カラーテーブルを読み込むように修正しました。

### 3.10.6 モデル呼出しで異常終了する

**【レポート番号】** B19085 **【発生】** 18.01 **【修正】** 18.19, 19.04

**【コマンド】** モデル検索

**【現象】**

モデル呼出しで異常終了する。

**【対応】**

モデル呼出しの呼出し日更新処理でフォルダ名が長い場合の処理に不具合があり修正しました。

## 【モデルダウンコンバータ】

### 3.10.7 更新できないサブモデルが発生する

**【レポート番号】** B19040 **【発生】** 18.00 **【修正】** 18.17, 19.02

**【コマンド】** モデルダウンコンバータ

**【現象】**

更新できないサブモデルが発生する。

**【対応】**

バージョン 18 および 19 のコンバータで、バージョン 17 以下のモデルに変換すると、変換後のモデルファイル内の「サブモデルの配置元ピクチャ番号」が正しくありませんでした。このモデルを呼び出すと、正しいサブモデルと認識できないために更新できませんでした。コンバータを修正しました。  
誤って変換されたモデルはバージョン 18.17 および 19.02 のモデル呼び出し時に、修復して呼び出すように修正しました。

### 3.10.8 ピクチャマトリックス、アイソメグリッドが変換されない

【レポート番号】 B19042 【発生】 19.01 【修正】 18.17, 19.02

【コマンド】 モデルダウンコンバータ

【現象】

バージョン17以前のモデルにダウンコンバートするとピクチャマトリックス、アイソメトリックグリッドが変換されない。

【対応】

ピクチャマトリックス、アイソメトリックグリッドの変換に誤りがあり修正しました。

### 3.10.9 変換後モデルが読込めない

【レポート番号】 なし 【発生】 18.01 【修正】 18.21, 19.06

【コマンド】 モデルダウンコンバータ

【現象】

モデルタイトルに半角カタカナの濁点・半濁点文字があるモデルをバージョン17以前のモデルにダウンコンバートするとヘッダーブロックのデータ構造エラーとメッセージが出てモデルを読込むことができない。

【対応】

文字列のバイト数の設定に誤りがありました。修正しました。

### 3.10.10 変換後モデルが読込めない

【レポート番号】 なし 【発生】 18.01 【修正】 18.21, 19.06

【コマンド】 モデルダウンコンバータ

【現象】

ユーザアカウント名が設定されたモデルをダウンコンバートするとヘッダーブロックのデータ構造エラーとメッセージが出てモデルを読込むことができない。

【対応】

ユーザアカウント名の変換に誤りがありました。修正しました。

### 3.10.11 変換後モデルが読込めない

【レポート番号】 なし 【発生】 18.01 【修正】 18.22, 19.07

【コマンド】 モデルダウンコンバータ

【現象】

ピクチャにウインドウが設定されたモデルをダウンコンバートすると

---

ヘッダーブロックのデータ構造エラー  
とメッセージが出てモデルを読み込むことができない。

**【対応】**

ピクチャのアクティブウインドウを保持しているテーブルの変換に誤りがありました。  
修正しました。

**【APG】**

**3.10.12 APG 形状の色が正しくない**

**【レポート番号】** B19008 **【発生】** 当初から **【修正】** 18.16, 19.01

**【コマンド】** APGPARAM、APGSET

**【現象】**

APG 配置のパラメータ設定時の APG 形状の色が、カラー割付による色にならないで、現在属性での色になる。場合によってはテンポラリ図形の色で表示されることもある。

**【対応】**

バージョン 19.00 では、APG 形状の各アイテム属性での色ではなく、現在のアイテム属性による色で表示されていました。また当初のバージョンから、ウインドウを閉じたときなどに APG 形状がテンポラリ図形の表示色にかわるがありました。常に APG 形状の各アイテムの属性による色で表示するように修正しました。

**3.10.13 APG 配置で作成した片側寸法の修正**

**【レポート番号】** B19147 **【発生】** 当初から **【修正】** 18.22, 19.07

**【コマンド】** APGPARAM、APGORG

**【現象】**

APG 配置で作成した片側寸法アイテムに、公差を追加する。その結果、片側寸法であったものが、通常の長さ寸法のように両方の寸法線が表示され、片側寸法でなくなってしまう。

これは、公差変更コマンド (ULTOL, UTOL, LTOL コマンドなど) に変更が加わったバージョン 17 以降の現象です。それ以前は公差の追加/変更をしても寸法の再作成を行いませんでした。しかし、寸法値と寸法線のバランスが悪いなどの問題があり、寸法値と寸法線の関係をより良くするよう寸法の再作成を行うように変更しました。

APG 配置で作成した長さ寸法は、両方の寸法線がある通常の長さ寸法として作成されます。片側寸法は「片側」の性質を失います。この寸法アイテムに、公差を追加すると、寸法アイテムを再作成するので、片側寸法でなくなったように見えます。公差変更コマンド以外にも寸法アイテムを再作成するコマンドは沢山あり、同様の現象が発生します。

**【対応】**

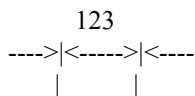
APG 配置 (APGPARAM と APGORG コマンド) を訂正し、片側寸法が「片側」の性質を保持するようにしました。

**3.10.14 APG 配置で寸法矢印が多すぎる寸法が出現**

**【レポート番号】** B19150 **【発生】** 19.00 **【修正】** 19.07

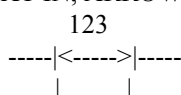
**【コマンド】 APGPARAM、APGORG****【現象】**

APG 配置で作成した寸法アイテムに寸法矢印が多すぎる誤った寸法がある。

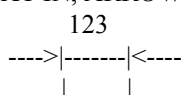
**【対応】**

APG 登録時は (TEXT-IN, ARROW-IN) の状態であった寸法アイテムが、APG 配置時に (TEXT-IN, ARROW-OUT) の状態に変わった場合に発生します。

TEXT-IN, ARROW-IN



TEXT-IN, ARROW-OUT



(TEXT-IN, ARROW-OUT) の正常な状態になるように訂正しました。APG 配置 (APGPARAM と APGORG コマンド) を訂正しました。

**3.10.15 APG 配置で風船が表示されない**

**【レポート番号】** B19151 **【発生】** 当初から **【修正】** 18.22, 19.07

**【コマンド】 APGPARAM、APGORG****【現象】**

APG 配置で風船が表示されない。これは引出し線のない風船だけです。引出し線を持つ風船は問題ありません。

Advance CAD V17 とそれ以前のバージョンでは、引出し線のない風船を作成しました。しかし、プログラムに誤りがあり、風船の本来の位置ではなく、ピクチャの原点に配置しました。その APG が含むすべての引出し線のない風船が原点に配置されます。これは、偶然、原点 (0,0) になっただけで意図したものではありません。

Advance CAD V18 からは、引出し線のない風船は作成されなくなりました。

**【対応】**

APG 配置 (APGPARAM と APGORG コマンド) を訂正し、引出し線のない風船を本来の位置に配置するようになりました。ピクチャの原点ではありません。以前と同様に原点に配置するのであれば、APG を作りなおさなければなりません。

**3.10.16 APG 配置で正しく作図できないものがある**

**【レポート番号】** B19152 **【発生】** 19.00 **【修正】** 19.07

**【コマンド】 APGPARAM****【現象】**

---

バージョン 18 以下では正しく作図される APG が、誤った形状を作図する。

**【対応】**

3 接円（ここでは 2 本の線分と円）に接する円弧の計算が失敗していました。訂正しました。

**3.10.17 APG 配置で寸法をピックしてパラメータ選択ができない**

**【レポート番号】** B19160 **【発生】** 18.00 **【修正】** 18.22, 19.07

**【コマンド】** APGPARAM

**【現象】**

APG 配置のパラメータ設定画面で、表示している APG の寸法をピックしてパラメータ選択をすることができなくなっている。寸法を選択すると”無効な入力です”のメッセージが出る。

**【対応】**

訂正しました。

**3.10.18 APG 一覧表示**

**【レポート番号】** B19162 **【発生】** 当初から **【修正】** 19.07

**【コマンド】** APG/DSP

**【現象】**

APG ファイル数が指定した一画面の表示数を超えるときは、「次頁」で次の分を表示します。このとき、APG ファイル名は正しく表示しますが、APG の形状が誤っています。APG の形状は最初の頁のものを表示しているようです。

**【対応】**

訂正しました。

**3.10.19 APG 登録：原点指定すると解析不能**

**【レポート番号】** B19185 **【発生】** 18.00 **【修正】** 18.22, 19.07

**【コマンド】** APGANAL

**【現象】**

APG ファイル作成 (APGANAL) コマンドで、原点指定をすると (APGA/ORG P) 未定義図形がたくさん残り、APG 登録が失敗します。

**【対応】**

訂正しました。

**【特性データ】**

**3.10.20 特性選択ダイアログで異常終了する (Windows 版のみ)**

**【レポート番号】** B19112 **【発生】** 当初から **【修正】** 18.20, 19.05



**【コマンド】 SPEC\_SEL****【現象】**

特性選択ダイアログで「OK」ボタンをクリックすると、異常終了することがある。

**【対応】**

修正しました。

**3.10.21 特性削除で USEACT が無効**

【レポート番号】 B19113 【発生】 19.00 【修正】 19.05

**【コマンド】 SPEC\_DEL****【現象】**

特性削除で USEACT オプションが動作しない。

**【対応】**

修正しました。

**3.10.22 特性確認で異常終了する**

【レポート番号】 B19118 【発生】 当初から 【修正】 18.20, 19.05

【コマンド】 SPEC\_INP, SPEC\_MOD, SPEC\_VER など

**【現象】**

特性項目の最大長さを 127 バイトに設定している項目がある。この項目の入力文字列の長さが 120 バイトを超えると、特性ベリファイで異常終了する。

**【対応】**

配列サイズが足りない部分があり動作が不安定でした。修正しました。

**3.10.23 特性表記削除で USEACT が無効**

【レポート番号】 B19183 【発生】 19.00 【修正】 19.07

【コマンド】 SPEC\_ERS

**【現象】**

特性データをジェネラルノート、TAG 名あるいはリファレンスノートで表示したものを除去するコマンドで、USEACT を入力しても、何もせず無視される。

**【対応】**

修正しました。

**【パーツ】****3.10.24 パーツサイズ変更でパーツアイテムの属性が変わる**

【レポート番号】 B19022 【発生】 当初から 【修正】 18.17, 19.02

---

## 【コマンド】 PSIZE

### 【現象】

パーツをサイズ変更するとパーツアイテムのレビジョンが変わってしまう。

### 【対応】

パーツサイズ変更は、変更後のパーツを新たに作成し、変更前のパーツを削除します。変更後のパーツを作成するときに、クラスは変更前のパーツから受け継いでいますが、その他の属性は現在値で作成していました。クラス、レビジョン、線種、線幅を変更前のパーツから受け継ぐように修正しました。

## 3.10.25 パーツサイズ変更すると誤ったパーツ情報になる

【レポート番号】 B19080 【発生】 19.03 【修正】 19.04

## 【コマンド】 PSIZE

### 【現象】

パーツ A (例えばボルト) のサイズ変更をするときに、変更後のサイズを画面上のパーツ B (例えば座ぐり) をピックして指定すると、変更後のパーツ A にパーツ B の情報が設定されている。

### 【対応】

修正しました。

## 【マクロ】

### 3.10.26 echo() でエラーメッセージが表示されない

【レポート番号】 B19103 【発生】 当初から 【修正】 18.20, 19.05

【マクロ関数】 echo()

### 【現象】

MENU/OFF のとき echo 関数でブザーを鳴らすために "\a" を記述すると、エラーメッセージが表示されない。

### 【対応】

修正しました。

### 3.10.27 gettpt() がスペースキー入力を受け付けない

【レポート番号】 B19110 【発生】 当初から 【修正】 18.20, 19.05

【マクロ関数】 gettpt()

### 【現象】

テンポラリポイントを得るマクロ関数 gettpt() で、スペースキー入力が受け付けられない。

### 【対応】

修正しました。

### 3.10.28 メニュー埋め込みマクロが動作しない

【レポート番号】 B19137 【発生】 18.14 【修正】 18.21, 19.06

#### 【現象】

メニューに埋め込んだマクロが動作しなくなることがある。起動直後は発生しないが、長い時間使用していると発生するとの報告がありました。メニューに埋め込んだマクロとは次のようなものです。

```
T <1,2> " 図面配置 " !DRAW/PAGE LAST!  
T <1,3> " テスト " !MACRO "TEST"!
```

最初の " 図面配置 " の埋め込みマクロは問題ないようです。二番目の " テスト " の埋め込みマクロのように、別のマクロを呼び出すところで問題が発生するようです。次のように、NEW 修飾子を挿入し、マクロの再コンパイルを指示することで回避できるようです。

```
!MACRO NEW "TEST"!
```

#### 【対応】

埋め込みマクロは、毎回再コンパイルするようにバージョン 18.14 で変更しました。それは、MENU コマンドで別のメニューに切り替えた後、埋め込みマクロを実行したとき、以前のメニューの埋め込みマクロが実行される可能性があったためです。

埋め込みマクロを毎回コンパイルするため、この埋め込みマクロがすでにコンパイルされ保持されていたら、先に取り除く処理を行いません。このマクロ除去処理に誤りがあり、訂正しました。表題の問題はこの訂正で改善されたと思われます。

#### 【同時設計】

### 3.10.29 全メンバー更新の修飾子

【レポート番号】 B19177 【発生】 18.00 【修正】 18.22, 19.07

【マクロ関数】 TON\_UPDATE

#### 【現象】

修飾子 ONN, OFF の入力が無効になっていました。デフォルトは OFF なので「更新日付の比較を行わない」でメンバーアイテムを更新していました。ONN は「モデルの更新日付がメンバー配置より新しいとき」で、この指示ができませんでした。

#### 【対応】

修正しました。

### 3.10.30 ユーザキャンパスモデルを読み込む

【レポート番号】 B19178 【発生】 当初から 【修正】 20.00

【マクロ関数】 TON\_MDL\_READ

#### 【現象】

ユーザキャンパスモデルを読み込むコマンド「TON\_MDL\_READ」で、指定したユーザキャンパスモデルが存在しない場合の処理がマニュアルと違っていました。ユーザキャンパスモデルが存在しない場合はエラーとなり何もしません。マニュアルでは次のようになっています。

- 
- 
- (1) プライベートコンカレントファイルがあれば、それに基づきコマンドを実行する
  - (2) プライベートコンカレントファイルがなければ、マスターコンカレントファイルに基づきコマンドを実行する

コンカレントファイルからモデルを構築するということです。この機能は「TON\_CALL」コマンドと同じです。

**【対応】**

修正しました。

## 3.11 システム管理者向けの機能

### 3.11.1 横長モニタへの対応

【レポート番号】 B19050 【発生】 当初から 【修正】 18.18, 19.03

**【現象】**

横長のモニターに合わせてメニューのゾーンファイルをカスタマイズした場合 Advance CAD 起動時の画面表示が正しくない。最大化ボタンをクリックすればカスタマイズしたゾーンで表示される。

**【対応】**

起動時のウインドウを、メニューゾーンファイル (USERZONE. MEN) の Graphic zone で指定した縦横比で作成するように修正しました。

**【対応】**

関数 Mdlread() の誤りを修正しました。またプログラミングマニュアルの Mdlread1() の記述の誤りを訂正しました。

### 3.11.2 メニューがウインドウにフィットしない

【レポート番号】 B19131 【発生】 18.18 【修正】 18.21, 19.06

【関数】 MENU

**【現象】**

ウインドウを最大化やリサイズした後でメニュー切換コマンドでメニューファイルを変更すると、メニュー領域がウインドウにフィットしていない。

**【対応】**

修正しました。



## 3.12 オプションソフト

### 【CADAM 変換】

#### 3.12.1 書込み処理が終わらない

【レポート番号】なし【発生】18.15【修正】18.16, 19.01

【コマンド】CADAMDB/WRITEM

#### 【現象】

書込み処理が終わらない（永久ループ）

#### 【対応】

複合アイテムに円の塗り潰しがある場合の処理に不具合がありました。修正しました。

#### 3.12.2 寸法値がメタ文字で囲われていない

【レポート番号】なし【発生】18.16【修正】18.17, 19.01

【コマンド】CADAMDB/READM

#### 【現象】

寸法値がメタ文字で囲われていない。

#### 【対応】

寸法値をメタ文字で囲う処理に不具合がありました。修正しました。

### 【DXF 変換】【DWG 変換】

#### 3.12.3 フォントが見つからない場合 MS ゴシックになる

【レポート番号】なし【発生】18.14【修正】18.15, 19.01

【コマンド】DXF/READ, DWG/READ

#### 【現象】

MTEXT 内のフォント定義でフォントが見つからない場合 MS ゴシックになってしまう。

#### 【対応】

フォントが見つからない場合はベクターフォントに変換するように修正しました。

#### 3.12.4 データが欠落する

【レポート番号】なし【発生】18.15【修正】18.16, 19.01

【コマンド】DXF/READ, DWG/READ

#### 【現象】

変換後のデータが欠落する。

---

**【対応】**

制御点が3点で1点目と2点目が同じスプラインの変換に不具合がありました。修正しました。

### **3.12.5 引出し線矢印位置が <0,0> に変換される**

**【レポート番号】** なし **【発生】** 18.15 **【修正】** 18.16, 19.01

**【コマンド】** DXF/READ, DWG/READ

**【現象】**

引出し線の矢印位置が <0,0> に変換される。

**【対応】**

PROXY の Matrix の処理に不具合がありました。修正しました。

### **3.12.6 データの範囲が制限を超えています**

**【レポート番号】** なし **【発生】** 17.00 **【修正】** 18.17, 19.02

**【コマンド】** DXF/READ, DWG/READ

**【現象】**

データの範囲が制限を超えています (-1.0E+10 ~ 1.0E+10) とメッセージが出て変換できない。

**【対応】**

制限を超えている場合は、-1.0E+10 又は 1.0E+10 にするように修正しました。

### **3.12.7 非表示の図形要素が正しく変換されない**

**【レポート番号】** なし **【発生】** 当初から **【修正】** 18.17, 19.02

**【コマンド】** DXF/READ, DWG/READ

**【現象】**

非表示の図形要素が正しく変換されない。

**【対応】**

ブロックデータ内の非表示図形の変換処理に不具合がありました。修正しました。

### **3.12.8 単位系がインチになる**

**【レポート番号】** なし **【発生】** 18.17, 19.02 **【修正】**

**【コマンド】** DXF/WRITE, DWG/WRITE

**【現象】**

Advance CAD で出力した DXF を SolidWorks で読むと単位系がインチになる。

**【対応】**

\$DIMALT の値を 25.4 から 1.0 / 25.4 に変更しました。この変更により単位系がミリになります。



### 3.12.9 ABC.DXF と入力するとエラーになる

【レポート番号】なし【発生】19.00【修正】19.04

【コマンド】DXF/WRITE, DWG/WRITE

【現象】

出力ファイル名に ABC.DXF と入力するとエラーになる。

【対応】

"." を無効な文字としていました。"." は有効な文字として処理するように修正しました。

### 3.12.10 長さ 0 の線分が追加される

【レポート番号】なし【発生】19.02【修正】19.04

【コマンド】DXF/READ, DWG/READ, DXF/WRITE, DWG/WRITE

【現象】

クローズポリラインの読み込みで最後に長さ 0 の線分が追加される。

【対応】

読み込み時終点に始点を無条件に追加していました。始点と終点が同一であれば点を追加しないように修正しました。出力時閉じているポリラインは終点を出力しないように修正しました。

### 3.12.11 DXF が Auto CAD で読込めない

【レポート番号】なし【発生】19.02【修正】19.04

【コマンド】DXF/WRITE, DWG/WRITE

【現象】

Advance CAD の DXF 書き込みでバージョン Auto CAD 2004, 2007 で出力した DXF が Auto CAD 2008 LT で読み込めない。

【対応】

9 \$XCLIPFRAME 290 0 が 9 \$XCLIPFRAME 280 0 になっていたためでした。この項目は出力しないように修正しました。

### 3.12.12 変換後の図形が崩れている

【レポート番号】なし【発生】19.02【修正】19.04

【コマンド】DXF/READ, DWG/READ

【現象】

変換後の図形が崩れている。

【対応】

読み込み時丸め処理をすることで読込んだ場合で座標値を丸めをする桁で整数値にしたときに 9 桁を超える場合に不具合が発生していました。丸めの処理を単精度整数値（9 桁）から倍精度整数値（18 桁）に修正しました。

---

### 3.12.13 変換後の線幅が 2 になる

【レポート番号】なし【発生】19.02【修正】19.04

【コマンド】DXF/READ, DWG/READ

#### 【現象】

変換後の線幅が 2 になる (1 が正解)。

#### 【対応】

既定線幅の処理に不具合がありました。修正しました。

### 3.12.14 寸法線の矢印が片側に 2 個付く

【レポート番号】なし【発生】18.17【修正】18.19, 19.04

【コマンド】DXF/READ, DWG/READ

#### 【現象】

寸法線の矢印が片側に 2 個付く。

#### 【対応】

オーバーシュート長がゼロの寸法線の変換に不具合がありました。修正しました。

### 3.12.15 ブランクアイテムが変換される

【レポート番号】なし【発生】19.06【修正】19.07

【コマンド】DXF/WRITE, DWG/WRITE

#### 【現象】

ブランクコマンドで非表示にしたアイテムが変換される

#### 【対応】

ブランクアイテムの処理に不具合がありました。修正しました。

### 3.12.16 書込みエラーで書込みができない

【レポート番号】なし【発生】14.00【修正】18.22、19.07

【コマンド】DXF/WRITE, DWG/WRITE

#### 【現象】

“書込みエラー”とメッセージが出て書込みできない。

または、出力した DXF を読み込むと”処理を中断しました”とメッセージが出て読み込みできない。

#### 【対応】

シンボル、サブモデル内の最後のアイテムが非表示の場合の処理に不具合がありました。修正しました。

**【ACADWorks (Windows 版のみ)】****3.12.17 スプラインの形状が不正**

【レポート番号】 B19001 【発生】 当初から 【修正】 18.16, 19.01

【コマンド】 SWAT/DREAD

**【現象】**

SolidWorks から Advance CAD への図形転送で、スプラインの形状が正しく転送されない場合がある。

**【対応】**

転送するスプラインの点列に重複点がある場合の処理を修正しました。

**3.12.18 メモリリーク**

【レポート番号】 B19002 【発生】 当初から 【修正】 18.16, 19.01

【コマンド】 SWAT/DREAD

**【現象】**

SolidWorks から Advance CAD への図形転送で、スプラインを作成する時、メモリリークが発生する場合がある。

**【対応】**

スプラインを作成する処理で、割付たメモリを開放しない場合があり、修正しました。

**3.12.19 寸法の転送が中断 (寸法名)**

【レポート番号】 B19116 【発生】 当初から 【修正】 20.00

【コマンド】 SWAT/DREAD

**【現象】**

SolidWorks から Advance CAD への図形転送で、ビューに同一名の寸法が存在すると転送が中断する。

**【対応】**

ビューに存在する寸法の名前がユニークであるという前提を中止した。代わりに、順番が同じであると前提にした。SolidWorks 2010 では、うまく動作している。

**3.12.20 寸法の転送が中断 (寸法引出し線)**

【レポート番号】 B19117 【発生】 当初から 【修正】 20.00

【コマンド】 SWAT/DREAD

**【現象】**

SolidWorks から Advance CAD への図形転送で、線形寸法の引出し線が 2 本以上の直線で構成されると、転送が中断する。

**【対応】**

---

寸法線から得られた直線の本数で領域を確保するように変更した。SolidWorks 2011 では、うまく動作している。

## 【P&ID】

### 3.12.21 配管ラインを結合する

【レポート番号】 B19169 【発生】 19.00 【修正】 19.07

【コマンド】 PID\_MRG

#### 【現象】

2本の配管ラインをひとつに結合しようとするが機能しない。

#### 【対応】

修正しました。

### 3.12.22 矢羽根の相手番地を表示

【レポート番号】 B19172 【発生】 18.00 【修正】 19.07

【コマンド】 PID\_YAB

#### 【現象】

矢羽根シンボルの相手の番地が表示されず、非表示のままになっている。

#### 【対応】

修正しました。

### 3.12.23 特性番号切り替え後のシンボルサイズ

【レポート番号】 B19174 【発生】 当初から 【修正】 18.22, 19.07

【コマンド】 PID\_CAT

#### 【現象】

PID\_CAT コマンドは特性データ番号（テンプレートファイル番号）を切り替えます。そしてこの特性データ番号の以前の入力ステータスを回復します。

たとえば、弁シンボルならば、配置していたシンボルの名称、倍率を復元します。続いてPID\_SYM コマンドを実行すると、先ほどPID\_CAT が復元した情報で、弁シンボルを配置します。この復元過程に誤りがあり、以前の倍率が3だと倍率9（=3 x 3）でシンボルのドラッグを開始します。

倍率が1であれば問題ありません。

#### 【対応】

修正しました。

# 索引

<b>A</b>			
APG/DSP .....	71		
APGANAL .....	72		
APGPARAM .....	72,	73	
ARY .....	31		
<b>C</b>			
CLIP_OUTL .....	13		
CLIPPER .....	13,	14	
CLIP_PLY .....	13		
CNTLIN .....	25		
COLORGEN .....	77		
COPY .....	31		
<b>D</b>			
DIM/ALN .....	27,	28	
DIM/WITMOVE .....	26		
DMR .....	26,	28	
DMR/MOD .....	27		
DOC/RAS .....	44		
DRAW/RAS .....	44		
DRF/EDIT .....	25		
DTEXT/DENIAL .....	21		
DWG/READ .....	79,	80	
DWG/WRITE .....	79,	80	
DXF/LTYPE .....	80		
DXF/LWIDTH .....	80		
DXF/READ .....	79,	80	
DXF/TEXT .....	87,	89	
DXF/WRITE .....	79,	80	
<b>E</b>			
EXPAND .....	31		
<b>G</b>			
GNT/CONNECT .....	18		
GNT/PURGE .....	19		
GNT/SPLIT .....	18		
<b>H</b>			
HCOPY .....	40		
HCOPY/PRINT .....	37,	40	
<b>I</b>			
ISOITM .....	43		
ITM/MERGE .....	16		
<b>L</b>			
LADV .....	13		
<b>M</b>			
mdlconv .....	70		
mdlconv_dlg .....	71		
MIRROR .....	31		
MODEL/DSP .....	33		
MODEL/MRU .....	33		
MOVE .....	31		
MOVE/HOR .....	31		
MOVE/VRT .....	31		
MRU/COUNT .....	47		
<b>P</b>			
PARTS .....	75		
PIC .....	6,	37	
PNUM/DSP .....	5		
PSIZE .....	74,	75	
PVER .....	75		
<b>Q</b>			
QPLOT .....	40		
QPLOT/PRINT .....	37,	40	
<b>R</b>			
RARY .....	31		
RARY/ROT .....	31		
RAS/ADD .....	43		
RAS/REL .....	43		
ROTATE .....	31		
RVP/SCF .....	47		
<b>S</b>			
SECTION .....	23,	24	
SLO .....	11		
Solaris 版 .....	1		
STRETCH .....	31		
SUB/DSP .....	33		
SUB/LST .....	29		
SUB/ULS .....	29		
SWAT/SKETCH .....	95		
SXF .....	3		
SXF/ATTRSET .....	49		
SXF/CONFIRM .....	62		
SXF/READ .....	49		
SXF/SFIG_DEL .....	52,	56	
SXF/TTL_CRE .....	49		
SXF/WRITE .....	49		
SYM/DSP .....	33		
SYM/LST .....	29		
<b>T</b>			
TEXT/DENIAL .....	21		
TEXT/DOUBLE .....	22		
TEXT/SIZE .....	17		
True Color .....	1		
<b>V</b>			
VER .....	11		
VER/CNR .....	11		
VIE .....	37		
VIEB .....	12		
Visual C++ .....	1		
<b>W</b>			
WIN .....	37		
Windows 版 .....	1		

ふ

プログラミングインターフェイス 4

注釈の編集 ..... 4